

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第5217135号
(P5217135)

(45) 発行日 平成25年6月19日(2013.6.19)

(24) 登録日 平成25年3月15日(2013.3.15)

(51) Int.Cl.
A63F 5/04

(2006.01)

F 1

A 6 3 F 5/04 5 1 6 E
A 6 3 F 5/04 5 1 6 F
A 6 3 F 5/04 5 1 6 D

請求項の数 1 (全 61 頁)

(21) 出願番号	特願2006-251283 (P2006-251283)
(22) 出願日	平成18年9月15日 (2006.9.15)
(65) 公開番号	特開2008-68007 (P2008-68007A)
(43) 公開日	平成20年3月27日 (2008.3.27)
審査請求日	平成21年8月26日 (2009.8.26)

(73) 特許権者	000144522 株式会社三洋物産 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号
(74) 代理人	100121821 弁理士 山田 強
(72) 発明者	石田 裕司 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社 三洋物産 内
(72) 発明者	外山 光顧 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社 三洋物産 内
(72) 発明者	那須 隆 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社 三洋物産 内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数種の絵柄を循環表示させる循環表示手段と、

前記絵柄の循環表示を開始させるべく操作される始動操作手段と、

役毎に当選情報が定められた当選情報群を記憶する当選情報群記憶手段と、

前記始動操作手段の操作に基づき、前記当選情報群を用いて役の抽選を行う抽選手段と、

前記始動操作手段の操作に基づいて前記絵柄の循環表示を開始させると共に、前記抽選手段の抽選結果に基づいて前記絵柄の循環表示を停止させるよう前記循環表示手段を表示制御する表示制御手段と、

前記絵柄の循環表示が停止し、前記役の抽選結果と対応する当選絵柄が予め定めた有効位置に停止した場合、入賞成立として特典を付与する特典付与手段と、

所定条件が成立した場合、通常遊技状態より遊技者に有利な特別遊技状態に移行させる遊技状態移行手段と

を備えた遊技機において、

第1所定役に関する第1当選情報と、第2所定役に関する第2当選情報との少なくとも一部が重複するように前記各当選情報が定められた特定当選情報群を前記当選情報群記憶手段に記憶させ、

前記役の抽選結果が前記第1所定役及び前記第2所定役と共に当選である場合、前記第1所定役と対応する第1所定入賞を成立させることができれば当該第1所定入賞を優

先して成立させるように前記循環表示手段を表示制御する特定表示制御手段と、遊技状態が前記特別遊技状態である場合、前記特定当選情報群における前記第1当選情報と前記第2当選情報の重複度合いが小さくなるように前記第1当選情報を変更する当選情報変更手段とを備え、

前記当選情報変更手段は、前記第1当選情報のうち前記第2当選情報と重複しない単独情報を変更しないことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

本発明は、スロットマシン等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

複数のリールを回転させたあとに停止させる遊技機としては、例えばスロットマシンがある。スロットマシンでは、遊技者がスタートレバーを操作することでスロットマシンの内部にてボーナス役や小役等の各役の抽選が抽選テーブルを用いて行われると共に各リールが回転を開始し、各リールが回転を開始した後に遊技者がストップスイッチを操作することで各リールが順次停止する。そして、全てのリールが回転を停止した際に有効ライン上に当選した役と対応する図柄の組合せ等が停止すると入賞となり、例えば小役入賞が成立した場合には所定枚数のメダルが払い出される特典が遊技者に付与され、ボーナス役入賞等が成立した場合には遊技状態がビッグボーナスゲームやリプレイタイムゲーム等の遊技者に有利な特別遊技状態に移行する特典が遊技者に付与される。遊技状態が特別遊技状態に移行すると、所定入賞等の成立する確率が通常遊技状態下における前記所定入賞の成立する確率と比して高くなる。このため遊技者は、遊技状態が特別遊技状態に移行すると、通常遊技状態よりメダルを多く獲得できる等の遊技者にとって有利な状態で遊技を行うことができる（例えば特許文献1参照）。

20

【0003】

ここで、遊技状態の変化等によって所定入賞等の確率の変化を好適に行うことが望まれている。

【0004】

30

なお、以上の問題は、ボーナス役入賞等が成立した場合に特別遊技状態に移行するスロットマシンに限らず、所定条件が成立した場合に特別遊技状態に移行する他のスロットマシンにも該当する問題である。また、スロットマシンに限らず、内部抽選に基づいて複数種の絵柄を変動表示させると共に変動表示を終了させ、変動表示の終了結果に基づいた特典を付与する他の遊技機にも該当する問題である。

【特許文献1】特開2006-141717号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

40

本発明は上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、遊技状態の変化等によって所定入賞等の確率の変化を好適に行うことが可能な遊技機を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決するため、請求項1に記載の発明は、

複数種の絵柄を循環表示させる循環表示手段と、

前記絵柄の循環表示を開始させるべく操作される始動操作手段と、

役毎に当選情報が定められた当選情報群を記憶する当選情報群記憶手段と、

前記始動操作手段の操作に基づき、前記当選情報群を用いて役の抽選を行う抽選手段と

50

前記始動操作手段の操作に基づいて前記絵柄の循環表示を開始させると共に、前記抽選手段の抽選結果に基づいて前記絵柄の循環表示を停止させるよう前記循環表示手段を表示制御する表示制御手段と、

前記絵柄の循環表示が停止し、前記役の抽選結果と対応する当選絵柄が予め定めた有効位置に停止した場合、入賞成立として特典を付与する特典付与手段と、

所定条件が成立した場合、通常遊技状態より遊技者に有利な特別遊技状態に移行させる遊技状態移行手段と

を備えた遊技機において、

第1所定役に関する第1当選情報と、第2所定役に関する第2当選情報との少なくとも一部が重複するように前記各当選情報が定められた特定当選情報群を前記当選情報群記憶手段に記憶させ、

前記役の抽選結果が前記第1所定役及び前記第2所定役と共に当選である場合、前記第1所定役と対応する第1所定入賞を成立させることができれば当該第1所定入賞を優先して成立させるように前記循環表示手段を表示制御する特定表示制御手段と、

遊技状態が前記特別遊技状態である場合、前記特定当選情報群における前記第1当選情報と前記第2当選情報の重複度合いが小さくなるように前記第1当選情報を変更する当選情報変更手段と

を備え、

前記当選情報変更手段は、前記第1当選情報のうち前記第2当選情報と重複しない単独情報を変更しないことを特徴とする。

10

【発明の効果】

【0007】

本発明によれば、遊技状態の変化等によって所定入賞等の確率の変化を好適に行うこと
が可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、上記課題を解決するのに有効な手段等につき、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお以下においては、理解の容易のため、発明の実施の形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

30

【0009】

手段1．複数種の絵柄（図柄）を循環表示させる循環表示手段（リール42L，42M，42R、ステッピングモータ61L，61M，61R）と、

前記絵柄の循環表示を開始させるべく操作される始動操作手段（スタートレバー71）と、

前記絵柄の循環表示を停止させるべく操作される停止操作手段（ストップスイッチ72～74）と、

役毎に当選情報（当選領域LT）が定められた当選情報群（抽選テーブル）を記憶する当選情報群記憶手段（ROM152）と、

前記始動操作手段の操作に基づき、前記当選情報群を用いて役の抽選を行う抽選手段（主制御装置131の抽選処理機能）と、

40

前記始動操作手段の操作に基づいて前記絵柄の循環表示を開始させると共に、前記停止操作手段の操作に基づいて前記絵柄の循環表示を停止させるよう前記循環表示手段を表示制御する表示制御手段（主制御装置131のスペリテープル設定処理機能及びリール制御処理機能）と、

前記絵柄の循環表示が停止し、前記役の抽選結果と対応する当選絵柄が予め定めた有効位置（有効ライン）に停止した場合、入賞成立として特典を付与する特典付与手段（主制御装置131のメダル払出処理機能等）と、

所定条件が成立した場合、通常遊技状態（通常ゲーム状態）より遊技者に有利な特別遊技状態（RTゲーム状態）に移行させる遊技状態移行手段（主制御装置131のRT開始

50

処理 S 1 9 0 4) と

を備えた遊技機において、

第 1 所定役 (再遊技 1) に関する第 1 当選情報 (第 7 当選領域 L T 7) と、第 2 所定役 (S B) に関する第 2 当選情報 (第 6 当選領域 L T 6) との少なくとも一部が重複するよう前記各当選情報が定められた特定当選情報群 (通常ゲーム用抽選テーブル) を前記当選情報群記憶手段に記憶させ、

前記役の抽選結果が前記第 1 所定役及び前記第 2 所定役に共に当選である場合、前記第 1 所定役と対応する第 1 所定入賞 (再遊技入賞) を成立させることができれば当該第 1 所定入賞を優先して成立させるように前記循環表示手段を表示制御する特定表示制御手段 (再遊技 1 当選フラグがセットされている場合におけるスペリテープル設定処理機能及びリール制御処理機能) と、

遊技状態が前記特別遊技状態である場合、前記特定当選情報群における前記第 1 当選情報と前記第 2 当選情報の重複度合いが大きく又は小さくなるように前記第 1 当選情報を変更する当選情報変更手段 (主制御装置 1 3 1 の第 7 当選領域減縮処理 S 9 0 7) を備えたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 1 0 】

手段 1 によれば、第 1 所定役に関する第 1 当選情報と、第 2 所定役に関する第 2 当選情報との少なくとも一部が重複するよう各当選情報が定められた特定当選情報群が当選情報群記憶手段に記憶されている。そして、遊技状態が特別遊技状態である場合、特定当選情報群における第 1 当選情報と第 2 当選情報の重複度合いが大きく又は小さくなるように第 1 当選情報が変更される。かかる構成とすることにより、例えば通常遊技状態下で役の抽選を行うための当選情報群と特別遊技状態下で役の抽選を行うための当選情報群とを個別に記憶せずとも第 1 所定役に当選する確率を変化させることができることが可能となり、第 1 所定入賞の成立する確率を変化させることができるよう第 1 当選情報を変更することにより、第 1 所定入賞の成立する確率を変化させることができるのみならず、第 2 所定役と対応する第 2 所定入賞が成立する確率をも通常遊技状態下と特別遊技状態下で変化させることができるよう。

【 0 0 1 1 】

さらに、第 1 所定役及び第 2 所定役に共に当選である場合、第 1 所定入賞を成立させることができれば当該第 1 所定入賞を優先して成立させる循環表示手段が表示制御される構成において第 1 当選情報を変更することにより、特定当選情報群に定められた第 2 当選情報や他の情報を変更することなく第 2 所定役と対応する第 2 所定入賞が成立する確率を変化させることができるよう。故に、比較的簡易なプログラムにより、第 1 所定入賞と第 2 所定入賞が成立する確率を変化させることができる。

【 0 0 1 2 】

以上の結果、予め記憶させるデータ量の低減を図りつつ、通常遊技状態下と特別遊技状態下で所定入賞の成立する確率を変化させることができる。

【 0 0 1 3 】

手段 2 . 上記手段 1 において、遊技状態が前記特別遊技状態である場合に、前記第 2 当選情報を変更する第 2 当選情報変更手段を非具備とすることを特徴とする遊技機。

【 0 0 1 4 】

手段 2 によれば、遊技状態が特別遊技状態である場合、第 1 当選情報と第 2 当選情報のうち第 1 当選情報のみが変更される。かかる構成とした場合であっても、特定当選情報群における第 1 当選情報と第 2 当選情報の重複度合いが大きく又は小さくなるように第 1 当選情報を変更する構成においては、第 2 所定役と対応する第 2 所定入賞が成立する確率をも変化させができる。故に、比較的簡易なプログラムにより、第 1 所定入賞と第 2 所定入賞が成立する確率を変化させることができ、予め記憶させるデータ量の低減を図ることが可能となる。

【 0 0 1 5 】

10

20

30

40

50

手段3．上記手段1又は手段2において、前記当選情報変更手段は、前記第1当選情報のうち前記第2当選情報と重複する重複情報のみを変更することを特徴とする遊技機。

【0016】

手段3によれば、第1当選情報のうち第2当選情報と重複する重複情報のみを変更するため、特定当選情報群のうち第1当選情報以外の情報を変更することなく第1所定入賞と第2所定入賞が成立する確率を変化させることができる。

【0017】

手段4．上記手段1又は手段2において、前記当選情報変更手段は、前記第1当選情報のうち前記第2当選情報と重複しない単独情報を変更しないことを特徴とする遊技機。

【0018】

手段4によれば、第1当選情報のうち第2当選情報と重複しない単独情報は変更しないため、特定当選情報群のうち第1当選情報以外の情報を変更することなく第1所定入賞と第2所定入賞が成立する確率を変化させることができる。

【0019】

手段5．上記手段1乃至手段4のいずれかにおいて、前記循環表示手段は、周方向に周回すると共に、該周方向に複数種の絵柄（図柄）が付された周回体（リール42L，42M，42R）を有し、

前記特典付与手段は、前記周回体に付された第1所定絵柄（再遊技図柄）が前記有効位置に停止した場合に前記第1所定入賞成立として第1所定特典を付与し、

前記特定表示制御手段は、前記停止操作手段の操作タイミングから予め定めた規定期間（190 msec）に対応する周回体の周回を停止させるよう停止制御するものであって、前記規定期間に前記第1所定絵柄を前記有効位置に到達させることができる場合、前記第1所定絵柄が優先して前記有効位置に停止するよう前記周回体を停止制御することを特徴とする遊技機。

【0020】

手段5によれば、停止操作手段の操作タイミングから予め定めた規定期間に第1所定絵柄を有効位置に到達させることができる場合、第1所定絵柄が優先して有効位置に停止するよう周回体が停止制御される。かかる構成とすることにより、第1所定役及び第2所定役に共に当選である場合に、第1所定入賞を優先して成立させることができる。

【0021】

手段6．上記手段1乃至手段5のいずれかにおいて、前記循環表示手段は、周方向に周回すると共に、該周方向に複数種の絵柄（図柄）が付された周回体（リール42L，42M，42R）を有し、

前記表示制御手段は、前記停止操作手段の操作タイミングから予め定めた規定期間（190 msec）に前記周回体の周回を停止させるよう前記循環表示手段を表示制御すると共に、前記周回体の周回を停止させる停止態様として、前記停止操作手段の操作タイミングで前記有効位置に到達している到達絵柄を当該有効位置に停止させる停止態様と、前記到達絵柄を前記周回体の周回する側に予め定めた絵柄数（1～4図柄）分だけ移動させた後に停止させる停止態様と、のうち複数の停止態様を有し、

前記特典付与手段は、前記周回体に付された第1所定絵柄（再遊技図柄）が前記有効位置に停止した場合に前記第1所定入賞成立として第1所定特典を付与し、

前記周回体には、前記有効位置に先に到達する第1所定絵柄と前記有効位置に次に到達する第1所定絵柄の間隔が、前記規定期間に前記到達絵柄の移動できる最大絵柄数（4図柄）以下となるように、前記第1所定絵柄を付したことを特徴とする遊技機。

【0022】

手段6によれば、周回体には、有効位置に先に到達する第1所定絵柄と有効位置に次に到達する第1所定絵柄の間隔が、規定期間に到達絵柄の移動できる最大絵柄数以下となるように、第1所定絵柄が付されている。かかる構成とすることにより、第1所定役に当選した場合には、停止操作手段の操作タイミングに関わらず有効位置に第1所定絵柄を停止させることができ、第1所定入賞を成立させることができる。故に、第1所定役と第2所

10

20

30

40

50

定役に共に当選している状況下における周回体の停止制御を比較的簡易なものとすることが可能となる。また、第1所定役と第2所定役に共に当選している状況下において、絵柄を狙って停止操作手段を操作する遊技者の技量差により各所定入賞の成立する確率が変化することを回避することが可能となる。

【0023】

手段7. 上記手段1乃至手段6のいずれかにおいて、前記循環表示手段は、周方向に周回すると共に、該周方向に複数種の絵柄(図柄)が付された周回体(リール42L, 42M, 42R)を有し、

前記表示制御手段は、前記停止操作手段の操作タイミングから予め定めた規定期間(190 msec)に前記周回体の周回を停止させるよう前記循環表示手段を表示制御すると共に、前記周回体の周回を停止させる停止態様として、前記停止操作手段の操作タイミングで前記有効位置に到達している到達絵柄を当該有効位置に停止させる停止態様と、前記到達絵柄を前記周回体の周回する側に予め定めた絵柄数(1~4図柄)分だけ移動させた後に停止させる停止態様と、のうち複数の停止態様を有し、

前記特典付与手段は、前記周回体に付された第2所定絵柄(SB図柄)が前記有効位置に停止した場合に前記第2所定役と対応する第2所定入賞(SB入賞)成立として第2所定特典を付与し、

前記周回体には、前記有効位置に先に到達する第2所定絵柄と前記有効位置に次に到達する第2所定絵柄の間隔が、前記規定期間に前記到達絵柄の移動できる最大絵柄数(4図柄)以下となるように、前記第2所定絵柄を付したことを特徴とする遊技機。

【0024】

手段7によれば、周回体には、有効位置に先に到達する第2所定絵柄と、有効位置に次に到達する第2所定絵柄の間隔が、規定期間に到達絵柄の移動できる最大絵柄数以下となるように、第2所定絵柄が付されている。かかる構成とすることにより、少なくとも第2所定役のみに当選した場合には、停止操作手段の操作タイミングに関わらず有効位置に第2所定絵柄を停止させることができ、第2所定入賞を成立させることができる。故に、特別遊技状態下で第2所定入賞の成立する確率を変化させたにも関わらず、実際に第2所定入賞の成立する機会が通常遊技状態下と変わらない不具合が生じることを抑制することが可能となる。

【0025】

手段8. 上記手段1乃至手段7のいずれかにおいて、前記特典付与手段は、前記第2所定役と対応する第2所定入賞(SB入賞)が成立した場合、前記第1所定入賞が成立した場合より遊技者の有利度合いが大きな特典を付与することを特徴とする遊技機。

【0026】

手段8によれば、第2所定入賞が成立した場合、第1所定入賞が成立した場合より遊技者の有利度合いが大きな特典が付与される。かかる構成とすることにより、通常遊技状態と特別遊技状態における有利度合いの差異を、第2所定入賞が成立する確率の差異と対応付けることが可能となり、比較的容易に特別遊技状態下における遊技者の有利度合いを高めることができることが可能となる。

【0027】

手段9. 上記手段8において、前記当選情報変更手段は、前記特定当選情報群における前記第1当選情報と前記第2当選情報の重複度合いが小さくなるように前記第1当選情報を変更することを特徴とする遊技機。

【0028】

手段9によれば、特別遊技状態下では、特定当選情報群における第1当選情報と第2当選情報の重複度合いが小さくなるように第1当選情報が変更される。かかる構成とすることにより、特別遊技状態下における第2所定入賞の成立する確率を通常遊技状態と比して高くすることができ、特別遊技状態下における遊技者の有利度合いを高めることが可能となる。

【0029】

10

20

30

40

50

手段10．上記手段8又は手段9において、前記特定当選情報群では、前記第1当選情報と前記第2当選情報が全て一致するように前記各当選情報を定め、前記当選情報変更手段は、変更後の第1当選情報が前記第2当選情報と全て一致するように、且つ前記第2当選情報の一部が前記変更後の第1当選情報と一致しないように、前記第1当選情報を変更することを特徴とする遊技機。

【0030】

手段10によれば、特定当選情報群には、第1当選情報と第2当選情報とが全て一致するように各当選情報が定められており、特別遊技状態下では、変更後の第1当選情報が第2当選情報と全て一致するように、且つ第2当選情報の一部が変更後の第1当選情報と一致しないように、第1当選情報が変更される。かかる構成とすることにより、特定当選情報群に定められた第1当選情報以外の当選情報を変更することなく第1所定入賞と第2所定入賞の成立する確率を変更することが可能となり、比較的簡易なプログラムで第1所定入賞と第2所定入賞の成立する確率を変化させることが可能となる。

10

【0031】

手段11．上記手段1乃至手段10のいずれかにおいて、遊技媒体（メダル、仮想メダル）の受入を検出する受入検出手段（投入メダル検出センサ75a及びクレジット投入検出センサ77a～79a確認処理機能S207）を備え、前記抽選手段は、前記遊技媒体の受入と前記始動操作手段の操作に基づいて前記役の抽選を行い、前記特典付与手段は、前記第1所定入賞が成立した場合、前記遊技媒体の受入を検出することなく次回の遊技を可能とする再遊技の特典を付与することを特徴とする遊技機。

20

【0032】

手段11によれば、第1所定入賞が成立した場合、遊技媒体の受入を検出することなく次回の遊技を可能とする再遊技の特典が付与される。入賞成立となった場合に再遊技の特典が付与される第1所定役に関する第1当選情報を特別遊技状態下で変更することにより、遊技者の所有する遊技媒体の増減に関わる役の当選確率を変更することなく第2所定役と対応する第2所定入賞が成立する確率を変化させることができるとなる。

【0033】

手段12．上記手段1乃至手段11のいずれかにおいて、前記特典付与手段は、前記第2所定役と対応する第2所定入賞（SB入賞）が成立した場合、所定の終了条件が成立するまで、遊技状態を遊技者に有利な特定遊技状態（SBゲーム状態）に移行させる特典を付与することを特徴とする遊技機。

30

【0034】

手段12によれば、第2所定入賞が成立した場合、所定の終了条件が成立するまで、遊技状態が遊技者に有利な特定遊技状態に移行される。かかる第2所定役に関する第2当選情報と第1所定役に関する第1当選情報との少なくとも一部を重複させ、特別遊技状態下で第1当選情報を変更する構成とすることにより、遊技の健全性を担保しつつ、第2所定入賞が成立する確率を変化させることができる。

【0035】

手段13．上記手段1乃至手段12のいずれかにおいて、前記遊技状態移行手段は、前記役の抽選結果が特別役（RT役）当選であって、前記特別役と対応する特別絵柄（RT図柄）が前記有効位置に停止した場合に、遊技状態を前記特別遊技状態に移行させることを特徴とする遊技機。

40

【0036】

本発明は、特別絵柄が有効位置に停止したことを条件として遊技状態が特別遊技状態に移行する遊技機に適用することができる。

【0037】

手段14．上記手段1乃至手段13のいずれかにおいて、前記始動操作手段の操作に基づいて、所定範囲の数値情報から1の数値情報（乱数RN）を取得する数値情報取得手段（主制御装置131の乱数取得機能S701）を備え、

前記当選情報群記憶手段は、前記所定範囲の数値情報が当選となる役又は外れとそれぞ

50

れ対応付けられた当選情報群を記憶し、

前記抽選手段は、前記当選情報群と、前記数値情報取得手段の取得した数値情報とを用いて当たり外れの判定を行うことを特徴とする遊技機。

【0038】

所定範囲の数値情報が当選となる役又は外れとそれぞれ対応付けられた当選情報群を記憶し、当該当選情報群と取得した数値情報を用いて当たり外れの判定を行う場合、遊技状態に応じた当選情報群を個別に用意すると、予め記憶させるデータ量が多大なものとなる。しかしながら、第1所定役に関する第1当選情報と、第2所定役に関する第2当選情報との少なくとも一部が重複するように各当選情報が定められた特定当選情報群を記憶させると共に、特別遊技状態下で第1当選情報を変更する構成とすることにより、予め記憶させるデータ量の低減を図ることが可能となる。

10

【0039】

手段15. 複数種の絵柄(図柄)を循環表示させる循環表示手段(リール42L, 42M, 42R、ステッピングモータ61L, 61M, 61R)と、

前記絵柄の循環表示を開始させるべく操作される始動操作手段(スタートレバー71)と、

役毎に当選情報(当選領域LT)が定められた当選情報群(抽選テーブル)を記憶する当選情報群記憶手段(ROM152)と、

前記始動操作手段の操作に基づき、前記当選情報群を用いて役の抽選を行う抽選手段(主制御装置131の抽選処理機能)と、

20

前記始動操作手段の操作に基づいて前記絵柄の循環表示を開始させると共に、前記抽選手段の抽選結果に基づいて前記絵柄の循環表示を停止させるよう前記循環表示手段を表示制御する表示制御手段(主制御装置131のスペリテープル設定処理機能及びリール制御処理機能)と、

前記絵柄の循環表示が停止し、前記役の抽選結果と対応する当選絵柄が予め定めた有効位置(有効ライン)に停止した場合、入賞成立として特典を付与する特典付与手段(主制御装置131のメダル払出処理機能等)と、

所定条件が成立した場合、通常遊技状態(通常ゲーム状態)より遊技者に有利な特別遊技状態(RTゲーム状態)に移行させる遊技状態移行手段(主制御装置131のRT開始処理S1904)と

30

を備えた遊技機において、

第1所定役(再遊技1)に関する第1当選情報(第7当選領域LT7)と、第2所定役(SB)に関する第2当選情報(第6当選領域LT6)との少なくとも一部が重複するよう前記各当選情報が定められた特定当選情報群(通常ゲーム用抽選テーブル)を前記当選情報群記憶手段に記憶させ、

前記役の抽選結果が前記第1所定役及び前記第2所定役と共に当選である場合、前記第1所定役と対応する第1所定入賞(再遊技入賞)を成立させることができれば当該第1所定入賞を優先して成立させるように前記循環表示手段を表示制御する特定表示制御手段(再遊技1当選フラグがセットされている場合におけるスペリテープル設定処理機能及びリール制御処理機能)と、

40

遊技状態が前記特別遊技状態である場合、前記特定当選情報群における前記第1当選情報と前記第2当選情報の重複度合いが大きく又は小さくなるように前記第1当選情報を変更する当選情報変更手段(主制御装置131の第7当選領域減縮処理S907)とを備えたことを特徴とする遊技機。

【0040】

手段15によれば、第1所定役に関する第1当選情報と、第2所定役に関する第2当選情報との少なくとも一部が重複するよう各当選情報が定められた特定当選情報群が当選情報群記憶手段に記憶されている。そして、遊技状態が特別遊技状態である場合、特定当選情報群における第1当選情報と第2当選情報の重複度合いが大きく又は小さくなるよう第1当選情報が変更される。かかる構成とすることにより、例えば通常遊技状態下で役

50

の抽選を行うための当選情報群と特別遊技状態下で役の抽選を行うための当選情報群とを個別に記憶させずとも第1所定役に当選する確率を変化させることが可能となり、第1所定入賞の成立する確率を変化させることが可能となる。また、特定当選情報群における第1当選情報と第2当選情報の重複度合いが大きく又は小さくなるように第1当選情報を変更することにより、第1所定入賞の成立する確率を変化させることができるのみならず、第2所定役と対応する第2所定入賞が成立する確率をも通常遊技状態下と特別遊技状態下で変化させることが可能となる。

【0041】

さらに、第1所定役及び第2所定役に共に当選である場合、第1所定入賞を成立させることができれば当該第1所定入賞を優先して成立させるように循環表示手段が表示制御される構成において第1当選情報を変更することにより、特定当選情報群に定められた第2当選情報や他の情報を変更することなく第2所定役と対応する第2所定入賞が成立する確率を変化させることができるとなる。故に、比較的簡易なプログラムにより、第1所定入賞と第2所定入賞が成立する確率を変化させることができるとなる。10

【0042】

以上の結果、予め記憶させるデータ量の低減を図りつつ、通常遊技状態下と特別遊技状態下で所定入賞の成立する確率を変化させることができるとなる。

【0043】

以下、遊技機の一種である回胴式遊技機、具体的にはスロットマシンに適用した場合の一実施の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。図1はスロットマシン10の正面図、図2はスロットマシン10の前面扉12を閉じた状態の斜視図、図3はスロットマシン10の前面扉12を開いた状態の斜視図、図4は前面扉12の背面図、図5は筐体11の正面図である。20

【0044】

図1～図5に示すように、スロットマシン10は、その外殻を形成する筐体11を備えている。筐体11は、木製板状に形成された天板11a、底板11b、背板11c、左側板11d及び右側板11eからなり、隣接する各板11a～11eが接着等の固定手段によって固定されることにより、全体として前面を開放した箱状に形成されている。なお、各板11a～11eは木製のパネルによって構成する以外に、合成樹脂製パネル又は金属製パネルによって構成してもよいし、合成樹脂材料又は金属材料によって一体の箱状に形成することによって構成してもよい。以上のように構成された筐体11は、遊技ホールへの設置の際にいわゆる島設備に対し釘を打ち付ける等して取り付けられる。30

【0045】

筐体11の前面側には、前面開閉扉としての前面扉12が開閉可能に取り付けられている。すなわち、筐体11の左側板11dには、上下一対の支軸25a、25bが設けられている。支軸25a、25bは上方に向けて突出された先細り形状の軸部を備えている。一方、前面扉12には、各支軸25a、25bに対応して当該支軸25a、25bの軸部が挿入される挿入孔を備えた支持金具26a、26bが設けられている。そして、各支軸25a、25bの上方に支持金具26a、26bを配置させた上で前面扉12を降下させることにより、支持金具26a、26bの挿入孔に支軸25a、25bの軸部が挿入された状態とされる。これにより、前面扉12は筐体11に対して両支軸25a、25bを結ぶ上下方向へ延びる開閉軸線を中心として回動可能に支持され、その回動によって筐体11の前面開放側を開放したり閉鎖することができるよう構成されている。40

【0046】

前面扉12は、その裏面に設けられた施錠装置によって開放不能な施錠状態とされる。また、前面扉12の右端側上部には解錠操作部たるキーシリンダ20が設けられている。キーシリンダ20は施錠装置と一体化されており、キーシリンダ20に対する所定のキー操作によって前記施錠状態が解除されるように構成されている。そこで、施錠装置を含むロック機構について概略を説明する。

【0047】

10

20

30

40

50

前面扉 1 2 の右端側、すなわち前面扉 1 2 の開閉軸の反対側には、その裏面に施錠装置が設けられている。施錠装置は、上下方向に延び前面扉 1 2 に固定された基枠と、基枠の上部から前面扉 1 2 の前方に延びるように設けられたキーシリンダ 2 0 と、基枠に対して上下方向に移動可能に組み付けられた長尺状の連動杆 2 1 を備えている。そして、施錠装置のうちキーシリンダ 2 0 だけが前面扉 1 2 の前方に突出した状態で設けられている。キーシリンダ 2 0 が設けられる位置は前面扉 1 2 の中でも肉厚の薄い上部位置とされており、その結果、全長の短い汎用性のあるキーシリンダ 2 0 を採用することができる。なお、本実施の形態では、キーシリンダ 2 0 として、不正解錠防止機能の高いオムロック（商標名）が用いられている。連動杆 2 1 は、キーシリンダ 2 0 に差し込んだキーを時計回りに操作することで下方へ移動される。連動杆 2 1 には、鉤形状をなす上下一対の鉤金具 2 2 が設けられており、筐体 1 1 に対して前面扉 1 2 を閉鎖した際には、鉤金具 2 2 が筐体 1 1 側の支持金具 2 3 に係止されて施錠状態となる。なお、鉤金具 2 2 には施錠状態を維持する側へ付勢するコイルバネ等の付勢部材が設けられている。キーシリンダ 2 0 に対してキーが時計回りに操作されると、連動杆 2 1 が下方に移動し、前記付勢部材の付勢力に抗して鉤金具 2 2 が移動されることにより当該鉤金具 2 2 と支持金具 2 3 との係止状態が解除され、筐体 1 1 に対する前面扉 1 2 の施錠状態が解除される。10

【 0 0 4 8 】

前面扉 1 2 の中央部上寄りには、遊技者に遊技状態を報知する遊技パネル 3 0 が設けられている。遊技パネル 3 0 には、縦長の 3 つの表示窓 3 1 L , 3 1 M , 3 1 R が横並びとなるように形成されている。表示窓 3 1 L , 3 1 M , 3 1 R は透明又は半透明な材質により構成されており、各表示窓 3 1 L , 3 1 M , 3 1 R を通じてスロットマシン 1 0 の内部が視認可能な状態となっている。なお、各表示窓 3 1 L , 3 1 M , 3 1 R を 1 つにまとめて共通の表示窓としてもよい。20

【 0 0 4 9 】

図 3 に示すように、筐体 1 1 は仕切り板 4 0 によりその内部が上下 2 分割されており、仕切り板 4 0 の上部には、可変表示手段を構成するリールユニット 4 1 が取り付けられている。リールユニット 4 1 は、円筒状（円環状）にそれぞれ形成された左リール 4 2 L , 中リール 4 2 M , 右リール 4 2 R を備えている。なお、各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R は少なくとも無端状ベルトとして構成されればよく、円筒状（円環状）に限定されるものではない。各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R は、その中心軸線が当該リールの回転軸線となるように回転可能に支持されている。各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R の回転軸線は略水平方向に延びる同一軸線上に配設され、それぞれのリール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R が各表示窓 3 1 L , 3 1 M , 3 1 R と 1 対 1 で対応している。従って、各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R の表面の一部はそれぞれ対応する表示窓 3 1 L , 3 1 M , 3 1 R を通じて視認可能な状態となっている。また、リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R が正回転すると、各表示窓 3 1 L , 3 1 M , 3 1 R を通じてリール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R の表面は上から下へ向かって移動しているかのように映し出される。30

【 0 0 5 0 】

これら各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R は、それぞれがステッピングモータ 6 1 L , 6 1 M , 6 1 R に連結されており、各ステッピングモータ 6 1 L , 6 1 M , 6 1 R の駆動により各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R が個別に、即ちそれぞれ独立して回転駆動し得る構成となっている。これら各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R は同様の構成をしているため、ここでは左リール 4 2 L を例に挙げて図 6 に基づいて説明する。なお、図 6 は左リール 4 2 L の組立斜視図である。40

【 0 0 5 1 】

左リール 4 2 L は、円筒状のかごを形成する円筒骨格部材 5 0 と、その外周面において無端状に巻かれた帯状のベルトとを備えている。そして、その巻かれた状態を維持するよう、ベルトの長辺両側に沿って形成された一対のシール部を介して円筒骨格部材 5 0 に貼付されている。前記ベルトの外周面には、識別情報としての図柄が等間隔ごとに多数印刷されている。円筒骨格部材 5 0 の中心部にはボス部 5 1 形成されており、円盤状のボス50

補強板 52 を介して左リール用ステッピングモータ 61L の駆動軸に取り付けられている。従って、左リール用ステッピングモータ 61L の駆動軸が回転することによりその駆動軸を中心として円筒骨格部材 50 が自転するように回転され、左リール 42L が円環状のリール面に沿って周回するようになっている。

【0052】

左リール用ステッピングモータ 61L は、リールユニット 41(図3)内において起立状態に配置されたモータプレート 53 の側面にねじ 54 で固定されている。モータプレート 53 には、発光素子 55a と受光素子 55b とが所定間隔をもつて保持されたリールインデックスセンサ(回転位置検出センサ) 55 が設置されている。一方、左リール 42L と一体化されたボス補強板 52 には、半径方向に延びるセンサカットバン 56 の基端部 56b がねじ 57 で固定されている。このセンサカットバン 56 の先端部 56a は、略直角に屈曲されてリールインデックスセンサ 55 の両素子 55a, 55b の間を通過できるように位置合わせがなされている。そして、左リール 42L が 1 回転するごとにセンサカットバン 56 の先端部 56a の通過をリールインデックスセンサ 55 が検出し、その検出の都度、後述する主制御装置 131 に検出信号が出力される。従って、主制御装置 131 はこの検出信号に基づいて左リール 42L の角度位置を 1 回転ごとに確認し補正できる。

【0053】

ステッピングモータ 61L は例えば 504 パルスの駆動信号(励磁信号あるいは励磁パルスとも言う。以下同じ)を与えることにより 1 回転されるように設定されており、この励磁パルスによってステッピングモータ 61L の回転位置、すなわち左リール 42L の回転位置が制御される。

【0054】

各リール 42L, 42M, 42R の各ベルト上には、その長辺方向(周回方向)に複数個、具体的には 21 個の図柄が描かれている。従って、所定の位置においてある図柄から次の図柄へ切り替えるには 24 パルス(= 504 パルス ÷ 21 図柄)を要する。そして、リールインデックスセンサ 55 の検出信号が出力された時点からのパルス数により、どの図柄が表示窓 31L, 31M, 31R から視認可能な状態となっているかを認識したり、任意の図柄を表示窓 31L, 31M, 31R から視認可能な状態としたりする制御を行うことができる。

【0055】

各リール 42L, 42M, 42R に付された図柄のうち、表示窓 31L, 31M, 31R を介して全体を視認可能な図柄数は、主として表示窓 31L, 31M, 31R の上下方向の長さによって決定される所定数に限られている。本実施形態では各リール 3 個ずつとされている。このため、各リール 42L, 42M, 42R がすべて停止している状態では、 $3 \times 3 = 9$ 個の図柄が遊技者に視認可能な状態となる。

【0056】

ここで、各リール 42L, 42M, 42R に付される図柄について説明する。図7には、左リール 42L, 中リール 42M, 右リール 42R のそれぞれに巻かれるベルトに描かれた図柄配列が示されている。同図に示すように、各リール 42L, 42M, 42R にはそれぞれ 21 個の図柄が一列に設けられている。また、各リール 42L, 42M, 42R に対応して番号が 0 ~ 20 まで付されているが、これら番号は主制御装置 131 が表示窓から視認可能な状態となっている図柄を認識するための番号であり、リール 42L, 42M, 42R に実際に付されているわけではない。但し、以下の説明では当該番号を使用して説明する。

【0057】

図柄としては、「リプレイ」図柄(例えば、左ベルト 20 番目)、「ベル」図柄(例えば、左ベルト 19 番目)、「チャンス」図柄(例えば、左ベルト 18 番目)、「青年」図柄(例えば、左ベルト 15 番目)、「チェリー」図柄(例えば、左ベルト 14 番目)、「7」図柄(例えば、左ベルト 9 番目)、「スイカ」図柄(例えば、左ベルト 5 番目)の 7 種類がある。そして、図7に示すように、各リール 42L, 42M, 42R に巻かれるベ

10

20

30

40

50

ルトにおいて、各種図柄の数や配置順序は全く異なっている。

【0058】

なお、リールユニット41の各リール42L, 42M, 42Rは識別情報を可変表示する可変表示手段の一例であり、主表示部を構成する。但し、可変表示手段は、図柄を周方向に可変表示する構成であれば、これ以外の構成であってもよい。例えば、ベルトを自転させるのではなく周回させるタイプ等の他の機械的なリール構成としてもよく、また、機械的なリール構成に加えて、液晶表示器、ドットマトリックス表示器等の電気的表示により識別情報を可変表示させるものを設けてもよく、この場合は表示形態に豊富なバリエーションをもたせることが可能となる。

【0059】

遊技パネル30には、各表示窓31L, 31M, 31Rを結ぶようにして、横方向へ平行に3本、斜め方向へたすき掛けに2本、計5本の組合せラインが付されている。勿論、最大組合せライン数を6以上としてもよく、5未満としてもよく、所定条件に応じて最大組合せライン数を変更するようにしてもよい。これら各組合せラインに対応して、表示窓31L, 31M, 31R群の正面から見て左側には有効ライン表示部32, 33, 34が設けられている。第1有効ライン表示部32は組合せラインのうち中央の横ライン（中ライン）が有効化された場合に点灯等によって表示報知される。第2有効ライン表示部33は組合せラインのうち上下の横ライン（上ライン及び下ライン）が有効化された場合に点灯等によって表示報知される。第3有効ライン表示部34は組合せラインのうち一対の斜めライン（右下がりライン及び右上がりライン）が有効化された場合に点灯等によって表示報知される。そして、有効化された組合せライン、すなわち有効ライン上に図柄が所定の組合せで停止した場合に入賞となり、予め定められたメダル数の払出処理や、特別遊技状態たるビッグボーナス（以下、「BB」とも言う）ゲームやリプレイタイム（以下、「RT」とも言う）ゲーム等のボーナスゲームへの移行処理などが実行される。

【0060】

図8には、各遊技状態において入賞となる図柄の組合せと、入賞となった場合に払い出されるメダル払出枚数とが示されている。

【0061】

メダル払出が行われる小役入賞としては、ベル入賞と、スイカ入賞と、チェリー入賞とがある。有効ライン上に左から「ベル」図柄、「ベル」図柄、「ベル」図柄と並んで停止した場合、ベル入賞として15枚のメダル払出、有効ライン上に左から「スイカ」図柄、「スイカ」図柄、「スイカ」図柄と並んで停止した場合、スイカ入賞として10枚のメダル払出が行われる。また、左リール42Lの「チェリー」図柄が有効ライン上に停止した場合、チェリー入賞として2枚のメダル払出が行われる。即ち、チェリー入賞の場合には、中リール42M及び右リール42Rの有効ライン上に停止する図柄はどのような図柄であってもよい。故に、左リール42Lの複数の有効ラインが重なる位置（具体的には上段又は下段）に「チェリー」図柄が停止した場合には、各有効ライン上にてチェリー入賞が成立し、その重なった有効ラインの数を乗算した分だけのメダル払出が行われる。結果として、本実施形態では4枚のメダル払出が行われる。

【0062】

また、遊技状態が移行する状態移行入賞としてBB入賞と、RT入賞と、シングルボーナス（以下、「SB」とも言う）入賞とがある。有効ライン上に左から「7」図柄、「7」図柄、「7」図柄と並んで停止した場合、BB入賞として遊技状態がBBゲーム状態に移行する。また、有効ライン上に左から「リプレイ」図柄、「ベル」図柄、「リプレイ」図柄と並んで停止した場合、RT入賞として遊技状態がRTゲーム状態に移行し、有効ライン上に左から「リプレイ」図柄、「リプレイ」図柄、「チェリー」図柄と並んで停止した場合、SB入賞として遊技状態がSBゲーム状態に移行する。但し、これらの図柄の組合せが有効ライン上に停止したとしても、メダル払出は行われない。すなわち、BB入賞、RT入賞及びSB入賞が成立した際には、遊技状態がBBゲーム等の対応する各ゲーム状態に移行するのみである。

10

20

30

40

50

【 0 0 6 3 】

更に、有効ライン上に左から「リプレイ」図柄、「リプレイ」図柄、「リプレイ」図柄と並んで停止した場合には、再遊技入賞となる。再遊技入賞が成立すると、メダル払出や状態移行は行われないものの、遊技者は所有するメダルを減らすことなく且つメダルを投入することなく次ゲームの遊技を行うことが可能となる。

【 0 0 6 4 】

加えて、遊技状態が後述するレギュラーボーナス（以下、「R B」と言う）ゲーム状態である場合に限り、有効ライン上に左から「ベル」図柄、「ベル」図柄、「チェリー」図柄と並んで停止した場合に、J A C 入賞として15枚のメダル払出が行われる。

【 0 0 6 5 】

その他の場合、即ち有効ライン上に左リール42Lの「チェリー」図柄が停止せず、また有効ライン上に上記した図柄の組合せが停止しなかった場合には、メダル払出や遊技状態の移行等は一切行われない。なお、以下では、各入賞と対応する図柄の組合せを入賞図柄の組合せとも言う。例えば、B B 図柄の組合せとは、B B 入賞となる図柄の組合せ、すなわち「7」図柄、「7」図柄、「7」図柄の組合せである。また、本スロットマシン10では、例えば左リール42Lの「リプレイ」図柄を、再遊技入賞となる図柄の組合せを構成する図柄として対応付けるのみならず、R T 入賞及びS B 入賞となる図柄の組合せを構成する図柄としても対応付けている。したがって、以下では、左リール42Lの「リプレイ」図柄を、当選した役に応じて再遊技図柄、R T 図柄、S B 図柄と言う場合がある。中リール42Mと右リール42Rの「リプレイ」図柄、左リール42Lと中リール42Mの「ベル」図柄についても同様である。

10

【 0 0 6 6 】

遊技パネル30の下方左側には、各リール42L, 42M, 42Rを一斉（同時である必要はない）に回転開始させるために操作されるスタートレバー71が設けられている。スタートレバー71はリール42L, 42M, 42Rを回転開始、すなわち図柄の可変表示を開始させるべく操作される開始操作手段又は始動操作手段を構成する。スタートレバー71は、遊技者がゲームを開始するときに手で押し操作するレバーであり、手が離れたあと元の位置に自動復帰する。メダルが所定数投入されているときにこのスタートレバー71が操作されると、各リール42L, 42M, 42Rが一斉に回転を始める。

【 0 0 6 7 】

20

スタートレバー71の右側には、回転している各リール42L, 42M, 42Rを個別に停止させるために操作されるボタン状のストップスイッチ72, 73, 74が設けられている。各ストップスイッチ72, 73, 74は停止対象となるリール42L, 42M, 42Rに対応する表示窓31L, 31M, 31Rの直下にそれぞれ配置されている。すなわち、左ストップスイッチ72が操作された場合には左リール42Lの回転が停止し、中ストップスイッチ73が操作された場合には中リール42Mの回転が停止し、右ストップスイッチ74が操作された場合には右リール42Rの回転が停止する。ストップスイッチ72, 73, 74はリール42L, 42M, 42Rの回転に基づく図柄の可変表示を停止させるべく操作される停止操作手段を構成する。各ストップスイッチ72, 73, 74は、左リール42Lが回転を開始してから所定時間が経過すると停止させることができ状態となり、かかる状態中には図示しないランプが点灯表示されることによって停止操作が可能であることが報知され、回転が停止すると消灯されるようになっている。

40

【 0 0 6 8 】

表示窓31L, 31M, 31Rの下方右側には、投資価値としてのメダルを投入するためのメダル投入口75が設けられている。メダル投入口75は投資価値を入力する入力手段を構成する。また、メダル投入口75が遊技者によりメダルを直接投入するという動作を伴う点に着目すれば、投資価値を直接入力する直接入力手段を構成するものともいえる。

【 0 0 6 9 】

メダル投入口75から投入されたメダルは、前面扉12の背面に設けられた通路切替手

50

段としてのセレクタ 8 4 によって貯留用通路 8 1 か排出用通路 8 2 のいずれかへ導かれる。すなわち、セレクタ 8 4 にはメダル通路切替ソレノイド 8 3 が設けられ、そのメダル通路切替ソレノイド 8 3 の非励磁時には排出用通路 8 2 側とされ、励磁時には貯留用通路 8 1 側に切り替えられるようになっている。貯留用通路 8 1 に導かれたメダルは、筐体 1 1 の内部に収納されたホッパ装置 9 1 へと導かれる。一方、排出用通路 8 2 に導かれたメダルは、前面扉 1 2 の前面下部に設けられたメダル排出口 1 7 からメダル受け皿 1 8 へと導かれ、遊技者に返還される。

【0070】

メダルを遊技者に付与する払出手段としてのホッパ装置 9 1 は、メダルを貯留する貯留タンク 9 2 と、メダルを遊技者に払い出す払出手装置 9 3 により構成されている。払出手装置 9 3 は、図示しないメダル払出手用回転板を回転させることにより、排出用通路 8 2 の中央右部に設けられた開口 9 4 へメダルを排出し、排出用通路 8 2 を介してメダル受け皿 1 8 へメダルを払い出すようになっている。また、ホッパ装置 9 1 の右方には、貯留タンク 9 2 内に所定量以上のメダルが貯留されることを回避するための予備タンク 9 5 が設けられている。ホッパ装置 9 1 の貯留タンク 9 2 内部には、この貯留タンク 9 2 から予備タンク 9 5 へとメダルを排出する誘導プレート 9 6 が設けられている。したがって、誘導プレート 9 6 が設けられた高さ以上にメダルが貯留された場合、かかるメダルが予備タンク 9 5 に貯留されることとなる。

【0071】

メダル投入口 7 5 の下方には、ボタン状の返却スイッチ 7 6 が設けられている。返却スイッチ 7 6 は、メダル投入口 7 5 に投入されたメダルがセレクタ 8 4 内に詰まった際に押されるスイッチであり、このスイッチが押されることによりセレクタ 8 4 が機械的に運動して動作され、当該セレクタ 8 4 内に詰まったメダルがメダル排出口 1 7 より返却されるようになっている。

【0072】

表示窓 3 1 L , 3 1 M , 3 1 R の下方左側には、投資価値としてのクレジットされた仮想メダルを一度に 3 枚投入するためのボタン状の第 1 クレジット投入スイッチ 7 7 が設けられている。また、第 1 クレジット投入スイッチ 7 7 の左方には当該スイッチ 7 7 よりも小さなボタン状のスイッチとして、第 2 クレジット投入スイッチ 7 8 及び第 3 クレジット投入スイッチ 7 9 が設けられている。第 2 クレジット投入スイッチ 7 8 はクレジットされた仮想メダルを一度に 2 枚投入するためのものであり、第 3 クレジット投入スイッチ 7 9 は仮想メダルを 1 枚投入するためのものである。各クレジット投入スイッチ 7 7 ~ 7 9 は前記メダル投入口 7 5 とともに投資価値を入力する入力手段を構成する。また、メダル投入口 7 5 が遊技者によりメダルを直接投入するという動作を伴うのに対し各クレジット投入スイッチ 7 7 ~ 7 9 は貯留記憶に基づく仮想メダルの投入という動作を伴うに過ぎない点に着目すれば、投資価値を間接入力する間接入力手段を構成するものともいえる。

【0073】

なお、第 1 クレジット投入スイッチ 7 7 は、1 ゲームにつき投入できるメダル最大数(3 枚)に達していないことを促すため、図示しない発光部材としてのランプが内蔵されている。当該ランプは、第 1 クレジット投入スイッチ 7 7 のスイッチ操作が有効である状況時において点灯されて当該スイッチ 7 7 の操作を促すが、クレジットされた仮想メダルが存在しない場合や既に 3 枚のメダル投入がなされている状況下では消灯される。ここで、上記点灯に代えて、点滅させてメダル投入の促しを遊技者に一層分かり易くしてもよい。

【0074】

スタートレバー 7 1 の左側には、ボタン状の精算スイッチ 8 0 が設けられている。すなわち、本スロットマシン 1 0 では、所定の最大値(メダル 50 枚分)となるまでの余剰の投入メダルや入賞時の獲得メダルを仮想メダルとして貯留記憶するクレジット機能を有しており、仮想メダルが貯留記憶されている状態で精算スイッチ 8 0 が押下操作されることで、仮想メダルが現実のメダルとして払い出される。この場合、クレジットされた仮想メダルを現実のメダルとして払い出すという機能に着目すれば、精算スイッチ 8 0 は貯留記

10

20

30

40

50

憶された遊技価値を実際に払い出すための精算操作手段を構成するものともいえる。

【0075】

なお、所定の最大値（例えばメダル50枚分）となるまでの余剰の投入メダルや入賞時の獲得メダルを仮想メダルとして貯留記憶するように設定された「クレジットモード」と、余剰の投入メダルや入賞時の獲得メダルを現実のメダルとして払い出すように設定された「ダイレクトモード」とを切換可能としたスロットマシンの場合には、前記精算スイッチ80に、モード切換のための切換スイッチとしての機能を付加してもよい。この場合、精算スイッチ（切換スイッチ）80は、1度押されるとオン状態になり、もう1度押されるとオフ状態になり、その後押下操作が行われるごとにオンオフが切り替わるように構成される。そして、精算スイッチ80がオン状態のときにはクレジットモードとされ、精算スイッチ80がオフ状態のときにはダイレクトモードとされる。クレジットモードからダイレクトモードに切り換えられた際に仮想メダルがある場合には、その分の仮想メダルが現実のメダルとして払い出される。これにより、遊技者はクレジットモードとダイレクトモードとを切り換えることで自身の好みに応じた形式で遊技を実行することができる。かかる精算スイッチ80は投入価値及び遊技価値の取扱形式を切り換える切換操作手段を構成する。10

【0076】

遊技パネル30の表示窓31L, 31M, 31R下方には、貯留記憶された仮想メダル数を表示するクレジット表示部35と、BBゲーム状態が終了するまでに獲得できる残りのメダル数を表示する残獲得枚数表示部36と、入賞成立時に払い出されたメダルの枚数を表示する獲得枚数表示部37とがそれぞれ設けられている。これら表示部35～37は7セグメント表示器によって構成されているが、液晶表示器等によって代替することは当然可能である。20

【0077】

ここで、メダルがベットされる手順について説明する。遊技の開始時にメダル投入口75からメダルが投入されるとベットとなる。

【0078】

すなわち、1枚目のメダルがメダル投入口75に投入されると、第1有効ライン表示部32が点灯し、そしてこれに対応する中ラインが有効ラインとなり、2枚目のメダルがメダル投入口75に投入されると、更に第2有効ライン表示部33が点灯すると共に、これに対応する上ライン及び下ラインを含む合計3本の組合せラインがそれぞれ有効ラインとなり、3枚目のメダルがメダル投入口75に投入されると、更に第3有効ライン表示部34が点灯し、そしてこれに対応する一対の斜めラインを含む合計5本の組合せライン全てが有効ラインとなる。30

【0079】

また、4枚以上のメダルがメダル投入口75に投入されると、3枚を超える余剰メダルは、そのときに貯留記憶されている仮想メダルが50枚未満であれば、スロットマシン内部に貯蓄されると共にクレジット表示部35の仮想メダル数が加算表示される。一方、仮想メダル数が50枚のとき又は50枚に達したときには、セレクタ84により貯留用通路81から排出用通路82への切替がなされ、メダル排出口17からメダル受け皿18へと余剰メダルが返却される。40

【0080】

また、クレジット表示部35に貯留枚数が表示されている場合には、第1～第3クレジット投入スイッチ77～79のいずれかが押された際にも仮想メダルが投入されたこととなりベットとなる。

【0081】

第3クレジット投入スイッチ79が押された際には、仮想メダルが1枚投入されたこととしてクレジット表示部35に表示されている数値が1つ減算され、第1有効ライン表示部32が点灯して中ラインが有効ラインとなる。第2クレジット投入スイッチ78が押された際には、仮想メダルが2枚投入されたこととしてクレジット表示部35に表示されて50

いる数値が2つ減算され、第1有効ライン表示部32および第2有効ライン表示部33が点灯して合計3本の組合せラインが有効ラインとなる。第1クレジット投入スイッチ77が押された際には、仮想メダルが3枚投入されたこととしてクレジット表示部35に表示されている数値が3つ減算され、全ての有効ライン表示部32～34が点灯して合計5本の組合せラインが有効ラインとなる。

【0082】

なお、第1～第3クレジット投入スイッチ77～79のいずれかが押された際に投入されるべき仮想メダルが貯留されていない場合、例えばクレジット表示部35の表示が2のときに第1クレジット投入スイッチ77が押された場合等には、クレジット表示部35の数値が全て減算されて0となり、投入可能な仮想メダル分だけベットされる。

10

【0083】

前面扉12の上部には、遊技の進行に伴い点灯したり点滅したりする上部ランプ13と、遊技の進行に伴い種々の効果音を鳴らしたり、遊技者に遊技状態を報知したりする左右一対のスピーカ14と、遊技者に各種情報を与える補助表示部15とが設けられている。補助表示部15は、本実施形態では表示内容の多様化及び表示演出の重厚化を意図して液晶表示器によって構成されているが、ドットマトリックス表示器等の他の表示器を使用してもよい。補助表示部15は、遊技の進行に伴って各種表示演出を実行するためのものであり、各リール42L, 42M, 42Rによる遊技を主表示部によるものと考えることができることから、本実施形態では補助表示部15と称している。補助表示部15の背面には上部ランプ13やスピーカ14、補助表示部15を駆動させるための表示制御装置111が設けられている。なお、上部ランプ13及びスピーカ14の位置や数は特に以上説明したものに限られない。

20

【0084】

メダル受け皿18の上方には、機種名や遊技に関わるキャラクタなどが表示された下段プレート16が装着されている。また、メダル受け皿18の左方には、手前側下方に反転可能な灰皿19が設けられている。

【0085】

筐体11の内部においてホッパ装置91の左方には、電源ボックス121が設けられている。電源ボックス121は、電源スイッチ122やリセットスイッチ123や設定キー挿入孔124などを備えている。電源スイッチ122は、主制御装置131を始めとする各部に電源を供給するための起動スイッチである。リセットスイッチ123は、スロットマシン10のエラー状態をリセットするためのスイッチである。また、設定キー挿入孔124は、ホール管理者などがメダルの出玉調整を行うためのものである。すなわち、ホール管理者等が設定キーを設定キー挿入孔124へ挿入してON操作することにより、スロットマシン10の当選確率を設定できるようになっている。なお、リセットスイッチ123は、エラー状態をリセットする場合のほか、スロットマシン10の当選確率を変更する場合にも操作される。

30

【0086】

リールユニット41の上方には、主制御装置131が筐体11の背板11cに取り付けられている。主制御装置131は、主たる制御を司るCPU、遊技プログラムを記憶したROM、遊技の進行に応じた必要なデータを一時的に記憶するRAM、各種機器との連絡をとるポート、時間計数や同期を図る場合などに使用されるクロック回路等を含む主基板を具備しており、主基板が透明樹脂材料等よりなる被包手段としての基板ボックスに収容されて構成されている。基板ボックスは、略直方体形状のボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えている。これらボックスベースとボックスカバーとは封印手段としての封印ユニットによって開封不能に連結され、これにより基板ボックスが封印されている。なお、ボックスベースとボックスカバーとを鍵部材を用いて開封不能に連結する構成としてもよい。

40

【0087】

次に、本スロットマシン10の電気的構成について、図9のブロック図に基づいて説明

50

する。

【0088】

主制御装置131には、演算処理手段であるCPU151を中心とするマイクロコンピュータが搭載されている。CPU151には、電源ボックス121の内部に設けられた電源装置161の他に、所定周波数の矩形波を出力するクロック回路154や、出入力ポート155などが内部バスを介して接続されている。かかる主制御装置131は、スロットマシン10に内蔵されるメイン基盤としての機能を果たすものである。

【0089】

主制御装置131の入力側には、スタートレバー71の操作を検出するスタート検出センサ71a、各ストップスイッチ72, 73, 74の操作を個別に検出するストップ検出センサ72a, 73a, 74a、メダル投入口75から投入されたメダルを検出する投入メダル検出センサ75a、各クレジット投入スイッチ77, 78, 79の操作を個別に検出するクレジット投入検出センサ77a, 78a, 79a、精算スイッチ80の操作を検出する精算検出センサ80a、各リール42の回転位置（原点位置）を個別に検出するリールインデックスセンサ55、ホッパ装置91から払い出されるメダルを検出する払出検出センサ91a、リセットスイッチ123の操作を検出するリセット検出センサ123a、設定キー挿入孔124に設定キーが挿入されてON操作されたことを検出する設定キー検出センサ124a等の各種センサが接続されており、これら各種センサからの信号は出入力ポート155を介してCPU151へ出力されるようになっている。

【0090】

なお、投入メダル検出センサ75aは実際には複数個のセンサより構成されている。即ち、メダル投入口75からホッパ装置91に至る貯留用通路81は、メダルが1列で通行可能なように構成されている。そして、貯留用通路81には第1センサが設けられるとともに、それよりメダルの幅以上離れた下流側に第2センサ及び第3センサが近接（少なくとも一時期において同一メダルを同時に検出する状態が生じる程度の近接）して設けられており、これら第1乃至第3の各センサによって投入メダル検出センサ75aが構成されている。主制御装置131は、第1センサから第2センサに至る時間を監視し、その経過時間が所定時間を超えた場合にはメダル詰まり又は不正があったものとみなしてエラーとする。エラーになると、エラー報知が行われるとともにエラー解除されるまでの遊技者による操作が無効化される。また、主制御装置131は第2センサと第3センサとがオンオフされる順序をも監視し、第2, 第3センサが共にオフ、第2センサのみオン、第2, 第3センサが共にオン、第3センサのみオン、第2, 第3センサが共にオフという順序通りになった場合で、かつ各オンオフ切換に移行する時間が所定時間内である場合にのみメダルが正常に取り込まれたと判断し、それ以外の場合はエラーとする。このようにするのは、貯留用通路81でのメダル詰まりの他、メダルを投入メダル検出センサ75a付近で往復動させてメダル投入と誤認させる不正を防止するためである。

【0091】

また、主制御装置131の入力側には、出入力ポート155を介して電源装置161が接続されている。電源装置161には、主制御装置131を始めとしてスロットマシン10の各電子機器に駆動電力を供給する電源部161aや、停電監視回路161bなどが搭載されている。

【0092】

停電監視回路161bは電源の遮断状態を監視し、停電時はもとより、電源スイッチ122による電源遮断時に停電信号を生成するためのものである。そのため停電監視回路161bは、電源部161aから出力されるこの例では直流12ボルトの安定化駆動電圧を監視し、この駆動電圧が例えば10ボルト未満まで低下したとき電源が遮断されたものと判断して停電信号が出力されるように構成されている。停電信号はCPU151と出入力ポート155のそれぞれに供給され、CPU151ではこの停電信号を認識することにより後述する停電時処理が実行される。また、停電信号は表示制御装置111にも供給されるように構成されている。

10

20

30

40

50

【0093】

電源部161aは、出力電圧が10ボルト未満まで低下した場合でも、主制御装置131などの制御系における駆動電圧として使用される5ボルトの安定化電圧が出力されるよう構成されている。この安定化電圧が出力される時間としては、主制御装置131による停電時処理を実行するに十分な時間が確保されている。

【0094】

主制御装置131の出力側には、各有効ライン表示部32, 33, 34、クレジット表示部35、残獲得枚数表示部36、獲得枚数表示部37、各リール42L, 42M, 42Rを回転させるための各ステッピングモータ61(61L, 61M, 61R)、セレクタ84に設けられたメダル通路切替ソレノイド83、ホッパ装置91、表示制御装置111、図示しないホール管理装置などに情報を送信できる外部集中端子板171等が入出力ポート155を介して接続されている。

10

【0095】

表示制御装置111は、上部ランプ13やスピーカ14、補助表示部15を駆動させるための制御装置であり、これらを駆動させるためのCPU、ROM、RAM等が一体化された基板を備えている。そして、主制御装置131からの信号を受け取った上で、表示制御装置111が独自に上部ランプ13、スピーカ14及び補助表示部15を駆動制御する。従って、表示制御装置111は、遊技を統括管理するメイン基盤たる主制御装置131との関係では補助的な制御を実行するサブ基盤となっている。即ち、間接的な遊技に関する音声やランプ、表示についてはサブ基盤を設けることにより、メイン基盤の負担軽減を図っている。なお、各種表示部32～37を表示制御装置111が制御する構成としてもよい。

20

【0096】

上述したCPU151には、このCPU151によって実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したROM152と、このROM152内に記憶されている制御プログラムを実行するに当たって各種のデータを一時的に記憶する作業エリアを確保するためのRAM153のほかに、図示はしないが周知のように割込み回路を始めとしてタイマ回路、データ送受信回路などスロットマシン10において必要な各種の処理回路や、クレジット枚数をカウントするクレジットカウンタなどの各種カウンタが内蔵されている。ROM152とRAM153によって記憶手段としてのメインメモリが構成され、図10以降のフローチャートに示される各種処理を実行するためのプログラムは、制御プログラムの一部として上述したROM152に記憶されている。

30

【0097】

RAM153は、スロットマシン10の電源が遮断された後においても電源ボックス121内に設けられた電源装置161からバックアップ電圧が供給されてデータを保持(バックアップ)できる構成となっている。RAM153には、各種のデータを一時的に記憶するためのメモリや、当選確率の設定を行う際に使用される設定情報格納エリア153a、BBゲーム状態下やRTゲーム状態下で用いる各種データを記憶したり、移行したボーナスゲームを記憶したりするためのボーナス情報格納エリア153b、毎回のゲームで使用する各種データを記憶するための遊技情報格納エリア153c等の他に、バックアップエリアが設けられている。

40

【0098】

バックアップエリアは、停電などの発生により電源が遮断された場合において、電源遮断時(電源スイッチ122の操作による電源遮断をも含む。以下同様)のスタックポインタの値を記憶しておくためのエリアであり、停電解消時(電源スイッチ122の操作による電源投入をも含む。以下同様)には、バックアップエリアの情報に基づいてスロットマシン10の状態が電源遮断前の状態に復帰できるようになっている。バックアップエリアへの書き込みは停電時処理(図12参照)によって電源遮断時に実行され、バックアップエリアに書き込まれた各値の復帰は電源投入時のメイン処理(図13参照)において実行される。なお、CPU151のNMI端子(ノンマスカブル割込端子)には、停電等の発

50

生による電源遮断時に、停電監視回路 161b からの停電信号が入力されるように構成されており、停電等の発生に伴う停電フラグ生成処理としての NMI 割込み処理が即座に実行される。

【0099】

続いて、主制御装置 131 内の CPU151 により実行される各制御処理を図 10 ~ 図 33 のフローチャートを参照しながら説明する。かかる CPU151 の処理としては大別して、電源投入に伴い起動されるメイン処理と、定期的に（本実施の形態では 1.49 ms で）起動されるタイマ割込み処理と、NMI 端子（ノンマスカブル端子）への停電信号の入力により起動される NMI 割込み処理とがあり、説明の便宜上、はじめに NMI 割込み処理とタイマ割込み処理とを説明し、その後メイン処理を説明する。

10

【0100】

図 10 は NMI 割込み処理の一例を示すフローチャートである。停電の発生などによって電源が遮断されると、電源装置 161 の停電監視回路 161b では停電信号が生成され、主制御装置 131 に対して出力される。NMI 端子を介して停電信号を受信した主制御装置 131 では、NMI 割込み処理が実行される。

【0101】

NMI 割込み処理では、まずステップ S101において、CPU151 内に設けられた使用レジスタのデータを RAM153 内に設けられたバックアップエリアに退避させる。続いて、ステップ S102 では、停電フラグを RAM153 内に設けられた停電フラグ格納エリアにセットする。その後、ステップ S103 にて RAM153 のバックアップエリアに退避させたデータを再び CPU151 の使用レジスタに復帰させる。この復帰処理で NMI 割込み処理が終了する。なお、CPU151 の使用レジスタのデータを破壊せずに停電フラグのセット処理が可能な場合には、バックアップエリアへの退避および復帰処理を省くことができる。

20

【0102】

図 11 は、主制御装置 131 で定期的に実行されるタイマ割込み処理のフローチャートであり、主制御装置 131 の CPU151 により例えば 1.49 ms ごとにタイマ割込みが発生する。

【0103】

先ず、ステップ S201 に示すレジスタ退避処理では、後述する通常処理で使用している CPU151 内の全レジスタの値を RAM153 のバックアップエリアに退避させる。ステップ S202 では停電フラグがセットされているか否かを確認し、停電フラグがセットされているときにはステップ S203 に進み、停電時処理を実行する。

30

【0104】

ここで、停電時処理について図 12 を用いて説明する。この停電時処理は、タイマ割込み処理のうち特にレジスタ退避処理の直後に行われるため、その他の割込み処理を中断することなく実行できる。従って、例えば各種コマンドの送信処理中、スイッチの状態（オンオフ）の読み込み処理中などのように、それぞれの処理に割り込んでこの停電時処理が実行されることではなく、かかるタイミングで実行されることをも考慮した停電時処理のプログラムを作成する必要がなくなる。これにより停電時処理用の処理プログラムを簡略化してプログラム容量を削減できる。なお、このことは後述する復電時処理用の処理プログラムについても同様である。

40

【0105】

ステップ S301 では、コマンド送信が終了しているか否かを判定する。送信が終了していない場合には本処理を終了してタイマ割込み処理に復帰し、コマンド送信を終了させる。このように停電時処理の初期段階でコマンドの送信が完了しているか否かを判断し、送信が未完であるときには送信処理を優先し、単位コマンドの送信処理終了後に停電時処理を実行する構成とすることにより、コマンドの送信途中で停電時処理が実行されることをも考慮した停電時処理プログラムを構築する必要がなくなる。その結果停電時処理プログラムを簡略化して ROM152 の小容量化を図ることができる実益を有する。

50

【0106】

ステップS301がYES、すなわちコマンドの送信が完了している場合には、ステップS302に進み、CPU151のスタックポインタの値をRAM153内のバックアップエリアに保存する。その後ステップS303では、停止処理として後述するRAM判定値をクリアすると共に入出力ポート155における出力ポートの出力状態をクリアし、図示しない全てのアクチュエータをオフ状態にする。ステップS304では、RAM判定値を算出し、バックアップエリアに保存する。RAM判定値とは、具体的にはRAM153の作業領域アドレスにおけるチェックサムの2の補数である。RAM判定値をバックアップエリアに保存することにより、RAM153のチェックサムは0となる。RAM153のチェックサムを0とすることにより、ステップS305においてそれ以後のRAMアクセスを禁止する。その後は、電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるのに備え、無限ループに入る。なお、例えばノイズ等に起因して停電フラグが誤ってセットされる場合を考慮し、無限ループに入るまでは停電信号が出力されているか否かを確認する。停電信号が出力されていなければ停電状態から復旧したこととなるため、RAM153への書き込みを許可すると共に停電フラグをリセットし、タイマ割込み処理に復帰する。停電信号の出力が継続してなされていれば、そのまま無限ループに入る。ちなみに、詳細な説明は省略するが、無限ループ下においても停電信号が出力されているか否かを確認しており、停電信号が出力されなくなった場合には後述するメイン処理に移行する。

【0107】

なお、電源装置161の電源部161aは、上述したNMI割込み処理及び停電時処理を実行するのに十分な時間、制御系の駆動電圧として使用される安定化電圧(5ボルト)の出力が保持されるように構成されている。本実施形態では、30 msecの間、駆動電圧が出力され続けるようになっている。

【0108】

タイマ割込み処理の説明に戻り、ステップS202にて停電フラグがセットされていない場合には、ステップS204以降の各種処理を行う。

【0109】

すなわち、ステップS204では、誤動作の発生を監視するためのウォッチドッグタイマの値を初期化するウォッチドッグタイマのクリア処理を行う。ステップS205では、CPU151自身に対して次回のタイマ割込みを設定可能とする割込み終了宣言処理を行う。ステップS206では、各リール42L, 42M, 42Rを回転させるために、それぞれの回胴駆動モータであるステッピングモータ61L～61Rを駆動させるステッピングモータ制御処理を行う。ステップS207では、入出力ポート155に接続された投入メダル検出センサ75aや払出検出センサ91a等の各種センサ(図9参照)の状態を読み込むと共に、読み込み結果が正常か否かを監視するセンサ監視処理を行う。ステップS208では、各カウンタやタイマの値を減算するタイマ演算処理を行う。ステップS209では、メダルのベット数や、払出枚数をカウントした結果を外部集中端子板171へ出力するカウンタ処理を行う。

【0110】

ステップS210では、後述する開始コマンドや状態コマンド等の各種コマンドを表示制御装置111へ送信するコマンド出力処理を行う。ステップS211では、クレジット表示部35、残獲得枚数表示部36及び獲得枚数表示部37にそれぞれ表示されるセグメントデータを設定するセグメントデータ設定処理を行う。ステップS212では、セグメントデータ設定処理で設定されたセグメントデータを各表示部35～37に供給して該当する数字、記号などを表示するセグメントデータ表示処理を行う。ステップS213では、入出力ポート155からI/O装置に対応するデータを出力するポート出力処理を行う。ステップS214では、先のステップS201にてバックアップエリアに退避させた各レジスタの値をそれぞれCPU151内の対応するレジスタに復帰させる。その後ステップS215にて次回のタイマ割込みを許可する割込み許可処理を行い、この一連のタイマ割込み処理を終了する。

【0111】

図13は電源投入後に実行される主制御装置131でのメイン処理を示すフローチャートである。メイン処理は、停電からの復旧や電源スイッチ122のオン操作によって電源が投入された際に実行される。

【0112】

先ずステップS401では、初期化処理として、スタックポインタの値をCPU151内に設定すると共に、割込み処理を許可する割込みモードを設定し、その後CPU151内のレジスタ群や、I/O装置等に対する各種の設定などを行う。

【0113】

これらの初期化処理が終了すると、ステップS402では設定キーが設定キー挿入孔124に挿入されてON操作されているか否か、より詳しくは設定キー検出センサ124aからON信号を受信しているか否かを判定する。設定キーのON操作がなされている場合にはステップS403に進み、強制的RAMクリア処理としてRAM153に記憶されたデータを全てクリアする。続くステップS404では当選確率設定処理を行う。

【0114】

ここで、当選確率設定処理について図14を用いて説明する。スロットマシン10には、「設定1」から「設定6」まで6段階の当選確率が予め用意されており、当選確率設定処理とは、いずれの当選確率に基づいて内部処理を実行させるのかを設定するための処理である。

【0115】

ステップS501では次回のタイマ割込みを許可する。その後、ステップS502にて現在の設定値を読み込むと共に、ステップS503では現在の設定値をクレジット表示部35に表示する。但し、設定キーが挿入されてON操作された直後の処理では、先の強制的RAMクリア処理によりRAM153のデータがクリアされているため、クレジット表示部35に表示される設定値は「1」である。

【0116】

ステップS504ではスタートレバー71が操作されたか否かを判定し、操作されていない場合にはステップS505～ステップS506に示す設定更新処理を行う。ステップS505では、リセットスイッチ123が操作されたか否かを判定する。リセットスイッチ123が操作されていない場合にはそのままステップS503に戻り、操作された場合にはステップS506にて設定値を1更新した後にステップS503に戻る。つまり、設定更新処理では、リセットスイッチ123が操作される毎に設定値が1更新され、更新された設定値がクレジット表示部35に表示される。なお、設定値が「6」のときにリセットスイッチ123が操作された場合、設定値は「1」に更新される。

【0117】

ステップS504にてスタートレバー71が操作された場合には、ステップS507にて設定キーのON操作が継続してなされているか否かを判定する。設定キーのON操作が継続してなされている場合にはそのまま待機し、ON操作が終了された場合にはステップS508にて次回のタイマ割込みを禁止する。その後、ステップS509にて設定値を保存し、ステップS510にてRAM153に記憶された設定値以外のデータをクリアして本処理を終了する。

【0118】

メイン処理の説明に戻り、ステップS404にて当選確率設定処理を行った後には、ステップS405にて遊技に関わる主要な制御を行う通常処理を実行する。

【0119】

一方、ステップS402にて設定キーが挿入されていない場合には、ステップS406以降に示す復電処理を行う。復電処理とは、スロットマシン10の状態を電源遮断前の状態に復帰させる処理である。従って、復電処理では先ずRAM153のデータが正常かどうかを確認する必要がある。

【0120】

10

20

30

40

50

そこで、ステップ S 4 0 6 では設定値が正常か否かを判定する。具体的には、設定値が 1 ~ 6 のいずれかである場合に正常であると判定し、0 又は 7 以上である場合に異常であると判定する。設定値が正常である場合には、ステップ S 4 0 7 にて停電フラグがセットされているか否かを確認する。停電フラグがセットされている場合には、さらにステップ S 4 0 8 にて R A M 判定値が正常であるか否かを確認する。具体的には、R A M 1 5 3 のチェックサムの値を調べ、その値が正常、つまり R A M 判定値を加味したチェックサムの値が 0 か否かを確認する。R A M 判定値を加味したチェックサムの値が 0 である場合、R A M 1 5 3 のデータは正常であると判定する。

【 0 1 2 1 】

ステップ S 4 0 8 において R A M 判定値が正常であると判定した場合にはステップ S 4 0 9 に進み、バックアップエリアに保存されたスタックポインタの値を C P U 1 5 1 のスタックポインタに書き込み、スタックの状態を電源が遮断される前の状態に復帰させる。次に、ステップ S 4 1 0 において、復電処理の実行を伝える復電コマンドを表示制御装置 1 1 1 に送信する。その後、ステップ S 4 1 1 にて遊技状態として打ち止め及び自動精算設定保存処理を行い、ステップ S 4 1 2 にてスタート検出センサ 7 1 a 等の各種センサの初期化を行う。以上の処理が終了した後、ステップ S 4 1 3 にて停電フラグをリセットし、電源遮断前の番地に戻る。具体的には、先に説明したタイマ割込み処理に復帰し、ウォッチドッグタイマクリア処理（ステップ S 2 0 4 ）が実行されることとなる。

【 0 1 2 2 】

一方、ステップ S 4 0 6 ~ ステップ S 4 0 8 のいずれかが N O 、すなわち、設定値が異常である、電源遮断時にセットされる箇の停電フラグがセットされていない、又は R A M 判定値が異常である場合には、R A M 1 5 3 のデータが破壊された可能性が高い。このような場合には、ステップ S 4 1 4 ~ ステップ S 4 1 6 に示す動作禁止処理を行う。動作禁止処理として、先ずステップ S 4 1 4 にて次回のタイマ割込み処理を禁止し、ステップ S 4 1 5 では入出力ポート 1 5 5 内の全ての出力ポートをクリアすることにより、入出力ポート 1 5 5 に接続された全てのアクチュエータをオフ状態に制御する。その後、ステップ S 4 1 6 にてホール管理者等に上部ランプ 1 3 等を用いてエラーの発生を報知するエラー報知処理を行う。かかる動作禁止状態は、上述した当選確率設定処理が行われるまで維持される。

【 0 1 2 3 】

次に、遊技に関わる主要な制御を行う通常処理について図 1 5 のフローチャートに基づき説明する。

【 0 1 2 4 】

先ずステップ S 6 0 1 では、次回のタイマ割込みを許可する割込み許可処理を行う。ステップ S 6 0 2 では、遊技を可能とするための開始前処理を行う。開始前処理では、打ち止め及び自動精算の設定状態を R A M 1 5 3 に格納し、表示制御装置 1 1 1 等が初期化を終了するまで待機する。表示制御装置 1 1 1 等の初期化が終了した場合、ステップ S 6 0 3 ~ ステップ S 6 1 2 に示す遊技管理処理を行う。

【 0 1 2 5 】

遊技管理処理として、ステップ S 6 0 3 では、R A M 1 5 3 の遊技情報格納エリア 1 5 3 c に格納されたデータ（例えば前回のゲームで用いた乱数値等）をクリアし、続くステップ S 6 0 4 では開始待ち処理を行う。

【 0 1 2 6 】

開始待ち処理では、前回のゲームで再遊技入賞が成立したか否かを判定する。再遊技入賞が成立していた場合には、前回のベット数と同数の仮想メダルを自動投入する自動投入処理を行うと共に、投入完了コマンドをセットして開始待ち処理を終了する。ここで、投入完了コマンドとは、自動投入の完了を把握させるべく表示制御装置 1 1 1 に対して送信されるコマンドである。なお、自動投入処理では、クレジット表示部 3 5 に表示された仮想メダル数を減じることなく仮想メダルの投入を行う。つまり、前回のゲームで再遊技入賞が成立した場合には、遊技者は所有するメダルを減らすことなく且つメダルを投入する

10

20

30

40

50

ことなく今回のゲームを行うことができる。再遊技入賞が成立していなかった場合には、
タイマ割込み処理のセンサ監視処理 S 2 0 7 にてなされたセンサの読み込み結果に異常が
発生していないかを確認するセンサ異常確認処理を行い、異常が発生している場合にはス
ロットマシン 1 0 をエラー状態と共にエラーの発生を報知する異常発生時処理を行
う。詳細は後述するが、かかるエラー状態はリセットスイッチ 1 2 3 が操作されるまで維
持される。センサの読み込み結果が正常である場合には精算スイッチ 8 0 が操作されたか
否かを判定し、精算スイッチ 8 0 が操作された場合には、クレジットされた仮想メダルと
同数のメダルを払い出すメダル返却処理を行うと共に精算コマンドをセットする。ここ
で、精算コマンドとは、クレジットされた仮想メダルの返却を行っていることを把握させ
るべく表示制御装置 1 1 1 に対して送信されるコマンドである。メダル返却処理の終了後又
は精算スイッチ 8 0 が操作されていない場合には、メダルの投入又はクレジット投入スイ
ッチ 7 7 ~ 7 9 の操作がなされたか否かを判定し、いずれかが行われた場合には、有効ラ
インの設定等を行うメダル投入処理を行うと共に、投入コマンドをセットして開始待ち
処理を終了する。ここで、投入コマンドとは、ベット操作がなされたことを把握させるべく
表示制御装置 1 1 1 に対して送信されるコマンドである。
10

【 0 1 2 7 】

開始待ち処理の終了後、ステップ S 6 0 5 ではメダルのベット数が規定数（本実施形態
では 3 ）に達しているか否かを判定し、規定数に達している場合にはさらにステップ S 6
0 6 にてスタートレバー 7 1 が操作されて開始指令が発生したか否かを判定する。ベット
数が規定数に達していない場合又は開始指令が発生していない場合には、ステップ S 6 0
4 の開始待ち処理に戻り、当該処理のうちセンサ異常確認処理以降の処理を行う。
20

【 0 1 2 8 】

開始指令が発生した場合にはステップ S 6 0 7 に進み、メダル通路切替ソレノイド 8 3
を非励磁状態に切り替えてベットの受付を禁止し、続くステップ S 6 0 8 にて開始コマン
ドをセットする。ここで、開始コマンドとは、開始指令が発生したことを把握させるべく
表示制御装置 1 1 1 に対して送信されるコマンドである。その後、ステップ S 6 0 9 の抽
選処理、ステップ S 6 1 0 のリール制御処理、ステップ S 6 1 1 のメダル払出処理、ステ
ップ S 6 1 2 の B B ゲーム状態処理を順に実行し、ステップ S 6 0 3 に戻る。

【 0 1 2 9 】

なお、通常処理では、投入完了コマンド等の各種コマンドをリングバッファにセットす
るのみであり、表示制御装置 1 1 1 に対してコマンドを送信しない。表示制御装置 1 1 1
へのコマンド送信は、先述したタイマ割込み処理のコマンド出力処理 S 2 1 0 にて行われ
る。
30

【 0 1 3 0 】

次に、ステップ S 6 0 9 の抽選処理について、図 1 6 のフローチャートに基づき説明す
る。

【 0 1 3 1 】

ステップ S 7 0 1 では、役の当否判定を行う際に用いる乱数を取得する。本スロットマ
シン 1 0 では、スタートレバー 7 1 が操作されると、ハード回路がその時点におけるフリ
ーランカウンタの値をラッチする構成となっている。フリーランカウンタは、16 ビット
で構成されており、0 ~ 6 5 5 3 5 の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値（つまり 6 5
5 3 5 ）に達した後 0 に戻る構成となっている。フリーランカウンタは定期的（例えば 0
. 1 3 μ s e c 毎）に更新され、スタートレバー 7 1 が操作されたタイミングでフリーラ
ンカウンタの値をハード回路がラッチする。C P U 1 5 1 は、スタートレバー 7 1 の操作
を確認した後、ハード回路がラッチした値を R A M 1 5 3 の遊技情報格納エリア 1 5 3 c
に格納する。かかる構成とすることにより、スタートレバー 7 1 が操作されたタイミング
で速やかに乱数を取得することが可能となり、同期等の問題が発生することを回避するこ
とが可能となる。本スロットマシン 1 0 のハード回路は、スタートレバー 7 1 が操作され
る毎にその都度のフリーランカウンタの値をラッチする構成となっている。
40

【 0 1 3 2 】

ステップ S 702 では、スロットマシン 10 の現在の設定状態や遊技状態等に基づき、当否判定用の抽選テーブルを選択する。ここで、スロットマシン 10 の設定状態は「設定 1」～「設定 6」のいずれかであり、「設定 1」のときに B B 当選確率が最も低い抽選テーブルが選択され、「設定 6」のときに B B 当選確率が最も高い抽選テーブルが選択される。ここで、抽選テーブルについて、簡単に説明する。図 17 は、「設定 1」の通常ゲーム状態下で選択される通常ゲーム用抽選テーブルである。抽選テーブルには、当否判定を行うべき役の数と同数のインデックス値 IV が設定されている。各インデックス値 IV には、当選となる役がそれぞれ一義的に対応付けられると共に、所定の数値又はその範囲が当選領域 LT として設定されている。図 17 に示す通常ゲーム用抽選テーブルにおいて、例えば IV = 1 には、スイカ役が対応付けられると共に、0 ~ 511 の範囲が当選領域 LT として設定されている。また、かかる通常ゲーム用抽選テーブルには、再遊技入賞を成立させることができるとなる再遊技役として、再遊技 1 と再遊技 2 の 2 種類の当否判定役が設定されている。さらに、通常ゲーム用抽選テーブルでは、SB (IV = 6) と対応付けられた当選領域 LT と、再遊技 1 (IV = 7) と対応付けられた当選領域 LT が共に 11120 ~ 20099 となっており、これら当選領域 LT が完全に重複して設定されている。詳細は後述するが、かかる構成とすることにより、予め用意する抽選テーブルの削減を図ることができる。
10

【0133】

抽選テーブルを選択した後、ステップ S 703 では当否判定処理を行う。当否判定処理とは、取得した乱数 RN と抽選テーブルに設定された各当選領域 LT とに基づいて各役の当否判定を行う処理である。
20

【0134】

当否判定処理について、図 18 のフローチャートに基づき説明する。なお、ここでは、図 17 に示す通常ゲーム用抽選テーブルを選択した場合の当否判定処理について説明する。また、理解を容易なものとするため、通常ゲーム状態における当否判定処理について先に説明し、RT ゲーム状態等の他の遊技状態における当否判定処理については後述することとする。

【0135】

ステップ S 801 では、乱数 RN が 0 ~ 11119 の当選領域 LT に属するか否かを判定し、当該当選領域 LT に属する場合にはステップ S 802 にて対応する当選フラグをセットする。より詳しくは、乱数 RN が 0 ~ 511 の第 1 当選領域 LT 1 に属する場合にはスイカ当選フラグをセットし、乱数 RN が 512 ~ 9874 の第 2 当選領域 LT 2 に属する場合にはベル当選フラグをセットし、乱数 RN が 9875 ~ 10387 の第 3 当選領域 LT 3 に属する場合にはチェリー当選フラグをセットし、乱数 RN が 10388 ~ 10606 の第 4 当選領域 LT 4 に属する場合には B B 当選フラグをセットし、乱数 RN が 10607 ~ 10119 の第 5 当選領域 LT 5 に属する場合には RT 当選フラグをセットする。例えは、乱数 RN が 9000 の場合には、乱数 RN が 512 ~ 9874 の第 2 当選領域 LT 2 に属するため、ベル当選フラグをセットする。
30

【0136】

続くステップ S 803 では、SB 及び再遊技 1 判定処理を行う。SB 及び再遊技 1 判定処理では、図 19 のフローチャートに示すとおり、ステップ S 901 にて乱数 RN が 11120 ~ 20099 の第 6 当選領域 LT 6 に属するか否かを判定し、当該第 6 当選領域 LT 6 に属さないと判定した場合にはそのまま本処理を終了する。乱数 RN が第 6 当選領域 LT 6 に属する場合には、ステップ S 902 にて SB 当選フラグをセットする。ステップ S 903 では現在の遊技状態が通常ゲーム状態か否かを判定し、通常ゲーム状態の場合にはステップ S 904 にて乱数 RN が 11120 ~ 20099 の第 7 当選領域 LT 7 に属するか否かを再度判定する。乱数 RN が第 7 当選領域 LT 7 に属する場合には、ステップ S 905 にて再遊技 1 当選フラグをセットし、本処理を終了する。つまり、乱数 RN が 11120 ~ 20099 のいずれかの値である場合、通常ゲーム状態下では SB 当選フラグと再遊技 1 当選フラグをセットする。換言すれば、通常ゲーム状態下で乱数 RN が 1112
40

0 ~ 2 0 0 9 9 のいずれかの値である場合、S B と再遊技 1 に重複当選するとも言える。

【0137】

一方、ステップ S 9 0 4 にて乱数 R N が第 7 当選領域 L T 7 に属さないと判定した場合、先のステップ S 9 0 1 における判定結果と矛盾が生じていることを意味し、R A M 1 5 3 のデータ（より詳しくは乱数 R N のデータ）が破壊された可能性が高い。このような場合にはステップ S 9 0 6 に進み、先のメイン処理にて説明した動作禁止処理（ステップ S 4 1 4 ~ S 4 1 6 参照）を行う。かかる動作禁止状態はリセットスイッチ 1 2 3 が操作されるまで維持され、動作禁止状態から復帰する場合にはステップ S 6 0 4 の開始待ち処理に戻る。

【0138】

当否判定処理の説明に戻り、S B 及び再遊技 1 判定処理を行った後、ステップ S 8 0 4 では再遊技 2 判定処理を行う。再遊技 2 判定処理では、図 2 0 のフローチャートに示すとおり、ステップ S 1 0 0 1 にて現在の遊技状態が通常ゲーム状態か否かを判定する。通常ゲーム状態の場合にはステップ S 1 0 0 2 にて乱数 R N が第 8 当選領域 L T 8 に属するか否か、すなわち乱数 R N が 2 0 1 0 0 か否かを判定し、乱数 R N が 2 0 1 0 0 の場合にはステップ S 1 0 0 3 にて再遊技 2 当選フラグをセットする。乱数 R N が 2 0 1 0 0 でない場合、又はステップ S 1 0 0 3 にて再遊技 2 当選フラグをセットした場合には、ステップ S 1 0 0 4 にて現在の遊技状態が通常ゲーム状態か否かを判定する。通常ゲーム状態の場合にはステップ S 1 0 0 5 にて乱数 R N が 2 0 1 0 1 ~ 6 5 5 3 5 の第 9 当選領域 L T 9 に属するか否かを判定し、当該第 9 当選領域 L T 9 に属さない場合にはそのまま本処理を終了する。また、乱数 R N が第 9 当選領域 L T 9 に属する場合にはステップ S 1 0 0 6 に進み、外れフラグをセットして本処理を終了する。

【0139】

再遊技 2 判定処理が終了すると、ステップ S 8 0 5 では外れフラグ又は何らかの当選フラグがセットされているか否かを判定し、セットされている場合にはそのまま本処理を終了する。上述した通り、ステップ S 8 0 1 ~ S 8 0 4 の各処理により、取得した乱数 R N と対応する当選フラグ又は外れフラグがセットされる。したがって、ステップ S 8 0 5 にていずれのフラグもセットされていないと判定した場合、R A M 1 5 3 のデータ（より詳しくは当選フラグ又は外れフラグのデータ）が破壊された可能性が高い。このような場合にはステップ S 8 0 6 に進み、上述した動作禁止処理を行う。かかる動作禁止状態はリセットスイッチ 1 2 3 が操作されるまで維持され、動作禁止状態から復帰する場合にはステップ S 6 0 4 の開始待ち処理に戻る。

【0140】

ちなみに、当否判定処理にてセットされたフラグ（以下、「判定結果フラグ」とも言う）が B B 当選フラグ以外の当選フラグ又は外れフラグである場合、これら判定結果フラグは、該判定結果フラグがセットされたゲームの終了後にリセットされる（通常処理の S 6 0 3 参照）。一方、セットされた判定結果フラグが B B 当選フラグである場合、B B 当選フラグは B B 図柄の組合せが有効ライン上に成立したことを条件の 1 つとしてリセットされる。すなわち、B B 当選フラグは、複数回のゲームにわたって有効とされる場合がある。なお、B B 当選フラグを持ち越した次ゲーム以降における当否判定処理では、仮に乱数 R N が状態移行役（すなわち B B , R T , S B ）と対応する当選領域 L T に属する場合であっても、対応する当選フラグをセットしない。

【0141】

また、通常ゲーム状態において図 1 7 に示す通常ゲーム用抽選テーブルを用いて役の当否判定を行った場合、小役当選フラグがセットされる確率すなわち小役当選確率は、スイカ当選確率が 1 2 8 分の 1 、ベル当選確率が約 7 . 0 分の 1 、チエリー当選確率が約 1 2 8 分の 1 である。状態移行役当選確率は、B B 当選確率が約 2 9 9 分の 1 、R T 当選確率が約 1 2 8 分の 1 、S B 当選確率が約 7 . 3 分の 1 である。再遊技当選確率は、再遊技 1 当選確率が約 7 . 3 分の 1 、再遊技 2 当選確率が 6 5 5 3 6 分の 1 である。したがって、通常ゲーム状態における再遊技当選確率は再遊技 1 当選確率と実質的に等しく約 7 .

10

20

30

40

50

3分の1である。いずれの当選フラグもセットされない外れの確率は約1.4分の1である。

【0142】

抽選処理の説明に戻り、ステップS703にて当否判定処理を行った後には、ステップS704及びステップS705にて設定値コマンドと抽選結果コマンドをセットする。ここで、設定値コマンドとは、現在の設定値を把握させるべく表示制御装置111に対して送信されるコマンドであり、抽選結果コマンドとは、役の当否判定の結果を把握させるべく表示制御装置111に対して送信されるコマンドである。

【0143】

その後、ステップS706にてリール停止制御用のスペリテーブル（停止テーブル）を設定するスペリテーブル設定処理を行い、本処理を終了する。ここで、スペリテーブルとは、ストップスイッチ72～74が押されたタイミングからリールをどれだけ滑らせた（回転させた）上で停止させるかが定められたテーブルである。すなわち、スペリテーブルとは、ストップスイッチ72～74が押された際に基点位置（本実施形態では下段）に到達している到達図柄と、前記基点位置に実際に停止させる停止図柄との関係が定められた停止データ群である。

【0144】

本実施の形態では、スペリテーブルに関するデータ構成に特徴を有するので、その点について説明する。

【0145】

本スロットマシン10では、ストップスイッチ72～74が操作された場合に、到達図柄をそのまま停止させる場合、対応するリールを1図柄分滑らせた後に停止させる場合、2図柄分滑らせた後に停止させる場合、3図柄分滑らせた後に停止させる場合、4図柄分滑らせた後に停止させる場合の5パターンがリールの停止態様として用意されている。これは、遊技者がストップスイッチ72～74を操作するタイミングと、各表示窓32L, 32M, 32Rから視認可能な範囲に停止する図柄配列（以下、「停止出目」と言う）とを密接に関連付けるための工夫である。つまり、ストップスイッチ72～74が操作されたタイミングから規定時間（190 msec）が経過するまでに各リール42L, 42M, 42Rを停止させることにより、遊技者の操作によってあたかも停止出目が決定されたかのような印象を遊技者に抱かせることが可能となる。また、4図柄分までは滑らせることが可能な構成とすることにより、かかる規定時間内で可能な限り抽選に当選した役と対応する図柄の組合せを有効ライン上に停止させることができとなる。

【0146】

このような停止態様に関する停止データは、左リール42Lに5種類（滑りなし、1コマ滑り、2コマ滑り、3コマ滑り、4コマ滑り）、中リール42Mに5種類、右リール42Rに5種類必要である。この場合、各リール42L, 42M, 42Rに関する停止データをビット単位で割り振る構成とすると、各リール42L, 42M, 42Rに3ビットの停止データが必要となり、1バイトに納めることができなくなる。

【0147】

この点、本実施の形態では、各5種類の停止データが必要であるから、各停止データをまとめて6進数と仮定して圧縮データを作成している。即ち、停止データを「（左リール42Lのデータ）×36 + （中リール42Mのデータ）×6 + （右リール42Rのデータ）」からなる構成とする。この場合、各リール42L, 42M, 42Rの停止データとして準備できる数は各々最大6種類であり、停止データ全体としては $6 \times 6 \times 6 = 216$ の組合せパターンが存在するが、これは1バイトで表現できる最大値である256以内となる。その結果、各リール42L, 42M, 42Rに5種類も停止データが存在するにもかかわらず、全てのリール42L, 42M, 42Rについての停止データを1バイト内に収めることができる。また、各リール42L, 42M, 42Rには21個の図柄が付されていることから、1つのスペリテーブルを21バイトで構成することができ、主制御装置131の記憶容量を削減することが可能となる。

10

20

30

40

50

【0148】

また、各停止データを圧縮データとして記憶する本スロットマシン10では、各停止データを使用するにあたって所定の解凍処理を行う。具体的には、到達図柄の図柄番号と対応する圧縮データを「36」(=6×6)で除算し、得られた商を左リール42Lの停止データとして把握する。さらに、その除算して得られた余りを「6」で除算し、得られた商を中リール42Mの停止データとして把握すると共に、その余りを右リール42Rの停止データとして把握する。

【0149】

上述した処理を経て、CPU151は各リール42L, 42M, 42Rの停止データを解凍データとして把握することができる。なお、全てのリール42L, 42M, 42Rについての停止データを1バイト内に収めることができる構成であればよく、例えば各停止データをまとめて5進数と仮定して圧縮データを作成してもよい。停止データが1バイト内におさまる条件としては、各リール42L, 42M, 42Rの停止データとして準備可能な最大数を乗算したときに得られる値が256以下であればよい。従って、各リール42L, 42M, 42Rにおいて、準備可能な停止データの最大数が同一である必要もない。例えば、左リール42Lに6種類、中リール42Mに8種類、右リール42Rに4種類の停止データを準備可能とした場合であっても、停止データ全体の組合せパターンは $6 \times 8 \times 4 = 192$ 通りとなり、1バイトで表現できる最大値256以下となるため、全てのリール42L, 42M, 42Rについての停止データを1バイト内に収めることができる。ちなみに、かかる場合には、圧縮データを「(右リール42Rのデータ) × 48 + (中リール42Mのデータ) × 6 + (左リール42Lのデータ)」とし、解凍処理では、到達図柄の図柄番号と対応する圧縮データを「48」で除算して得られた商を右リール42Rの停止データとし、その除算して得られた余りを「6」で除算して得られた商を中リール42Mの停止データとし、更にその余りを左リール42Lの停止データとして把握することとなる。

【0150】

図21は、「リプレイ」図柄を有効ライン上に停止させる場合にセットされるスペリテーブルの一例である。滑り数が0である番号の図柄は、下段に実際に停止する図柄である。例えば、左リール42Lの5番の「スイカ」図柄が下段に到達している際に左ストップスイッチ72が押された場合、左リール42Lは滑ることなくそのまま停止し、7番の「リプレイ」図柄が上段に停止する。また、滑り数が0でない番号の図柄は、記載された図柄数分だけリールが滑った後に停止することを意味する。例えば、左リール42Lの0番の「青年」図柄が下段に到達している際に左ストップスイッチ72が押された場合、左リール42Lは4図柄分だけ滑り、4番の「リプレイ」図柄が下段に停止する。このように、スペリテーブルでは、各リール42L, 42M, 42Rに付された図柄が下段に到達したタイミングでストップスイッチ72～74を押された場合の滑り数が図柄番号毎に設定されている。そして、例えば図柄番号0における左滑り数4、中滑り数2、右滑り数1の停止データが1バイトの圧縮データとされ、各図柄番号についての圧縮データすなわち21バイトの圧縮データから1つのスペリテーブルが構成されている。

【0151】

図22に示すように、スペリテーブル設定処理では、先ずステップS1101にてBB当選フラグがセットされているか否かを判定する。BB当選フラグがセットされていない場合には、ステップS1102にてBB以外の他の当選フラグがセットされているか否かを判定する。いずれの当選フラグもセットされていない外れの場合にはステップS1103に進み、遊技情報格納エリア153cに設けられたスペリテーブル格納エリアに外れ用スペリテーブルをセットし、本処理を終了する。ここで、外れ用スペリテーブルとは、いずれの入賞態様も成立しないように設定されたスペリテーブルである。

【0152】

ステップS1102にて他の当選フラグがセットされていると判定した場合、小役、RT、SB、再遊技1、再遊技2のいずれかに当選していることを意味する。かかる場合に

10

20

30

40

50

はステップ S 1104 に進み、上記各役と対応する当選フラグのうち再遊技 1 当選フラグ又は再遊技 2 当選フラグがセットされているか否かを始めに判定する。再遊技 1 当選フラグ又は再遊技 2 当選フラグがセットされている場合には、ステップ S 1105 にて再遊技入賞用スペリテーブルをスペリテーブル格納エリアにセットし、本処理を終了する。このとき、本スロットマシン 10 では、左リール 42L の「リプレイ」図柄が上段又は下段のいずれかに停止するように、中リール 42M 及び右リール 42R の「リプレイ」図柄が中段に停止するように設定された再遊技入賞用スペリテーブルをセットする。つまり、再遊技 1 当選フラグと再遊技 2 当選フラグのいずれがセットされている場合であっても同じ再遊技入賞用スペリテーブルをセットする。

【0153】

10

図 21 に示すスペリテーブルは、再遊技 1 又は再遊技 2 に当選している場合に最初にセットされるスペリテーブルである。かかるスペリテーブルでは、例えば中リール 42M の 2 番の「チェリー」図柄が下段に到達している際に中ストップスイッチ 73 が押された場合、中リール 42M は滑ることなくそのまま停止し、3 番の「リプレイ」図柄が中段に停止する。また、この 3 番の「リプレイ」図柄が下段に到達している際、すなわち中段を通過した後で中ストップスイッチ 73 が押された場合、中リール 42M は 2 図柄分だけ滑って 5 番の「スイカ」図柄が下段に停止し、6 番の「リプレイ」図柄が中段に停止する。右リール 42R についても同様であり、例えば右リール 42R の 7 番の「リプレイ」図柄が下段に到達している際に右ストップスイッチ 74 が押された場合、右リール 42R は 4 図柄分だけ滑って 11 番の「ベル」図柄が下段に停止し、12 番の「リプレイ」図柄が中段に停止する。このように、中リール 42M 及び右リール 42R については、「リプレイ」図柄が中段に停止するように設定されている。

20

【0154】

但し、左リール 42L については、上段又は下段のいずれかに「リプレイ」図柄が停止するように設定されている。例えば、15 番の「青年」図柄が下段に到達している際に左ストップスイッチ 72 が押されると 17 番の「リプレイ」図柄が上段に停止し、16 番の「ベル」図柄又は 17 番の「リプレイ」図柄が下段に到達している際に左ストップスイッチ 72 が押されると 17 番の「リプレイ」図柄が下段に停止する。これは、一般的に左リール 42L 中リール 42M 右リール 42R の順に回転を停止させるべくストップスイッチ 72 ~ 74 が操作されることを考慮し、停止出目を多様化させるための工夫である。

30

【0155】

ここで、「リプレイ」図柄は、下段に先に到達する図柄と次に到達する図柄との間隔が 4 図柄以下となるように、各リール 42L, 42M, 42R に配置されている。例えば、左リール 42L の 4 番の「リプレイ」図柄と 7 番の「リプレイ」図柄はその間隔が 2 図柄となるようにして配置されており、中リール 42M の 6 番の「リプレイ」図柄と 11 番の「リプレイ」図柄はその間隔が 4 図柄となるようにして配置されている。このように、「リプレイ」図柄は、同種図柄同士の間隔が 4 図柄以下となるようにして各リール 42L, 42M, 42R に配置されている。上述した通り、リール 42L, 42M, 42R はストップスイッチ 72 ~ 74 の操作されたタイミングから最大 4 図柄分滑らせた後に停止させることができる。したがって、かかる図柄配列とすることにより、ストップスイッチ 72 ~ 74 が如何なるタイミングで押された場合であっても、再遊技入賞等を成立させる際に「リプレイ」図柄を任意の位置に停止させることができる。例えば左リール 42L の 7 番の「リプレイ」図柄が下段に到達した際に左ストップスイッチ 72 が押された場合、左リール 42L をそのまま停止させればこの 7 番の「リプレイ」図柄を下段に停止させることができ、左リール 42L を 3 図柄分滑らせた後に停止させれば 12 番の「リプレイ」図柄を上段に停止させることができ、左リール 42L を 4 図柄分滑らせた後に停止させれば 12 番の「リプレイ」図柄を中段に停止させることができる。

40

【0156】

ステップ S 1104 にて再遊技 1 当選フラグと再遊技 2 当選フラグのいずれもセットされていないと判定した場合、ステップ S 1106 にて R T 当選フラグがセットされている

50

か否かを判定すると共に、ステップ S 1 1 0 7 にて S B 当選フラグがセットされているか否かを判定する。R T 当選フラグと S B 当選フラグのいずれもセットされていない場合(ステップ S 1 1 0 6 , S 1 1 0 7 が共に N O の場合)には、ステップ S 1 1 0 8 に進み、セットされている小役当選フラグと対応する小役入賞用スペリテーブルをスペリテーブル格納エリアにセットし、本処理を終了する。このとき、本スロットマシン 1 0 では、左リール 4 2 L の当選役と対応する図柄(以下、「当選図柄」とも言う。)が上段又は下段のいずれかに停止するように、中リール 4 2 M 及び右リール 4 2 R の当選図柄が中段に停止するように設定されたスペリテーブルをセットする。

【 0 1 5 7 】

ここで、各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R に配置された「リプレイ」図柄以外の図柄について簡単に説明する。 10

【 0 1 5 8 】

「ベル」図柄は、「リプレイ」図柄と同様、同種図柄同士の間隔が 4 図柄以下となるようにして各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R に配置されている。したがって、ストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 が如何なるタイミングで操作された場合であっても、ベル入賞を成立させる際に「ベル」図柄を任意の位置に停止させることができる。本スロットマシン 1 0 では、上記「ベル」図柄と「リプレイ」図柄の他、右リール 4 2 R の「チェリー」図柄も同種図柄同士の間隔が 4 図柄以下となるようにして配置されている。

【 0 1 5 9 】

一方、「スイカ」図柄は、同種図柄同士の間隔が 4 図柄以下となるようにして各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R に配置されていない。例えば中リール 4 2 M では、1 番の「スイカ」図柄から 5 番の「スイカ」図柄までの間隔は 3 図柄である一方、5 番の「スイカ」図柄から 1 番の「スイカ」図柄までの間隔は 1 6 図柄ある。このため、例えば中リール 4 2 M の 6 番の「リプレイ」図柄が下段に到達している際に中ストップスイッチ 7 3 が押された場合、仮に中リール 4 2 M を 4 図柄分滑らせて「スイカ」図柄を有効ライン上に停止させることはできない。したがって、スイカに当選し、「スイカ」図柄が有効ライン上に停止するように設定されたスペリテーブルをセットした場合であっても、ストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 の押されたタイミングによっては「スイカ」図柄が有効ライン上に停止せず、所謂取りこぼしが発生することもある。本スロットマシン 1 0 では、かかる「スイカ」図柄の他、各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R の「7」図柄と左リール 4 2 L の「チェリー」図柄についても 5 図柄以上離れた区間が形成されるようにして配置されている。このため、スイカ、B B 、チェリーのいずれかに当選した場合には、当選図柄が有効ライン上に停止するよう狙ってストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 を操作する必要がある。 20 30

【 0 1 6 0 】

スペリテーブル設定処理の説明に戻り、S B 当選フラグのみがセットされている場合(ステップ S 1 1 0 6 が N O , S 1 1 0 7 が Y E S の場合)には、ステップ S 1 1 0 9 に進み、S B 入賞用スペリテーブルをスペリテーブル格納エリアにセットし、本処理を終了する。このとき、本スロットマシン 1 0 では、左リール 4 2 L の S B 図柄(すなわち「リプレイ」図柄)が上段又は下段のいずれかに停止するように、中リール 4 2 M 及び右リール 4 2 R の S B 図柄(すなわち中リール 4 2 M の「リプレイ」図柄、右リール 4 2 R の「チェリー」図柄)が中段に停止するように設定されたスペリテーブルをセットする。同様に、R T 当選フラグのみがセットされている場合(S 1 1 0 6 が Y E S の場合)には、ステップ S 1 1 1 0 に進み、R T 入賞用スペリテーブルをスペリテーブル格納エリアにセットし、本処理を終了する。このとき、本スロットマシン 1 0 では、左リール 4 2 L の R T 図柄(すなわち「リプレイ」図柄)が上段又は下段のいずれかに停止するように、中リール 4 2 M 及び右リール 4 2 R の R T 図柄(すなわち中リール 4 2 M の「ベル」図柄、右リール 4 2 R の「リプレイ」図柄)が中段に停止するように設定されたスペリテーブルをセットする。 40

【 0 1 6 1 】

ここで、先の抽選処理にて説明した通り、通常ゲーム状態では、乱数 R N が 1 1 1 2 0 50

～20099のいずれかの値である場合、第6当選領域LT6と第7当選領域LT7と共に属することとなるため、SBと再遊技1に重複当選してSB当選フラグと再遊技1当選フラグがセットされる。つまり、SB当選フラグがセットされている場合には常に再遊技1当選フラグがセットされている。また、スペリテーブル設定処理では、SB当選フラグのセット有無に先駆けて再遊技1当選フラグのセット有無を判定する。故に、本スロットマシン10では、SB入賞より再遊技入賞が優先して成立するようにスペリテーブルをセットしていると言える。

【0162】

ステップS1101にてBB当選フラグがセットされていると判定した場合、ステップS1111ではさらに再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされているか否か、つまりBB当選フラグが持ち越されている状態で再遊技に当選しているか否かを判定する。再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされている場合には、ステップS1112にて再遊技入賞用スペリテーブルをスペリテーブル格納エリアにセットし、本処理を終了する。このとき、ステップS1105にてセットされる再遊技入賞用スペリテーブルと同じ再遊技入賞用スペリテーブルをセットする。つまり、BB当選フラグが持ち越されている場合であっても、BB入賞より再遊技入賞が優先して成立するようにスペリテーブルをセットする。

【0163】

このように、本スロットマシン10では、再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされている場合、他の当選役と対応する入賞（具体的にはSB入賞とBB入賞）より優先して再遊技入賞が成立するようにスペリテーブルをセットする。

【0164】

ステップS1111にて再遊技1当選フラグと再遊技2当選フラグがいずれもセットされていないと判定した場合には、ステップS1113にて小役当選フラグがセットされているか否か、つまりBB当選フラグが持ち越されている状態で小役に当選しているか否かを判定する。小役当選フラグがセットされていない場合、すなわち、BB当選フラグのみがセットされている場合には、ステップS1114にてBB入賞用スペリテーブルをスペリテーブル格納エリアにセットし、本処理を終了する。このとき、左リール42Lの「7」図柄が上段又は下段のいずれかに停止するように、中リール42M及び右リール42Rの「7」図柄が中段に停止するように設定されたBB入賞用スペリテーブルをセットする。

【0165】

ステップS1113にて小役当選フラグがセットされている場合、すなわちBB当選フラグが持ち越されている状態で小役に当選した場合には、ステップS1115にてBB優先入賞用スペリテーブルをスペリテーブル格納エリアにセットし、本処理を終了する。ここでBB優先入賞用スペリテーブルとは、当選した小役図柄より「7」図柄が優先して有効ライン上に停止するように設定されたスペリテーブルである。スペリテーブル設定処理では、左リール42Lの「7」図柄を上段又は下段のいずれかに停止させることが可能であれば「7」図柄をいずれかに停止させるように、中リール42M及び右リール42Rの「7」図柄を中段に停止させることができれば中段に停止させるように設定されると共に、「7」図柄を上記各位置に停止させることが不可能であって小役当選図柄を上記各位置に停止させることができればこの小役当選図柄を上記各位置に停止させるように設定されたBB優先入賞用スペリテーブルをセットする。

【0166】

以上のとおり、スペリテーブル設定処理では、再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされている場合、他の当選役と対応する入賞（具体的にはSB入賞とBB入賞）より優先して再遊技入賞が成立するようにスペリテーブルをセットし、BB当選フラグがセットされている場合、小役入賞より優先してBB入賞を成立させることができるようにスペリテーブルをセットする。

【0167】

10

20

30

40

50

次に、ステップ S 610 のリール制御処理について、図 23 のフローチャートに基づき説明する。なお、理解を容易なものとするため、ここでは実際のゲームの進行に即して説明すると共に図 7 の図柄配列を適宜参照しながら説明することとする。

【0168】

リール制御処理では、先ずステップ S 1201において各リール 42L, 42M, 42R の回転を開始させる回転開始処理を行う。

【0169】

回転開始処理では、図 24 のフローチャートに示すように、ステップ S 1301 にて前回のゲームでリールが回転を開始した時点から予め定めたウェイト時間（例えば 4.1 秒）が経過したか否かを確認する。経過していない場合にはステップ S 1302 にてウェイト待ちコマンドをセットすると共に、ウェイト時間が経過するまで待機する。ここで、ウェイト待ちコマンドとは、ウェイト時間を経過していないことを把握させるべく表示制御装置 111 に対して送信されるコマンドである。ウェイト時間が経過した場合には、ステップ S 1303 にて次のゲームのためのウェイト時間を再設定する。その後、ステップ S 1304 ではウェイト終了コマンドをセットし、続くステップ S 1305 では、タイマ割込み処理のカウンタ処理 S 209 にて外部集中端子板 171 へ出力するメダルのベット数をセットする。ここで、ウェイト終了コマンドとは、ウェイト時間が経過したことを探るべく表示制御装置 111 に対して送信されるコマンドである。ステップ S 1306 では、遊技情報格納エリア 153c に設けられたモータ制御格納エリアに回転開始情報をセットするモータ制御初期化処理を行う。かかる処理を行うことにより、タイマ割込み処理のステッピングモータ制御処理 S 206 にてステッピングモータ 61L ~ 61R の加速処理が開始され、各リール 42L, 42M, 42R が回転を開始する。このため、遊技者が規定数のメダルをベットしてスタートレバー 71 を操作したとしても、直ちに各リール 42L, 42M, 42R が回転を開始しない場合がある。

【0170】

ステップ S 1307 では、回転情報コマンドをセットする。ここで、回転情報コマンドとは、各リール 42L, 42M, 42R の回転状況を表示制御装置 111 に把握させるべく送信されるコマンドである。ステップ S 1308 では、各リール 42L, 42M, 42R が所定の回転速度で定速回転しているか否かを判定し、定速回転していない場合には各リール 42L, 42M, 42R が定速回転するまで待機する。その後、各リール 42L, 42M, 42R が定速回転となった場合にはステップ S 1309 に進み、定速回転コマンドをセットして本処理を終了する。ここで、定速回転コマンドとは、各リール 42L, 42M, 42R の回転速度が一定となったことを表示制御装置 111 に把握させるべく送信されるコマンドである。また、CPU 151 は、各リール 42L, 42M, 42R が定速回転となった場合、各ストップスイッチ 72 ~ 74 の図示しないランプを点灯表示することにより、停止操作が可能となったことを遊技者等に報知する。

【0171】

リール制御処理の説明に戻り、ステップ S 1202 では、ストップスイッチ 72 ~ 74 のいずれかが操作されてリールの停止指令が発生したか否か、より具体的にはストップ検出センサ 72a ~ 74a からの ON 信号を受信したか否かを判定し、停止指令が発生していない場合には停止指令が発生するまで待機する。

【0172】

ステップ S 1202 にてストップスイッチ 72 ~ 74 のいずれかが操作されて停止指令が発生した場合には、ステップ S 1203 に進み、今回の停止指令が第 3 停止指令か否か、すなわち 1 つのリールのみが回転しているときにストップスイッチが操作されたか否かを判定する。全リール 42L, 42M, 42R が回転しているときにストップスイッチ 72 ~ 74 のいずれかが操作された場合、今回の停止指令は第 1 停止指令であることを意味する。かかる場合にはステップ S 1203 にて否定判定を行い、ステップ S 1204 にてスペリテーブル第 1 変更処理を行う。スペリテーブル第 1 変更処理とは、停止指令の発生に基づいてリールを停止させる前に行うスペリテーブルの変更処理である。

10

20

30

40

50

【0173】

スペリテーブル第1変更処理では、図25のフローチャートに示すように、ステップS1401にて今回の停止指令が第1停止指令か否かを判定する。今回の停止指令は第1停止指令であるため、ステップS1402～ステップS1409に示す第1停止変更処理を行う。第1停止変更処理では、ステップS1402においていずれのストップスイッチが操作されたかを確認し、ステップS1403では、操作されたストップスイッチが左ストップスイッチ72か否かを判定する。そして、左ストップスイッチ72が操作されていた場合には、スペリテーブルを変更することなくそのまま本処理を終了する。これは、先のスペリテーブル設定処理(図22参照)において、左ストップスイッチ72が最初に操作されることを想定してスペリテーブルをセットしているためである。

10

【0174】

一方、左ストップスイッチ72以外のストップスイッチが操作された場合、想定された順序(すなわち左ストップスイッチ72 中ストップスイッチ73 右ストップスイッチ74の順序)と異なる順序でストップスイッチが操作されたことを意味する。かかる場合にはステップS1404に進み、再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされているか否かを判定する。再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされている場合にはステップS1405に進み、遊技情報格納エリア153cのスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルを、再遊技入賞を成立させるための入賞確定用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。ここで、入賞確定用スペリテーブルとは、セットされた当選フラグと対応する入賞が成立しない所謂取りこぼしの発生を回避するためのスペリテーブルである。

20

【0175】

図26は、再遊技1又は再遊技2に当選している場合にセットされる入賞確定用スペリテーブルである。かかるスペリテーブルでは、各リール42L, 42M, 42Rの「リプレイ」図柄が中段に停止するように設定されている。すなわち、再遊技1又は再遊技2当選時の入賞確定用スペリテーブルは、再遊技入賞が中ライン上で成立するよう設定されている。これは、役の複合が発生することを回避させつつ再遊技入賞を成立させるための工夫である。左リール42Lの「チェリー」図柄はその図柄単独で入賞を成立させることができ可能な図柄であるため、左ストップスイッチ72が最初に操作されなかった場合、再遊技入賞等の図柄の組合せによって入賞が成立するものと、左リール42L単独で入賞が成立するチェリー入賞とで役の複合が発生し得る。具体的には、中リール42Mと右リール42Rの「リプレイ」図柄が下段に停止している状況下で左リール42Lの12番の「リプレイ」図柄を下段に停止させた場合、上段に14番の「チェリー」図柄が停止するため、再遊技入賞とチェリー入賞が同時に成立する役の複合が発生してしまう。しかしながら、先の抽選処理において再遊技1とチェリーに共に当選することや再遊技2とチェリーに共に当選することはないため、役の複合が発生する矛盾を回避させる必要がある。そこで、左ストップスイッチ72以外のストップスイッチが最初に操作された場合には中ライン上で再遊技入賞が成立する入賞確定用スペリテーブルをセットすることにより、役の複合を回避させつつ再遊技入賞を成立させることが可能となる。

30

【0176】

ステップS1404にて再遊技1当選フラグと再遊技2当選フラグのいずれもセットされていないと判定した場合、ステップS1406～ステップS1408では他の当選フラグがセットされているか否かを判定する。すなわち、ステップS1406ではB B当選フラグがセットされているか否かを判定し、ステップS1407ではベル当選フラグがセットされているか否かを判定し、ステップS1408ではS B当選フラグ又はR T当選フラグがセットされているか否かを判定する。ベル当選フラグのみがセットされている場合(S1406がNO、S1407がYESの場合)には、上述したステップS1405に進み、遊技情報格納エリア153cのスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルを、ベル入賞を成立させるための入賞確定用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。詳細な説明は省略するが、ベル当選時の入賞確定用スペリテーブルは、ベル入賞が

40

50

右上がりライン上で成立するように設定されている。これは、役の複合が発生することを回避させつつベル入賞を成立させるための工夫である。例えば、中リール42Mと右リール42Rの「ベル」図柄が上段に停止している状況下で左リール42Lの3番の「ベル」図柄を上段に停止させた場合、下段に1番の「チェリー」図柄が停止するため、ベル入賞とチェリー入賞が同時に成立する役の複合が発生してしまう。しかしながら、先の抽選処理においてベルとチェリーに共に当選することはないとため、役の複合が発生する矛盾を回避させる必要がある。そこで、左ストップスイッチ72以外のストップスイッチが最初に操作された場合には右上がりライン上でベル入賞が成立する入賞確定用スペリテーブルをセットすることにより、役の複合を回避させつつベル入賞を成立させることが可能となる。

10

【0177】

S B 当選フラグのみ又は R T 当選フラグのみがセットされている場合(ステップS1406, S1407が共にNO、S1408がYESの場合)にも、上述したステップS1405に進み、遊技情報格納エリア153cのスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルを、セットされている当選フラグと対応する入賞を成立させるための入賞確定用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。詳細な説明は省略するが、S B 当選フラグがセットされている場合の入賞確定用スペリテーブルは、S B 入賞が右下がりライン上で成立するように設定されており、R T 当選フラグがセットされている場合の入賞確定用スペリテーブルは、S B 入賞が上ライン上で成立するように設定されている。

20

【0178】

上述した通り、左リール42LのS B 図柄とR T 図柄は共に「リプレイ」図柄であるため、左ストップスイッチ72の操作されたタイミングによっては役の複合が発生し得る。また、中リール42MのS B 図柄は「リプレイ」図柄であり、右リール42RのS B 図柄は「チェリー」図柄であるため、対応するストップスイッチ73, 74の操作タイミングに関わらず任意の位置にS B 図柄を停止させることができる。同様に、中リール42MのR T 図柄は「ベル」図柄であり、右リール42RのR T 図柄は「リプレイ」図柄であるため、対応するストップスイッチ73, 74の操作タイミングに関わらず任意の位置にR T 図柄を停止させることができる。そこで、左ストップスイッチ72以外のストップスイッチが最初に操作された場合には、右下がりライン上でS B 入賞が成立する入賞確定用スペリテーブルをセットしたり、上ライン上でR T 入賞が成立する入賞確定用スペリテーブルをセットしたりすることにより、役の複合を回避させつつS B 入賞又はR T 入賞を成立させることが可能となる。

30

【0179】

ステップS1406にて肯定判定をした場合又はステップS1406～ステップS1408の全てにおいて否定判定をした場合、すなわち、スイカにのみ当選した場合、チェリーにのみ当選した場合、B B 当選フラグが持ち越されている状況下で小役のいずれかに当選した場合、外れの場合には、ステップS1409に進み、遊技情報格納エリア153cのスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルを、セットされている当選フラグ及び操作されたストップスイッチと一義的に対応する変則押し用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。本スロットマシン10では、スペリテーブル設定処理にてセットされるスペリテーブルと同様、当選図柄の停止可能な位置を複数設定されたスペリテーブルが、中リール42M及び右リール42Rについてもそれぞれ用意されている。そして、左ストップスイッチ72以外のストップスイッチが最初に操作された場合には、当選図柄の停止可能な位置が左リール42Lに複数設定されたスペリテーブルから、操作されたストップスイッチと対応するリールに複数設定されたスペリテーブルに変更する。これは、取りこぼしの発生頻度を低減させるための工夫である。なお、外れフラグがセットされている場合には、いずれの入賞態様も成立しないようにスペリテーブルを変更する。これは、停止出目を多様化させるための工夫である。

40

【0180】

スペリテーブル第1変更処理が終了した後、ステップS1205では、かかるタイミン

50

グで下段に到達している到達図柄の図柄番号を確認する。具体的には、リールインデックスセンサ 5 5 の検出信号が出力された時点からのパルス数により、下段に到達している到達図柄の図柄番号を確認する。続くステップ S 1 2 0 6 では、遊技情報格納エリア 1 5 3 c のスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルのうち、到達図柄と対応する図柄番号の圧縮データから今回停止させるべきリールのスペリ量を算出し、ステップ S 1 2 0 7 にて下段に実際に停止させる停止図柄の図柄番号を決定する。ステップ S 1 2 0 8 では今回停止させるべきリールの到達図柄の図柄番号と停止図柄の図柄番号が等しくなったか否かを判定し、等しくなった場合にはステップ S 1 2 0 9 にてリールの回転を停止させるリール停止処理を行う。その後、ステップ S 1 2 1 0 では、現在の各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R の回転状況を表示制御装置 1 1 1 に把握させるべく回転情報コマンドを 10 セットし、ステップ S 1 2 1 1 では停止図柄コマンドをセットする。ここで、停止図柄コマンドとは、表示窓から視認可能な範囲（上段、中段、下段）に停止した図柄を把握させるべく表示制御装置 1 1 1 に対して送信されるコマンドである。そして、ステップ S 1 2 1 2 では、全てのリールが停止したか否かを判定する。第 1 停止指令に基づいて上述したステップ S 1 2 0 3 ~ ステップ S 1 2 1 1 の処理を行った場合、未だに 2 つのリールは回転中である。かかる場合にはステップ S 1 2 1 2 にて否定判定を行い、続くステップ S 1 2 1 3 にてスペリテーブル第 2 変更処理を行う。スペリテーブル第 2 変更処理とは、リールを停止させた後に行うスペリテーブルの変更処理である。

【 0 1 8 1 】

ここで、スペリテーブル第 2 変更処理について図 2 7 のフローチャートを用いて説明する。スペリテーブル第 2 変更処理では、ステップ S 1 5 0 1 にて現在セットされているスペリテーブルが入賞確定用スペリテーブルか否かを判定し、入賞確定用スペリテーブルである場合にはそのまま本処理を終了する。入賞確定用スペリテーブルでない場合にはステップ S 1 5 0 2 に進み、B B 当選フラグがセットされているか否かを判定する。B B 当選フラグがセットされていない場合にはステップ S 1 5 0 3 にて現在停止しているリールの下段に停止した停止図柄の図柄番号を確認する。ステップ S 1 5 0 4 では、停止図柄の図柄番号が、現在セットされているスペリテーブルから一義的に導かれる変更図柄の図柄番号と一致しているか否かを判定し、一致していない場合にはスペリテーブルを変更することなくそのまま本処理を終了する。停止図柄の図柄番号と変更図柄の図柄番号が一致している場合にはステップ S 1 5 0 5 に進み、遊技情報格納エリア 1 5 3 c のスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルを、ライン変更用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。本スロットマシン 1 0 では、スペリテーブル設定処理にてセットされるスペリテーブルと同様、当選図柄の停止可能な位置を複数設定されたスペリテーブルが、中リール 4 2 M 及び右リール 4 2 R についてもそれぞれ用意されている。そして、第 1 停止指令に基づいて停止させたリールの停止図柄に応じて、当選図柄の停止可能な位置が回転中の他のリールについて複数設定されたスペリテーブルに変更する。これは、停止出目が単調化することを抑制するための工夫である。 30

【 0 1 8 2 】

例えば図 2 1 に示すスペリテーブルに基づいて左リール 4 2 L と中リール 4 2 M を停止させる構成とした場合、左リール 4 2 L の「リプレイ」図柄は上段又は下段に停止する一方、中リール 4 2 M の「リプレイ」図柄は中段にしか停止しない。ところが、左リール 4 2 L の「リプレイ」図柄が上段に停止した場合、中リール 4 2 M の「リプレイ」図柄が中段ではなく上段に停止しても再遊技入賞の成立する余地が残る。同様に、左リール 4 2 L の「リプレイ」図柄が下段に停止した場合、中リール 4 2 M の「リプレイ」図柄が中段ではなく下段に停止しても再遊技入賞の成立する余地が残る。つまり、図 2 1 に示すスペリテーブルに基づいて左リール 4 2 L と中リール 4 2 M を停止させる構成とした場合、中リール 4 2 M の停止出目が過剰に制約を受けることとなり、停止出目の単調化に繋がる。また、例えばスイカに当選している場合、「スイカ」図柄は所定のタイミングでストップスイッチを操作しなければ有効ライン上に停止させることができないため、取りこぼしの発生頻度が高まることとなる。そこで本スロットマシン 1 0 では、停止したリールの停止図 40 50

柄を確認し、確認結果に応じたライン変更用スペリテーブルに変更することとしている。例えば、左リール42Lの当選図柄が下段に停止した場合、中リール42Mの当選図柄が下段又は中段に停止するよう設定されたスペリテーブルに変更し、左リール42Lの当選図柄が上段に停止した場合、中リール42Mの当選図柄が上段又は中段に停止するよう設定されたスペリテーブルに変更する。すなわち、本実施の形態では、当選図柄が有効ライン上に停止した際ににおける下段の図柄番号が変更図柄の図柄番号として一義的に導かれるようになっている。

【0183】

ちなみに、本スロットマシン10では、停止図柄と変更図柄が一致した場合、以下に示すようなスペリテーブルに変更する。左リール42Lが停止している場合、当選図柄の停止可能な位置が中リール42Mについて複数設定されたスペリテーブルに変更し、中リール42Mが停止している場合、当選図柄の停止可能な位置が右リール42Rについて複数設定されたスペリテーブルに変更し、右リール42Rが停止している場合、当選図柄の停止可能な位置が左リール42Lについて複数設定されたスペリテーブルに変更する。10

【0184】

一方、ステップS1502にてB B当選フラグがセットされていると判定した場合、ステップS1506では、再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされているか否かを判定し、再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされている場合には上述したステップS1503～ステップS1505の処理を行い、本処理を終了する。20
また、再遊技1当選フラグと再遊技2当選フラグがいずれもセットされていない場合には、ステップS1507にてB B当選時処理を行い、本処理を終了する。

【0185】

B B当選時処理では、図28のフローチャートに示すように、ステップS1601にて有効ライン上に当選図柄が停止しているか否かを判定する。当選図柄が停止していると判定した場合、ステップS1602にてB B図柄（すなわち「7」図柄）が有効ライン上に停止しているか否かを判定する。そして、有効ライン上にB B図柄が停止している場合にはステップS1603に進み、スペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルをB B入賞用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。一方、ステップS1601において有効ライン上に当選図柄が停止していると判定すると共にステップS1602において有効ライン上にB B図柄が停止していないと判定した場合、B B当選が持ち越されている状況下で小役に当選し、この当選した小役と対応する図柄が有効ライン上に停止していることを意味する。そこで、かかる場合にはステップS1604に進み、スペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルを小役入賞用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。また、ステップS1601において当選図柄が有効ライン上に停止していないと判定した場合、当該ゲームではいずれの入賞も成立しないことを意味するため、スペリテーブルを変更することなくそのまま本処理を終了する。30

【0186】

ちなみに、B B当選時処理においても、上述したステップS1503～ステップS1505と同様の処理を行っている。すなわち、現在停止しているリールの下段に停止した停止図柄の図柄番号を確認し、現在セットされているスペリテーブルから一義的に導かれる変更図柄の図柄番号と一致しているか否かを判定する。そして、停止図柄の図柄番号が、有効ライン上にB B図柄が停止したことを意味する変更図柄の図柄番号と一致した場合にはB B入賞用スペリテーブルに変更し、有効ライン上に小役図柄が停止したことを意味する変更図柄の図柄番号と一致した場合には小役入賞用スペリテーブルに変更する。40

【0187】

以上のように、第1停止指令に基づいて対応するリールを停止させると共にスペリテーブル第2変更処理を行うと、ステップS1202に戻り、回転中のリールと対応するストップスイッチのいずれかが操作されて次の停止指令が発生するまで待機する。

【0188】

ステップS1202にて回転中のリールと対応するストップスイッチのいずれかが操作50

されて停止指令が発生した場合には、ステップS1203に進み、今回の停止指令が第3停止指令か否かを判定する。いずれか1つのリールが停止しているときにストップスイッチが操作された場合、今回の停止指令は第2停止指令であることを意味する。かかる場合にはステップS1203にて否定判定を行い、ステップS1204にてスペリテーブル第1変更処理を行う。

【0189】

スペリテーブル第1変更処理では、図25のフローチャートに示すように、ステップS1401にて今回の停止指令が第1停止指令か否かを判定する。今回の停止指令は第2停止指令であるため、ステップS1410～ステップS1415に示す第2停止変更処理を行う。第2停止変更処理では、ステップS1410にて現在セットされているスペリテーブルが入賞確定用スペリテーブルか否かを判定し、入賞確定用スペリテーブルである場合にはそのまま本処理を終了する。入賞確定用スペリテーブルでない場合にはステップS1411に進み、第1停止指令及び第2停止指令がいずれのストップスイッチ72～74に対してどのような順序でなされたかを確認する。続くステップS1412では、確認結果が所定の操作順序か否かを判定する。具体的には、操作順序が、左ストップスイッチ72

中ストップスイッチ73の操作順序、中ストップスイッチ73 右ストップスイッチ74の操作順序、右ストップスイッチ74 左ストップスイッチ72の操作順序か否かを判定する。そして、所定の操作順序の場合にはスペリテーブルを変更することなくそのまま本処理を終了する。これは、先のスペリテーブル第2変更処理において、上述した各操作順序のいずれかでストップスイッチ72～74が操作されることを想定したスペリテーブルに変更しているためである。

【0190】

ステップS1412において所定の操作順序でないと判定した場合にはステップS1413に進み、第1停止指令に基づいて停止したリールの下段に停止した停止図柄の図柄番号を確認する。ステップS1414では、停止図柄の図柄番号が、現在セットされているスペリテーブルから一義的に導かれる変更図柄の図柄番号と一致しているか否かを判定し、一致しない場合にはスペリテーブルを変更することなくそのまま本処理を終了する。停止図柄の図柄番号と変更図柄の図柄番号が一致した場合にはステップS1415に進み、遊技情報格納エリア153cのスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルを、ライン変更用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。具体的には、第1停止指令に基づいて停止させたリールの停止図柄に応じて、当選図柄の停止可能な位置が第2停止指令に基づいて停止させるリールについて複数設定されたスペリテーブルに変更する。例えば、再遊技1当選フラグがセットされ、左リール42Lの「リプレイ」図柄が上段に停止している状況下で右ストップスイッチ74が第2停止指令として操作された場合、再遊技入賞を成立させるためには右リール42Rの「リプレイ」図柄を上段又は下段に停止させればよい。そこで、左ストップスイッチ72 右ストップスイッチ74の順にストップスイッチが操作された場合には、右リール42Rの「リプレイ」図柄が上段又は下段に停止するように設定されたスペリテーブルに変更する。

【0191】

スペリテーブル第1変更処理が終了した後、ステップS1205では、かかるタイミングで下段に到達している到達図柄の図柄番号を確認する。続くステップS1206では、遊技情報格納エリア153cのスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルのうち、到達図柄と対応する図柄番号の圧縮データから今回停止させるべきリールのスペリ量を算出し、ステップS1207にて下段に実際に停止させる停止図柄の図柄番号を決定する。ステップS1208では今回停止させるべきリールの到達図柄の図柄番号と停止図柄の図柄番号が等しくなったか否かを判定し、等しくなった場合にはステップS1209にてリールの回転を停止させるリール停止処理を行う。その後、ステップS1210では、現在の各リール42L, 42M, 42Rの回転状況を表示制御装置111に把握させるべく回転情報コマンドをセットし、ステップS1211では、今回のリール停止処理により表示窓から視認可能な範囲に停止した図柄を把握させるべく停止図柄コマンドをセッ

10

20

30

40

50

トする。そして、ステップ S 1212 では、全てのリールが停止したか否かを判定する。第2停止指令に基づいて上述したステップ S 1203 ~ ステップ S 1211 の処理を行った場合、未だに1つのリールが回転中である。かかる場合にはステップ S 1212 にて否定判定を行い、続くステップ S 1213 にてスペリテーブル第2変更処理を行う。

【0192】

ここで、スペリテーブル第2変更処理について図27のフローチャートを用いて説明する。スペリテーブル第2変更処理では、ステップ S 1501 にて現在セットされているスペリテーブルが入賞確定用スペリテーブルか否かを判定し、入賞確定用スペリテーブルである場合にはそのまま本処理を終了する。入賞確定用スペリテーブルでない場合にはステップ S 1502 に進み、B B 当選フラグがセットされているか否かを判定する。B B 当選フラグがセットされていない場合にはステップ S 1503 にて現在停止している2つのリールの下段に停止した停止図柄の図柄番号を確認する。ステップ S 1504 では、各停止図柄の図柄番号が、現在セットされているスペリテーブルから一義的に導かれる変更図柄の図柄番号とそれぞれ一致しているか否かを判定し、少なくとも一方が一致していない場合にはスペリテーブルを変更することなくそのまま本処理を終了する。各停止図柄の図柄番号と各変更図柄の図柄番号が共に一致した場合にはステップ S 1505 に進み、遊技情報格納エリア 153c のスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルを、ライン変更用スペリテーブルに変更して本処理を終了する。例えば、再遊技1当選フラグがセットされている状況下で左リール 42L の「リプレイ」図柄が上段、中リール 42M の「リプレイ」図柄が中段に停止した場合、右リール 42R の「リプレイ」図柄が下段に停止するスペリテーブルに変更する。10

【0193】

一方、ステップ S 1502 にて B B 当選フラグがセットされていると判定した場合、ステップ S 1506 では、再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされているか否かを判定し、再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされている場合には上述したステップ S 1503 ~ ステップ S 1505 の処理を行い、本処理を終了する。また、再遊技1当選フラグと再遊技2当選フラグがいずれもセットされていない場合には、ステップ S 1507 にて B B 当選時処理を行い、本処理を終了する。なお、第2停止指令時における B B 当選時処理は、現在停止している2つのリールについて当選図柄が有効ライン上に並んで停止しているか否かを判定する点が相違するのみであるため、説明を省略する。20

【0194】

以上のように、第2停止指令に基づいて対応するリールを停止させると共にスペリテーブル第2変更処理を行うと、ステップ S 1202 に戻り、回転中のリールと対応するストップスイッチが操作されて次の停止指令が発生するまで待機する。

【0195】

ステップ S 1202 にて回転中のリールと対応するストップスイッチが操作されて停止指令が発生した場合には、ステップ S 1203 に進み、今回の停止指令が第3停止指令か否かを判定する。2つのリールが停止しているときにストップスイッチが操作された場合、今回の停止指令は第3停止指令であることを意味する。かかる場合にはステップ S 1203 にて肯定判定を行い、スペリテーブル第1変更処理を行うことなくステップ S 1205 に進む。40

【0196】

ステップ S 1205 では、かかるタイミングで下段に到達している到達図柄の図柄番号を確認する。続くステップ S 1206 では、遊技情報格納エリア 153c のスペリテーブル格納エリアにセットされたスペリテーブルのうち、到達図柄と対応する図柄番号の圧縮データから今回停止させるべきリールのスペリ量を算出し、ステップ S 1207 にて下段に実際に停止させる停止図柄の図柄番号を決定する。ステップ S 1208 では今回停止させるべきリールの到達図柄の図柄番号と停止図柄の図柄番号が等しくなったか否かを判定し、等しくなった場合にはステップ S 1209 にてリールの回転を停止させるリール停止50

処理を行う。その後、ステップ S 1210 では、現在の各リール 42L, 42M, 42R の回転状況を表示制御装置 111 に把握させるべく回転情報コマンドをセットし、ステップ S 1211 では停止図柄コマンドをセットする。そして、ステップ S 1212 では、全てのリールが停止したか否かを判定する。第 3 停止指令に基づいて上述したステップ S 1203 ~ ステップ S 1211 の処理を行った場合には、全てのリールが回転を停止している。かかる場合にはステップ S 1212 にて肯定判定を行い、ステップ S 1214 にて払出判定処理を行って本処理を終了する。払出判定処理とは、当選図柄の組合せが有効ライン上に並んでいることを条件の 1 つとしてメダルの払出枚数を設定する処理である。

【0197】

払出判定処理では、図 29 のフローチャートに示すように、ステップ S 1701 にて現在の遊技状態に基づき有効ラインを確認する。詳細は後述するが、これは、遊技状態が B B ゲームに移行した場合、有効ラインが 5 ラインから 1 ライン（中ライン）に変更されるためである。ステップ S 1702 では、各リール 42L, 42M, 42R の下段に停止した停止図柄の図柄番号から所定有効ライン上の図柄の組合せを導出し、ステップ S 1703 にて入賞が成立しているか否かを判定する。入賞が成立している場合にはステップ S 1704 に進み、入賞成立役が抽選処理にてセットされた当選フラグと一致しているか否かを判定する。入賞成立役と当選フラグが一致していない場合にはステップ S 1705 に進み、スロットマシン 10 をエラー状態と共にエラーの発生を報知する異常発生時処理を行う。その後、ステップ S 1706 では、リセットスイッチ 123 が操作されたか否かを判定し、リセットスイッチ 123 が操作されるまで待機する。リセットスイッチ 123 が操作された場合には、エラー状態から復帰してそれ以降の処理を開始する。すなわち、リセットスイッチ 123 が操作された場合又はステップ S 1704 にて入賞成立役と当選フラグが一致している場合には、ステップ S 1707 にて入賞成立役をセットすると共に、ステップ S 1708 にて遊技情報格納エリア 153c の払出予定数格納エリアに入賞成立役と対応する払出数をセットする。その後、ステップ S 1709 では全ての有効ラインについて払出判定が終了したか否かを判別し、終了していない場合にはステップ S 1702 に戻る。つまり、本実施形態では、メダルが 3 枚ベットされて有効ラインが 5 ライン設定されている場合、各有効ラインについて入賞が成立しているか否かを順次判定する。

【0198】

例えば、左リール 42L の「チェリー」図柄が上段に停止した場合、上ラインに関するステップ S 1702 ~ ステップ S 1708 の処理にて払出予定数として 2 がセットされ、右下がりラインに関するステップ S 1702 ~ ステップ S 1708 の処理にて払出予定数として再度 2 がセットされる。この結果、左リール 42L の「チェリー」図柄が上段に停止した場合には、払出予定数として 4 がセットされることとなり、後述するメダル払出処理にて 4 枚のメダル払出が行われる。

【0199】

全ての有効ラインについて払出判定が終了した場合には、ステップ S 1710 にて入賞コマンドをセットすると共にステップ S 1711 にて入賞ラインコマンドをセットし、本処理を終了する。ここで、入賞コマンドとは、いずれの入賞が成立したかを把握させるべく表示制御装置 111 に対して送信されるコマンドであり、入賞ラインコマンドとは、入賞がいずれの有効ラインで成立したかを把握させるべく表示制御装置 111 に対して送信されるコマンドである。

【0200】

次に、ステップ S 611 のメダル払出処理について、図 30 のフローチャートに基づき説明する。

【0201】

メダル払出処理では、先ずステップ S 1801 にて払出予定数格納エリアに格納された払出予定数が 0 か否かを判定する。払出予定数が 0 の場合、先の払出判定処理 S 1214 にて小役入賞が成立していないと判定したことを意味する。かかる場合にはステップ S 1802 に進み、払出判定処理にてセットした入賞成立役に基づいて、再遊技入賞が成立し

10

20

30

40

50

たか否かを判定する。再遊技入賞が成立している場合には、ステップ S 1803 にて再遊技フラグをセットすると共に、ステップ S 1804 にて再遊技コマンドをセットする。ここで、再遊技コマンドとは、次のゲームが再遊技であることを把握させるべく表示制御装置 111 に対して送信されるコマンドである。なお、先に説明した開始待ち処理 S 604 では、再遊技フラグがセットされていると判定した場合に自動投入処理を行っている。

【0202】

ステップ S 1801 にて払出予定数が 0 でない場合、ステップ S 1805 では払出開始コマンドをセットする。ここで、払出開始コマンドとは、メダル払出を開始したことを把握させるべく表示制御装置 111 に対して送信されるコマンドである。ステップ S 1806 では、払出数カウンタがカウントした払出数と、払出予定数格納エリアに格納された払出予定数とが一致しているか否かを判定する。払出数と払出予定数とが一致していないときには、ステップ S 1807 にてクレジットカウンタのカウント値が上限（貯留されているメダル数が 50 枚）に達しているか否かを判定する。上限に達していないときには、ステップ S 1808, S 1810 にてクレジットカウンタのカウント値及び払出数をそれぞれ 1 加算する。その後、ステップ S 1811 では、クレジット表示部 35 及び獲得枚数表示部 37 の枚数をそれぞれ 1 加算する表示部変更処理を行う。10

【0203】

一方、ステップ S 1807 にてクレジットカウンタのカウント値が上限に達しているときには、ステップ S 1809 にてメダル払出用回転板を駆動してメダルをホッパ装置 91 からメダル排出口 17 を介してメダル受け皿 18 へ払い出す。続くステップ S 1810 ではホッパ装置 91 に取り付けられた払出検出センサ 91a のメダル検出信号に応じて払出数を 1 加算する。その後、ステップ S 1811 にて獲得枚数表示部 37 の枚数を 1 加算する表示部変更処理を行う。20

【0204】

ステップ S 1811 にて表示部変更処理を行った後、再びステップ S 1806 に戻る。ステップ S 1806 で払出数と払出予定数とが一致したときには、ステップ S 1812 にて払出終了コマンドをセットする。ここで、払出終了コマンドとは、メダル払出が終了したことを把握させるべく表示制御装置 111 に対して送信されるコマンドである。

【0205】

ステップ S 1802 にて再遊技入賞が成立していないと判定した場合、ステップ S 1804 又はステップ S 1812 にて再遊技コマンド又は払出終了コマンドをセットした後には、ステップ S 1813 に進み、ボーナスゲーム処理を行って本処理を終了する。30

【0206】

ボーナスゲーム処理について図 31 のフローチャートに基づき説明する。

【0207】

先ずステップ S 1901 では、現在の遊技状態が B B ゲーム状態か否かを判定する。現在の遊技状態が B B ゲーム状態である場合にはステップ S 1902 に進み、後述する残獲得数カウンタのカウント値から払出数を減算すると共に、残獲得枚数表示部 36 の枚数を減算する処理を行い、本処理を終了する。なお、残獲得枚数表示部 36 の枚数を減算する処理は、ステップ S 1811 の表示部変更処理にて行ってもよい。40

【0208】

ステップ S 1901 にて現在の遊技状態が B B ゲーム状態でないと判定した場合、ステップ S 1903 では、払出判定処理にてセットした入賞成立役に基づいて R T 入賞が成立したか否かを判定する。R T 入賞が成立した場合にはステップ S 1904 に進み、遊技状態を R T ゲーム状態に移行させるべく R T 開始処理を行って本処理を終了する。R T 開始処理では、R T 設定フラグをボーナス情報格納エリア 153b にセットし、遊技状態を特別遊技状態の 1 種である R T ゲーム状態とする。また、ボーナス情報格納エリア 153b に設けられ、R T ゲームの残りゲーム数をカウントするための残 R T ゲームカウンタに 30 をセットする。

【0209】

ここで、R T ゲーム状態について簡単に説明する。R T ゲーム状態とは、再遊技入賞が高確率で成立すると共に、通常ゲーム状態下で成立しない S B 入賞を成立させることが可能となる遊技状態である。そして、R T ゲーム状態は、所定回数（本実施形態では 30 回）のゲームが行われるか、B B 当選フラグがセットされたことを以って終了する。

【0210】

本スロットマシン 10 では、遊技状態が R T ゲーム状態に移行した場合であっても、抽選処理において通常ゲーム用抽選テーブルを選択し、当該通常ゲーム用抽選テーブルに基づいて当否判定処理を行う。すなわち、主制御装置 131 の ROM 152 には、R T ゲーム用抽選テーブルが記憶されていない。但し、R T ゲーム状態下における当否判定処理では、S B 及び再遊技 1 判定処理と再遊技 2 判定処理において通常ゲーム状態下と異なる処理を行う。そこで、これら各処理について図 19 及び図 20 のフローチャートに基づき説明する。

10

【0211】

S B 及び再遊技 1 判定処理では、図 19 のフローチャートに示すとおり、ステップ S 901 にて乱数 RN が 111120 ~ 20099 の第 6 当選領域 LT6 に属するか否かを判定し、当該第 6 当選領域 LT6 に属さないと判定した場合にはそのまま本処理を終了する。乱数 RN が第 6 当選領域 LT6 に属する場合には、ステップ S 902 にて S B 当選フラグをセットする。ステップ S 903 では現在の遊技状態が通常ゲーム状態か否かを判定する。R T ゲーム状態下ではステップ S 903 にて否定判定を行い、ステップ S 907 に進む。なお、ステップ S 903 における遊技状態が通常ゲーム状態か否かの判定は、R T 設定フラグのセット有無により判定している。ステップ S 907 では、乱数 RN が 111120 か否かを判定する。乱数 RN が 111120 である場合には、ステップ S 905 にて再遊技 1 当選フラグをセットした上で本処理を終了し、乱数 RN が 111120 でない場合すなわち乱数 RN が 111121 ~ 20099 である場合には、再遊技 1 当選フラグをセットすることなく本処理を終了する。

20

【0212】

このように、乱数 RN が 111120 ~ 20099 の第 6 当選領域 LT6 に属する場合、通常ゲーム状態下であれば S B 当選フラグと再遊技 1 当選フラグが共にセットされる一方、R T ゲーム状態下であれば S B 当選フラグはセットされるものの再遊技 1 当選フラグは乱数 RN が 111120 の場合に限ってセットされる。つまり、R T ゲーム状態に移行すると、S B 当選となる第 6 当選領域 LT6 を変更することなく、再遊技 1 当選となる第 7 当選領域 LT7 のみを減縮させる。この結果、R T ゲーム状態下では S B 当選フラグのみがセットされている状況が発生し、スペリテーブル設定処理及び各スペリテーブル変更処理にて入賞確定用スペリテーブルも含めた S B 入賞用スペリテーブルがセットされることとなる。故に、S B 当選確率が通常ゲーム状態下と同じであるにも関わらず、R T ゲーム状態に移行すると S B 入賞の成立する機会が発生する。

30

【0213】

再遊技 2 判定処理では、図 20 のフローチャートに示すとおり、ステップ S 1001 にて現在の遊技状態が通常ゲーム状態か否かを判定する。R T ゲーム状態下ではステップ S 1001 にて否定判定を行い、ステップ S 1007 に進む。なお、ステップ S 1001 における遊技状態が通常ゲーム状態か否かの判定は、R T 設定フラグのセット有無により判定している。ステップ S 1007 では、乱数 RN が 20100 ~ 65534 の第 8 当選領域 LT8 に属するか否かを判定し、当該第 8 当選領域 LT8 に属する場合にはステップ S 1003 にて再遊技 2 当選フラグをセットする。乱数 RN が 20100 ~ 65534 の第 8 当選領域 LT8 に属さない場合、又はステップ S 1003 にて再遊技 2 当選フラグをセットした場合には、ステップ S 1004 にて現在の遊技状態が通常ゲーム状態か否かを判定する。現在の遊技状態は R T ゲーム状態であるためステップ S 1008 に進み、乱数 RN が 65535 か否かを判定する。乱数 RN が 65535 でない場合にはそのまま本処理を終了し、65535 である場合には、ステップ S 1006 にて外れフラグをセットし、本処理を終了する。

40

50

【0214】

このように、遊技状態がRTゲーム状態に移行すると、再遊技2と対応する第8当選領域LT8が20100から20100～65534に拡張される一方、外れと対応する第9当選領域LT9が20101～65535から65535のみに減縮される。この結果、遊技状態がRTゲーム状態に移行すると、再遊技2当選確率が通常ゲーム状態下と比して高くなり、外れ確率が通常ゲーム状態下と比して低くなる。

【0215】

上述した通り、本スロットマシン10では、RTゲーム専用のRTゲーム用抽選テーブルを備えておらず、通常ゲーム用抽選テーブルに基づいて各役の当否判定を行う。より詳しくは、本スロットマシン10では、RTゲーム状態下における再遊技1の当選領域(11120)と外れの当選領域(65535)のみがRTゲーム用抽選データとして記憶されており、RTゲーム状態下における全役の当選領域のデータは記憶されていない。但し、理解を容易なものとするため、図32には、RTゲーム状態下における各役と当選領域LTとの対応関係を抽選テーブルに類似した表として示す。10

【0216】

図17に示す通常ゲーム用抽選テーブルと比較しても明らかなように、RTゲーム状態下では、小役及び状態移行役と対応する当選領域LTは変更されず、再遊技1、再遊技2、外れと対応する当選領域LTが変更される。通常ゲーム状態下では、SBと再遊技1の当選領域LTが同じであって再遊技入賞を優先して成立させるため、SB当選フラグがセットされている場合であってもSB入賞が成立せず、RTゲーム状態下では、再遊技1の当選領域LTが減縮されるため、SB当選フラグがセットされている場合に高確率でSB入賞が成立する。また、RTゲーム状態下では、再遊技1の当選領域LTが減縮される一方、再遊技2の当選領域LTが拡張されると共にこれにあわせて外れの当選領域LTが減縮されるため、通常ゲーム状態下と比して高確率で再遊技入賞が成立すると共に外れの確率が低下する。20

【0217】

ちなみに、RTゲーム状態下において上記役の当否判定を行った場合、小役当選確率は、通常ゲーム状態下における当選確率と同様、スイカ当選確率が128分の1、ベル当選確率が約7.0分の1、チェリー当選確率が約128分の1である。状態移行役当選確率も、通常ゲーム状態下における当選確率と同様、BB当選確率が約299分の1、RT当選確率が約128分の1、SB当選確率が約7.3分の1である。再遊技当選確率は、再遊技1当選確率が約7.3分の1から65536分の1と低くなり、再遊技2当選確率が65536分の1から約1.4分の1と高くなる。したがって、RTゲーム状態下における再遊技当選確率は、再遊技2当選確率と実質的に等しくなり、約7.3分の1から約1.4分の1と高くなる。外れの確率は約1.4分の1から65536分の1と低くなる。30

【0218】

さらに、通常ゲーム状態下とRTゲーム状態下でSB当選確率は同じであるものの、SB入賞の成立する確率が変化する。すなわち、通常ゲーム状態下におけるSB入賞確率は0であるが、RTゲーム状態下におけるSB当選確率は約7.3分の1である。40

【0219】

ボーナスゲーム処理の説明に戻り、ステップS1903にてRT入賞が成立していないと判定した場合、ステップS1905では現在の遊技状態がRTゲーム状態か否かを判定する。現在の遊技状態がRTゲーム状態である場合にはステップS1906に進み、残RTゲームカウンタの値を1減算する。続くステップS1907では、払出判定処理にてセットした入賞成立役に基づいてSB入賞が成立したか否かを判定する。SB入賞が成立していないと判定した場合には、ステップS1908～S1910に示すRT終了判定処理を行う。具体的には、ステップS1908にてBB当選フラグがセットされているか否かを判定し、ステップS1909にて残RTゲームカウンタの値が0か否かを判定する。BB当選フラグがセットされている、又は残RTゲームカウンタの値が0である場合には、RTゲーム状態の終了条件が成立したことを意味するため、ステップS1910に進み、50

R T 設定フラグと残 R T ゲームカウンタの値をリセットする R T 終了処理を行って本処理を終了する。

【 0 2 2 0 】

ステップ S 1 9 0 7 にて S B 入賞が成立したと判定した場合には、ステップ S 1 9 1 1 に進み、遊技状態を S B ゲーム状態に移行させるべく S B 開始処理を行って本処理を終了する。 S B 開始処理では、 S B 設定フラグをボーナス情報格納エリア 1 5 3 b にセットし、遊技状態を特別遊技状態の 1 種である S B ゲーム状態とする。また、ボーナス情報格納エリア 1 5 3 b に設けられ、 S B ゲームの残りゲーム数をカウントするための残 S B ゲームカウンタに 1 をセットする。

【 0 2 2 1 】

ここで、 S B ゲーム状態について簡単に説明する。 S B ゲーム状態とは、非常に高確率でベルに当選してベル入賞を成立させることができるとなる遊技状態である。より詳しくは、抽選処理において S B ゲーム専用に設定された S B ゲーム用抽選テーブルを選択し、当該抽選テーブルを用いて当否判定処理を行う。 S B ゲーム用抽選テーブルには、 0 ~ 6 5 5 3 4 の範囲がベルの当選領域 L T として設定されると共に、 6 5 5 3 5 が外れの当選領域 L T として設定されている。したがって、 S B ゲーム状態に移行するとほぼベル当選フラグがセットされ、ベル入賞が成立することとなる。 S B ゲーム状態は、 1 回のゲームが行われたことを以って終了する。

10

【 0 2 2 2 】

ステップ S 1 9 0 5 にて現在の遊技状態が R T ゲーム状態でないと判定した場合には、ステップ S 1 9 1 2 に進み、現在の遊技状態が S B ゲーム状態か否かを判定する。 S B ゲーム状態でないと判定した場合には、現在の遊技状態が通常ゲーム状態であることを意味するため、そのまま本処理を終了する。 S B ゲーム状態である場合にはステップ S 1 9 1 3 に進み、 S B 設定フラグと残 S B ゲームカウンタの値をリセットする S B 終了処理を行う。また、遊技状態が S B ゲーム状態であるということは、ボーナス情報格納エリア 1 5 3 b に R T 設定フラグがセットされていることを意味する。そこで、ステップ S 1 9 1 4 では残 R T ゲームカウンタの値が 0 か否かを判定し、 0 である場合には上述した R T 終了処理を行って本処理を終了する。また、残 R T ゲームカウンタの値が 0 でない場合には R T ゲーム状態の終了条件が成立していないことを意味するため、そのまま本処理を終了する。

20

【 0 2 2 3 】

次に、ステップ S 6 1 2 の B B ゲーム状態処理について、図 3 3 のフローチャートに基づき説明する。

【 0 2 2 4 】

B B ゲーム状態処理の説明に先立ち、 B B ゲーム状態について説明する。 B B ゲーム状態は、複数回の R B ゲーム状態で構成されている。 R B ゲーム状態は、 1 2 回の J A C ゲームで構成されている。 J A C ゲームとは、 1 枚ベットのみが許容されるゲームであり、 J A C 図柄の組合せが有効ライン上に揃う確率つまり J A C 入賞成立の確率が非常に高いゲームである。つまり、 J A C ゲームでは、先述した通常処理のステップ S 6 0 5 において、ベット数が 1 であれば規定数であるとして肯定判定を行う。そして、抽選処理では、 R B ゲーム専用に設定された R B ゲーム用抽選テーブルを選択し、当該抽選テーブルを用いて当否判定処理を行う。 R B ゲーム状態で J A C 入賞が成立すると最大枚数（ここでは 1 5 枚）のメダルが払い出される。そして、 J A C 入賞が 8 回成立すると、 J A C ゲームが 1 2 回行われる前であっても R B ゲームが終了する。また、 B B ゲーム状態は、メダル払出手数が所定数（具体的には 4 0 0 枚）に達したことを以って終了する。そして、 R B ゲーム状態の途中でメダル払出手数が所定数に達した場合、 B B ゲーム状態のみならず R B ゲーム状態も終了する。これは、 B B ゲーム状態下でのメダル払出手数に上限をもたせることにより遊技者の射幸心を抑え、遊技の健全性を担保するための工夫である。さらに、本スロットマシン 1 0 では、 R B ゲーム状態に移行する図柄の組合せを設定しておらず、 B B ゲーム状態に移行した直後及び R B ゲーム状態が終了した直後に R B ゲーム状態に移行す

30

40

50

る構成としている。故に、B B ゲーム状態とは、所定数のメダル払出が行われるまで R B ゲーム状態に連続して移行するゲーム状態であるとも言える。

【 0 2 2 5 】

さて、B B ゲーム状態処理では、先ずステップ S 2 0 0 1 にて現在の遊技状態が B B ゲーム状態か否かを判定する。B B ゲーム状態でない場合にはステップ S 2 0 0 2 ~ ステップ S 2 0 0 6 に示すボーナス図柄判定処理を行う。

【 0 2 2 6 】

このボーナス図柄判定処理では、先ずステップ S 2 0 0 2 にて B B 当選フラグがセットされているか否かを判定する。B B 当選フラグがセットされている場合にはステップ S 2 0 0 3 に進み、払出判定処理にてセットした入賞成立役に基づいて、B B 入賞が成立したか否かを判定する。B B 入賞が成立した場合には、ステップ S 2 0 0 4 において B B 開始処理を行う。B B 開始処理では、B B 当選フラグをリセットすると共に B B 設定フラグをボーナス情報格納エリア 1 5 3 b にセットし、遊技状態を特別遊技状態の 1 種である B B ゲーム状態とする。また、B B ゲーム状態下で払出可能な残りのメダル数をカウントするための残獲得数カウンタに 4 0 0 をセットすると共に、残獲得枚数表示部 3 6 に 4 0 0 を表示させる処理を行う。ちなみに、現在の遊技状態が B B ゲーム状態か否かの判定は、B B 設定フラグのセット有無により判定している。続くステップ S 2 0 0 5 では R B 開始処理を行う。R B 開始処理では、成立可能な J A C 入賞回数をカウントするための残 J A C 入賞カウンタに 8 をセットすると共に、J A C ゲームの残りゲーム数をカウントするための残 J A C ゲームカウンタに 1 2 をセットする。なお、残獲得数カウンタや残 J A C 入賞カウンタ等の各カウンタは、ボーナス情報格納エリア 1 5 3 b に設けられている。R B 開始処理を行った後、ステップ S 2 0 0 6 では、遊技状態が R B ゲーム状態に移行したことを見越して表示制御装置 1 1 1 に対して送信される R B コマンドをセットする。

【 0 2 2 7 】

ステップ S 2 0 0 7 では、状態コマンドをセットする。ここで、状態コマンドとは、現在の遊技状態を把握させるべく表示制御装置 1 1 1 に対して送信されるコマンドである。すなわち、ステップ S 2 0 0 2 において B B 当選フラグがセットされていないと判定した場合には、ボーナス情報格納エリア 1 5 3 b に R T 設定フラグや S B 設定フラグがセットされているか否かを判定し、いずれかの設定フラグがセットされている場合には対応する遊技状態を示す状態コマンドをセットする一方、いずれの設定フラグもセットされていない場合には通常ゲーム状態であることを示す状態コマンドをセットする。また、ステップ S 2 0 0 3 において B B 入賞が成立していないと判定した場合には通常ゲーム状態のうち B B 持越しゲームであることを示す状態コマンドをセットし、ステップ S 2 0 0 6 において R B コマンドをセットした場合には B B ゲーム状態であることを示す状態コマンドをセットする。続くステップ S 2 0 0 8 では、ゲーム数表示処理を行い、本処理を終了する。ゲーム数表示処理では、現在の遊技状態が B B ゲーム状態 (R B ゲーム状態) でない場合、残獲得枚数表示部 3 6 や獲得枚数表示部 3 7 等の表示をクリアする処理等を行う。

【 0 2 2 8 】

ステップ S 2 0 0 1 にて現在の遊技状態が B B ゲーム状態であると判定した場合には、ステップ S 2 0 0 9 に進み、払出判定処理にてセットした入賞成立役に基づいて、J A C 入賞が成立したか否かを判定する。J A C 入賞が成立した場合には、ステップ S 2 0 1 0 にて残 J A C 入賞カウンタの値を 1 減算する。その後、或いはステップ S 2 0 0 9 にて J A C 入賞が成立していないと判定した場合には、J A C ゲームを 1 つ消化したことになるため、ステップ S 2 0 1 1 にて残 J A C ゲームカウンタの値を 1 減算する。続いて、ステップ S 2 0 1 2 では残 J A C 入賞カウンタ又は残 J A C ゲームカウンタのいずれかが 0 になったか否かを判定する。いずれかが 0 になっていた場合、つまり J A C 入賞が 8 回成立したか J A C ゲームが 1 2 回消化された場合には、R B ゲーム状態の終了条件が成立することを意味するため、ステップ S 2 0 1 3 にて残 J A C 入賞カウンタ及び残 J A C ゲームカウンタの値をリセットする R B 終了処理を行う。続くステップ S 2 0 1 4 では、残獲得数カウンタのカウント値が 0 か否かを判定する。0 でない場合には、B B ゲーム状態下で

10

20

30

40

50

払い出されたメダル数が所定数に達しておらず、BBゲーム状態の終了条件が成立していないことを意味するため、ステップS2015にて先述したRB開始処理を行い、ステップS2016にてRBコマンドをセットする。その後、ステップS2007にてBBゲーム状態であることを示す状態コマンドをセットすると共にステップS2008にてゲーム数表示処理を行い、本処理を終了する。

【0229】

また、ステップS2012において残JAC入賞カウンタ及び残JACゲームカウンタのいずれの値も0になっていないと判定した場合、つまりJAC入賞がまだ8回成立しておらずJACゲームも12回消化されていない場合には、ステップS2017に進み、残獲得数カウンタのカウント値が0か否かを判定する。0でない場合には、BBゲーム状態下で払い出されたメダル数が所定数に達しておらず、BBゲーム状態の終了条件が成立していないことを意味するため、ステップS2007にてBBゲームであることを示す状態コマンドをセットすると共にステップS2008にてゲーム数表示処理を行い、本処理を終了する。一方、残獲得数カウンタのカウント値が0である場合には、BBゲーム状態の終了条件が成立したことを意味するため、ステップS2018～ステップS2019に示すBBゲーム状態終了処理を行う。BBゲーム状態終了処理では、先ずステップS2018において、先述したRB終了処理を行う。その後、ステップS2019にてボーナス情報格納エリア153bのデータをクリアするBB終了処理を行う。また、前記ステップS2014にて残獲得数カウンタのカウント値が0である場合にも、BBゲーム状態の終了条件が成立したことを意味するため、ステップS2019にてBB終了処理を行う。BB終了処理を行った後は、ステップS2007にて通常ゲーム状態であることを示す状態コマンドをセットすると共にステップS2008にてゲーム数表示処理を行い、本処理を終了する。

10

【0230】

以上詳述した本実施の形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【0231】

通常ゲーム用抽選テーブルに、SB当選となる第6当選領域LT6と、再遊技1当選となる第7当選領域LT7とが重複するようにこれら当選領域LT6, LT7を設定し、RTゲーム状態下では、当否判定処理にて重複範囲が小さくなるように第7当選領域LT7を減縮させる構成とした。かかる構成とすることにより、RTゲーム状態下で当否判定を行うためのRTゲーム用抽選テーブルを記憶させずとも、再遊技1に当選して再遊技入賞を成立させることができる確率と、SBに当選してSB入賞を成立させることができ確率とを変化させることができるとなる。したがって、予め記憶させておく抽選テーブルの削減を図ることが可能となり、データ量の低減を図りつつ、通常ゲーム状態下とRTゲーム状態下で再遊技入賞とSB入賞の成立する確率を変化させることができるとなる。

20

【0232】

再遊技1とSBに共に当選である場合、再遊技入賞を優先して成立させるように各リール42L, 42M, 42Rが停止駆動制御される構成において、再遊技1当選となる第7当選領域LT7をRTゲーム状態下で変更することにより、通常ゲーム用抽選テーブルに定められたSB当選となる第6当選領域LT6や他の当選領域を変更することなくSB入賞の成立する確率を変化させることができる。

30

【0233】

ここで、SB当選となる第6当選領域LT6を変更してSB入賞の成立する確率を変化させる構成を考える。かかる構成においては、再遊技当選となる当選領域LT7, LT8と重複しないように第6当選領域LT6を変更しなければSB入賞の成立する確率を変化させることはできない。そして、第6当選領域LT6を例えば11120～30000に変更した場合、確かにSB入賞の成立する確率は変化するものの、第6当選領域LT6に加えて外れと対応する第9当選領域LT9を30001～65535に変更する必要が生じる。このため、プログラムの複雑化が懸念されると共に予め記憶させるデータ量の増大化が懸念されることとなる。

40

50

【 0 2 3 4 】

また、通常ゲーム状態下では再遊技入賞を優先して成立させる一方、R T ゲーム状態下では再遊技入賞より S B 入賞を優先して成立させるように優先度を変化させる構成とすれば、第 6 当選領域 L T 6 のみを変更して S B 入賞の成立する確率を変化させることができる。しかしながら、かかる構成においては各遊技状態において異なるリールの停止駆動制御を行う必要が生じ、予め記憶させるデータ量の増大化が懸念されることとなる。

【 0 2 3 5 】

一方、再遊技 1 当選となる第 7 当選領域 L T 7 を変更する本構成においては、上記各懸念を生じさせること無く、S B 入賞の成立する確率に加えて再遊技入賞の成立する確率をも変化させることができる。つまり、1 つの役と対応する当選領域を変更するのみで 2 つの役の当選確率、さらには入賞確率を変更することができる。故に、比較的簡易なプログラムにより、再遊技入賞と S B 入賞の成立する確率を変化させることが可能となる。

10

【 0 2 3 6 】

「リプレイ」図柄を、下段に先に到達する図柄と次に到達する図柄との間隔が 4 図柄以下となるように、各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R に配置した。かかる構成とすることにより、再遊技 1 当選フラグがセットされている場合には、ストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 の操作タイミングに関わらず再遊技入賞を成立させることができる。故に、通常ゲーム状態下で再遊技 1 と S B に当選したにも関わらず再遊技入賞と S B 入賞のいずれも成立せずに遊技者が不利益を被ることを回避することができる。

【 0 2 3 7 】

20

左リール 4 2 L と中リール 4 2 M の「リプレイ」図柄を上述した配置と共に、右リール 4 2 R の「チェリー」図柄を、下段に先に到達する図柄と次に到達する図柄との間隔が 4 図柄以下となるように配置した。かかる構成とすることにより、S B 当選フラグのみがセットされている場合には、ストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 の操作タイミングに関わらず S B 入賞を成立させることができる。故に、R T ゲーム状態下で S B に当選したにも関わらず、S B 入賞が成立せずに遊技者の所有するメダルが増加しない不具合が発生することを回避することができる。

【 0 2 3 8 】

ここで、ストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 の操作タイミングによっては再遊技入賞が成立しないよう、再遊技図柄を各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R に配置した場合を考える。かかる構成とした場合、通常ゲーム状態下で再遊技入賞と S B 入賞を共に取りこぼす不具合が発生することを抑制させるためには、例えば再遊技図柄が下段に停止した際に S B 図柄が上段に停止するよう再遊技図柄と S B 図柄を配置したり、再遊技図柄を有効ライン上に到達させることができないタイミングでストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 が操作された際に S B 図柄を有効ライン上に到達させることができるよう S B 図柄を配置したりする必要がある。つまり、上記構成においては、各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R における図柄の配置自由度が低下する可能性が懸念される。また、図柄を狙ってストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 を操作する技量に優れた遊技者が、再遊技入賞ではなく S B 入賞が成立するよう S B 図柄を狙ってストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 を操作することも考えられる。これは、再遊技入賞と S B 入賞の成立する確率が、図柄を狙ってストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 を操作する遊技者の技量差に依存することに繋がり得る。

30

【 0 2 3 9 】

40

上記各懸念を解消すべく、通常ゲーム状態下で再遊技入賞を成立させることができない場合、S B 入賞が成立しないように各リール 4 2 L , 4 2 M , 4 2 R を停止駆動制御することも可能である。しかしながら、かかる構成とした場合には、各スペリテーブル変更処理に関する制御プログラムの複雑化に繋がる。当選フラグと対応する入賞を成立させることができないようにスペリテーブルの設定及び変更を行うための制御プログラムを新たに記憶させる必要が生じるからである。

【 0 2 4 0 】

一方、ストップスイッチ 7 2 ~ 7 4 の操作タイミングに関わらず再遊技入賞及び S B 入

50

賞を成立させることができるように再遊技図柄とSB図柄を各リール42L, 42M, 42Rに配置した上記実施の形態においては、上記各懸念を解消することができる。故に、リールの停止制御に関わる制御プログラムを複雑化させることなく、再遊技入賞とSB入賞の成立する確率を変化させることが可能となる。

【0241】

SB当選となる第6当選領域LT6と、再遊技1当選となる第7当選領域LT7とが完全に重複するように通常ゲーム用抽選テーブルを設定すると共に、RTゲーム状態下では第7当選領域LT7が減縮されるように当該当選領域LT7を変更する構成とした。かかる構成においては、第7当選領域LT7以外の当選領域を変更することなく第7当選領域LT7を変更することができると共に、変更後の第7当選領域LT7を第6当選領域LT6と完全に重複させることができる。故に、比較的簡易なプログラムで再遊技入賞とSB入賞の成立する確率を変化させることができる。また、SB入賞の成立する機会をRTゲーム状態下に限定することが可能となり、RTゲーム状態下における遊技者の有利度合いを可能な限り高めることが可能となる。

10

【0242】

0~65535の各値について当選となる役又は外れが対応付けられた抽選テーブルを予め記憶し、スタートレバー71が操作された際に取得される0~65535のいずれかの乱数RNを用いて当否判定処理を行う構成においては、遊技状態に応じた抽選テーブルを個別に用意すると、予め記憶させるデータ量が多大なものとなる。しかしながら、SB当選となる第6当選領域LT6と、再遊技1当選となる第7当選領域LT7とが重複するように設定された通常ゲーム状態用抽選テーブルを予め記憶し、RTゲーム状態下で第7当選領域LT7を変更する構成とすることにより、RTゲーム状態用抽選テーブルが不要となり、予め記憶させるデータ量の低減を図ることが可能となる。

20

【0243】

当否判定処理において、取得した乱数RNが各当選領域のいずれに属するかを判定した後、ステップS805にて何らかのフラグがセットされているか否かを判定することにより、RAM153のデータが破壊された可能性に加えて、当選フラグがセットされるべき乱数RNが取得されているにも関わらず当選フラグがセットされていない不具合も容易に発見することが可能となる。

【0244】

30

なお、上述した実施の形態の記載内容に限定されず、例えば次のように実施してもよい。

【0245】

(a) 上記実施の形態では、通常ゲーム用抽選テーブルにおいて、SB当選となる第6当選領域LT6と再遊技1当選となる第7当選領域LT7を11120~20099と同じ範囲に設定したが、少なくとも一部が重複するように設定されれば良い。

【0246】

例えば、SB当選となる当選領域を30000~39000と設定すると共に、再遊技1当選となる当選領域を32000~41000と設定する。そして、RTゲーム状態下では、再遊技1当選となる当選領域を39001~41000に減縮する。このように、SB当選となる当選領域と再遊技1当選となる当選領域の一部のみが重複する構成であっても、その重複する領域のみを変更する構成とすれば、上記実施の形態と同様の作用効果を奏することは明らかである。

40

【0247】

(b) 上記実施の形態では、RTゲーム状態下で再遊技1当選となる当選領域を減縮させる構成としたが、当選領域を拡張させる構成としても良い。

【0248】

例えば、SB当選となる第6当選領域LT6を11120~20099と設定すると共に、再遊技1当選となる第7当選領域LT7を20000~20099と設定する。そして、RTゲーム状態下では第7当選領域LT7を18000~20099に拡張させる構

50

成とする。かかる構成とした場合には、R T ゲーム状態下における S B 入賞の成立する確率が通常ゲーム状態下と比して低くなる。

【 0 2 4 9 】

(c) 上記実施の形態では、S B 当選となる第 6 当選領域 L T 6 と再遊技 1 当選となる第 7 当選領域 L T 7 を重複させる構成としたが、かかる構成に限定されるものではなく、スイカ当選となる当選領域とベル当選となる当選領域とを重複させる構成としても良いし、ベル当選となる当選領域と再遊技当選となる当選領域とを重複させる構成としても良い。すなわち、当選領域を重複させる役については任意である。また、S B 当選となる第 6 当選領域 L T 6 と再遊技 1 当選となる第 7 当選領域 L T 7 を重複させると共に、チエリーアイ当選となる第 3 当選領域 L T 3 と B B 当選となる第 4 当選領域 L T 4 を重複させる構成としても良いことは言うまでもない。10

【 0 2 5 0 】

(d) 上記実施の形態では、S B と再遊技 1 の当選領域を重複させると共に、R T ゲーム状態下で再遊技 1 の当選領域を減縮することで S B 入賞及び再遊技入賞の成立確率を変化させる構成としたが、以下のように変更する。

【 0 2 5 1 】

R T 当選となる第 5 当選領域 L T 5 を 1 0 6 0 7 ~ 1 1 1 1 9 と設定し、S B 当選となる第 6 当選領域 L T 6 を 1 1 1 2 0 ~ 2 0 0 9 9 と設定し、再遊技 1 当選となる第 7 当選領域 L T 7 を 1 1 1 1 9 ~ 2 0 0 9 9 と設定する。そして、R T ゲーム状態下では、第 5 当選領域 L T 5 及び第 6 当選領域 L T 6 は変更せず、第 7 当選領域 L T 7 を 1 0 6 0 7 ~ 1 1 1 2 0 と変更する構成とする。かかる構成においては、第 7 当選領域 L T 7 のみを変更することにより、再遊技 1 入賞、R T 入賞、S B 入賞の成立する確率を変化させることができる。20

【 0 2 5 2 】

(e) 上記実施の形態では、R T ゲーム状態下において第 6 当選領域 L T 6 を変更することなく第 7 当選領域 L T 7 を変更することで S B 入賞と再遊技入賞の成立する確率を変化させる構成としたが、第 6 当選領域 L T 6 と第 7 当選領域 L T 7 を共に変更する構成としても良い。但し、かかる構成とした場合には、複数の当選領域を変更することに伴う処理負荷の増大化が懸念される。

【 0 2 5 3 】

(f) 上記実施の形態では、遊技状態が R B ゲーム状態以外である場合、メダルが 3 枚ベットされた後に開始指令が発生したか否かを判定する構成としたが、1 枚ベットされた後や 2 枚ベットされた後にも開始指令が発生したか否かを判定する構成としてもよいことは言うまでもない。但し、かかる構成の場合には、ベット状況に応じた抽選テーブルを予め記憶させておく必要があり、データ量の増大化が懸念される。30

【 0 2 5 4 】

(g) 上記実施の形態では、遊技状態が R T ゲーム状態である場合に第 7 当選領域 L T 7 を減縮させる構成としたが、かかる構成に限定されるものではなく、遊技状態が遊技者に有利な特別遊技状態に移行した場合に当選領域の値を減縮させる構成であれば、上記実施の形態と同様の作用効果を奏することは明らかである。40

【 0 2 5 5 】

例えば、図 17 に示す通常ゲーム用抽選テーブルにおいて、乱数 R N が第 6 当選領域 L T 6 に属する場合、S B に代えてベルに当選となる構成とする。そして、B B ゲーム状態下で第 7 当選領域 L T 7 を減縮させる構成とすれば、B B ゲーム状態下における再遊技入賞の成立する確率を低下させつつベル入賞の成立する確率を高めることができる。

【 0 2 5 6 】

(h) 上記実施の形態では、R T 入賞が成立すると遊技状態が R T ゲーム状態に移行する構成としたが、例えば B B ゲーム状態の終了後に R T ゲーム状態に移行する構成としても良いし、R T 入賞成立ではなく R T 当選を条件として R T ゲーム状態に移行する構成としても良い。すなわち、R T ゲーム状態に移行する条件は任意である。50

【0257】

また、B B 当選した場合と所定回数のゲームが行われた場合にRTゲーム状態が終了する構成としたが、B B 当選した場合に限りRTゲーム状態が終了する構成としても良いし、所定回数のゲームが行われた場合に限りRTゲーム状態が終了する構成としても良い。或いは、チェリー入賞が成立した場合にRTゲーム状態が終了する構成としても良い。つまり、RTゲーム状態の終了条件は任意である。

【0258】

(i) 上記実施の形態では、再遊技1当選フラグ又は再遊技2当選フラグがセットされている場合には必ず再遊技入賞が成立するよう各リール42L, 42M, 42Rに「リプレイ」図柄を配置したが、「スイカ」図柄等と同様、ストップスイッチ72~74の操作タイミングによっては取りこぼしが発生するよう各リール42L, 42M, 42Rに「リプレイ」図柄を配置しても良い。SB図柄についても同様である。10

【0259】

(j) 上記実施の形態では、各リール42L, 42M, 42Rの「リプレイ」図柄が有効ライン上に並んで停止した場合に再遊技入賞が成立する構成としたが、左リール42Lと中リール42Mの「リプレイ」図柄が有効ライン上に並んで停止した場合に再遊技入賞が成立する構成としても良いし、左リール42Lの「リプレイ」図柄が有効ライン上に停止した場合に再遊技入賞が成立する構成としても良い。SB入賞についても同様である。

【0260】

(k) 上記実施の形態では、「リプレイ」図柄と「リプレイ」図柄の間に「ベル」図柄等の他の図柄を配置することによって「リプレイ」図柄同士を離間させる構成としたが、「リプレイ」図柄同士の間に1図柄相当のブランク領域を所定数配置することによって離間させても良い。例えば、左リール42Lの4番の「リプレイ」図柄と7番の「リプレイ」図柄との間には「スイカ」図柄と「ベル」図柄が配置されているが、これら図柄を非配置とする。かかる構成においても、上記実施の形態と同様の作用効果を奏することは明らかである。20

【0261】

(l) 上記実施の形態では、再遊技1と再遊技2のいずれに当選した場合であっても「リプレイ」図柄が有効ライン上に並んで停止して再遊技入賞が成立する構成としたが、当選した役毎に異なる図柄が有効ライン上に停止して再遊技入賞が成立する構成としても良い。例えば、再遊技1に当選した場合には「リプレイ」図柄が有効ライン上に並んで停止して再遊技1入賞が成立し、再遊技2に当選した場合には左から「リプレイ」図柄、「ベル」図柄、「チェリー」図柄と有効ライン上に停止して再遊技2入賞が成立する構成とする。30

【0262】

(m) 上記実施の形態では、再遊技入賞を成立させることが可能となる役として再遊技1と再遊技2を設定したが、再遊技1のみを設定する構成としても良い。すなわち、SB当選となる第6当選領域LT6を11120~20099と設定すると共に、再遊技当選となる第7当選領域LT7を11120~20100と設定する。そして、RTゲーム状態下では、第7当選領域LT7を20099~65534に変更すると共に、外れとなる第9当選領域LT9を65535に変更する構成とする。かかる構成とした場合であっても上記実施の形態と同様の作用効果を奏することは明らかである。40

【0263】

(n) 上記実施の形態では、RTゲーム状態下において、再遊技2当選となる第8当選領域LT8と、外れとなる第9当選領域LT9を変更することで再遊技入賞の成立する確率を高くする構成としたが、これら当選領域LT8, LT9を変更しない構成としても良い。すなわち、第7当選領域LT7のみを11120~20099から11120に変更する。かかる構成とした場合、再遊技入賞の成立する確率が低くなると共にSB入賞の成立する確率が高くなる。

【0264】

ここで、再遊技入賞が成立した場合と S B 入賞が成立した場合の有利度合いを比較する。再遊技入賞が成立した場合には、遊技者の所有するメダルを減少させることなく次回の遊技を行うことができる。したがって、再遊技入賞を成立させた場合には、3枚のメダル払出が行われたことと実質的に等しい特典が付与される。S B 入賞が成立した場合には、そのゲームではメダル払出が行われないものの、次回の遊技でほぼベル入賞が成立して15枚のメダル払出が行われる。したがって、S B 入賞を成立させた場合には、2回の遊技で9(=15 - 3 × 2)枚のメダル増加が期待できる。以上の結果、再遊技入賞が成立するより S B 入賞が成立した方が遊技者にとって有利度合いが大きいといえる。

【0265】

このため、再遊技2当選となる第8当選領域LT8と、外れとなる第9当選領域を変更せずとも、RTゲーム状態下における遊技者の有利度合いを通常ゲーム状態下より大きくすることができる。10

【0266】

(o) 上記実施の形態では、通常ゲーム用抽選テーブルにおいて各当選領域LT1～LT9を連続した数値範囲で設定したが、かかる構成に限定されるものではなく、乱数RNとして取得される可能性のある各値(0～65535)が当選となる役又は外れとそれぞれ対応付けられている構成であればよい。

【0267】

例えば、上記実施の形態では、S B 当選となる第6当選領域LT6として11120～20099という8980個の連続した数値範囲を設定したが、11120, 11122, 11125, 11130, …というように離散した8980個の数値をS B 当選と対応付けても良い。但し、かかる構成とした場合には、当否判定処理における処理負荷の増大化が懸念される。取得した乱数RNが上記離散値と一致するか否かを個別に判定する必要が生じるからである。20

【0268】

(p) 上記実施の形態では、S B 及び再遊技1判定処理において、通常ゲーム状態下ではステップS904にて乱数RNが11120～20099の第7当選領域LT7に属するか否かを再度判定する構成としたが、判定せずとも良い。つまり、ステップS903にて通常ゲーム状態と判定した場合には、再遊技1当選フラグをセットして本処理を終了する構成とする。かかる構成とした場合であっても、上記実施の形態と同様の作用効果を奏することは明らかである。30

【0269】

(q) 上記実施の形態では、B B 当選フラグを持ち越した次ゲーム以降の当否判定処理において、状態移行役に当選した場合であっても対応する当選フラグをセットしない構成としたが、かかる構成に限定されるものではなく、対応する当選フラグをセットする構成としても良い。例えば、B B 当選フラグを持ち越した次ゲーム以降の当否判定処理においてRT当選となった場合に、RT当選フラグをセットする構成とする。

【0270】

(r) 上記実施の形態では、小役入賞が成立した場合にメダルを払い出す特典を付与する構成としたが、かかる構成に限定されるものではなく、遊技者に何らかの特典が付与される構成であればよい。例えば、小役入賞が成立した場合にメダル以外の賞品を払い出す構成であってもよい。また、現実のメダル投入やメダル払出機能を有さず、遊技者の所有するメダルをクレジット管理するスロットマシンにおいては、クレジットされたメダルの増加が特典の付与に相当する。40

【0271】

(s) 上記実施の形態では、各リール42L, 42M, 42Rの回転を開始させた後、いずれかのストップスイッチ72～74が操作された場合に対応するリール42L, 42M, 42Rを停止させる構成としたが、これに加えて、各リール42L, 42M, 42Rの回転を開始させてから所定時間(例えば29.5秒)が経過した場合に回転中のリールを停止させる構成としても良い。50

【0272】

(t) 上記実施の形態では、円筒骨格部材50の外周面に、図柄が印刷されたベルトを貼付する構成としたが、円筒骨格部材とベルトとを一体形成し、このベルトの外周面に図柄を個別に貼付する構成としてもよい。

【0273】

(u) 上記実施の形態では、状態移行入賞が成立した場合にメダル払出を行わない構成としたが、メダル払出を行う構成としてもよい。

【0274】

(v) 上記実施の形態では、リールを3つ並列して備え、有効ラインとして5ラインを有するスロットマシンについて説明したが、かかる構成に限定されるものではなく、例えばリールを5つ並列して備えたスロットマシンや、有効ラインを7ライン有するスロットマシンであってもよい。

10

【0275】

(w) 上記実施の形態では、遊技状態が移行する役としてB B、R T、S Bを有するスロットマシン10について説明したが、かかる構成に限定されるものではなく、B Bのみを有するスロットマシンやR BとR Tを有するスロットマシンに適用しても良い。

【0276】

(x) 各リール42L, 42M, 42Rの図柄としては、絵、数字、文字等に限らず、幾何学的な線や図形等であってもよい。また、光や色等によって図柄を構成することも可能であるし、立体的形状等によっても図柄を構成し得るし、これらを複合したものであっても図柄を構成し得る。即ち、図柄は識別性を有した情報（識別情報）としての機能を有するものであればよい。

20

【0277】

(y) 上記実施の形態では、ベットされたメダル数に応じて設定される有効ライン数が変化するスロットマシン10について説明したが、ベットされたメダル数に関わらず一定数（例えば5本）の有効ラインを設定するスロットマシンに適用してもよい。かかるスロットマシンに適用した場合であっても、上記実施の形態と同様の作用効果を奏することは明らかである。

【0278】

(z) 上記実施の形態では、スロットマシン10について具体化した例を示したが、スロットマシンとパチンコ機とを融合した形式の遊技機に適用してもよい。即ち、スロットマシンのうち、メダル投入及びメダル払出機能に代えて、パチンコ機のような球投入及び球払出機能をもたせた遊技機としてもよい。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、遊技ホールでは球のみを遊技価値として取り扱うことができるため、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいてみられる、遊技価値たるメダルと球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置個所の制約といった問題を解消し得る。

30

【図面の簡単な説明】

【0279】

【図1】一実施の形態におけるスロットマシンの正面図。

40

【図2】前面扉を閉じた状態を示すスロットマシンの斜視図。

【図3】前面扉を開いた状態を示すスロットマシンの斜視図。

【図4】前面扉の背面図。

【図5】筐体の正面図。

【図6】左リールの組立斜視図。

【図7】各リールを構成する帯状ベルトの展開図。

【図8】入賞態様とメダル払出枚数との関係を示す説明図。

【図9】スロットマシンのブロック回路図。

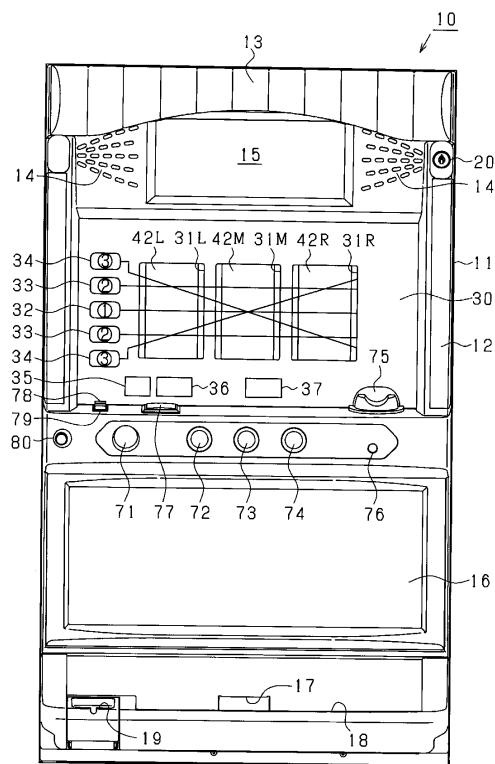
【図10】NMI割込み処理を示すフローチャート。

【図11】タイマ割込み処理を示すフローチャート。

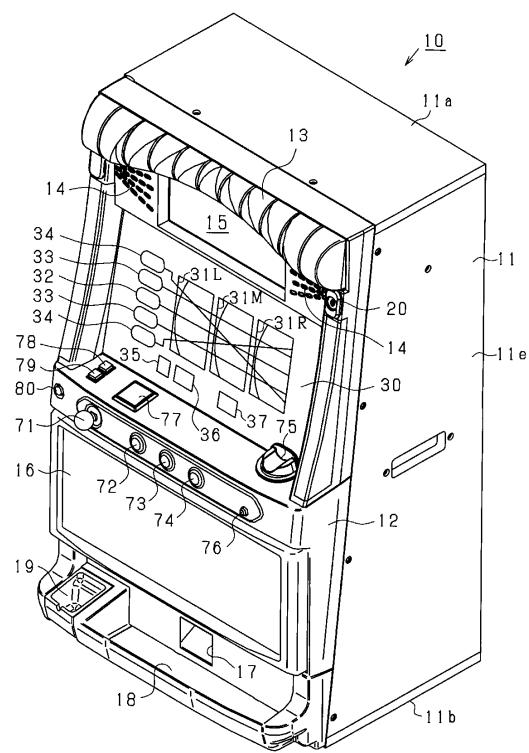
50

- 【図12】停電時処理を示すフローチャート。
【図13】メイン処理を示すフローチャート。
【図14】当選確率設定処理を示すフローチャート。
【図15】通常処理を示すフローチャート。
【図16】抽選処理を示すフローチャート。
【図17】抽選テーブルの一例を示す図。
【図18】当否判定処理を示すフローチャート。
【図19】S B 及び再遊技1判定処理を示すフローチャート。
【図20】再遊技2判定処理を示すフローチャート。
【図21】スペリテーブルの一例を示す図。 10
【図22】スペリテーブル設定処理を示すフローチャート。
【図23】リール制御処理を示すフローチャート。
【図24】回転開始処理を示すフローチャート。
【図25】スペリテーブル第1変更処理を示すフローチャート。
【図26】入賞確定用スペリテーブルの一例を示す図。
【図27】スペリテーブル第2変更処理を示すフローチャート。
【図28】B B 当選時処理を示すフローチャート。
【図29】払出判定処理を示すフローチャート。
【図30】メダル払出処理を示すフローチャート。
【図31】ボーナスゲーム処理を示すフローチャート。 20
【図32】R T ゲーム状態下における当選領域を示す説明図。
【図33】B B ゲーム状態処理を示すフローチャート。
【符号の説明】
【0280】
10 ... 遊技機としてのスロットマシン、11 ... 遊技機本体の一部を構成する筐体、12 ... 遊技機本体の一部又は遊技機本体の開閉部材を構成する前面扉、13 ... 補助演出部を構成する上部ランプ、14 ... 補助演出部を構成するスピーカ、15 ... 補助演出部を構成する補助表示部、31 ... 表示窓、42 ... 循環表示手段を構成すると共に周回体又は無端状ベルトとしてのリール、61 ... 循環表示手段を構成すると共に駆動手段としてのステッピングモータ、71 ... 始動操作手段としてのスタートレバー、72 ~ 74 ... 停止操作手段としてのストップスイッチ、111 ... 表示制御装置、131 ... 抽選手段等を有する主制御装置、151 ... メイン制御手段等の各種制御手段を構成するCPU、152 ... 当選情報群記憶手段としてのROM、161 ... 電源装置。 30

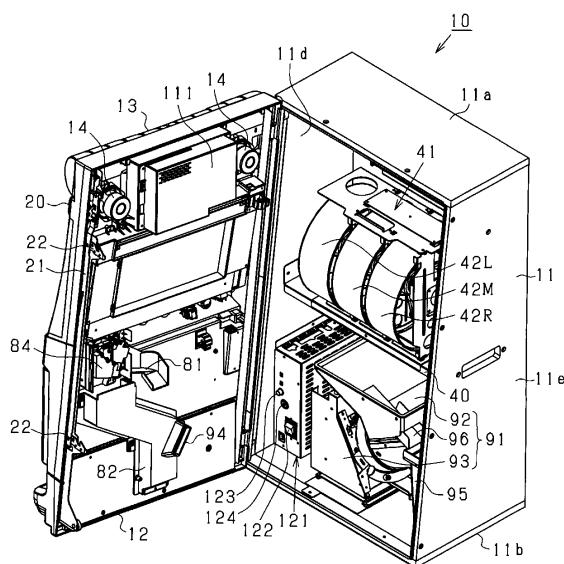
【図1】



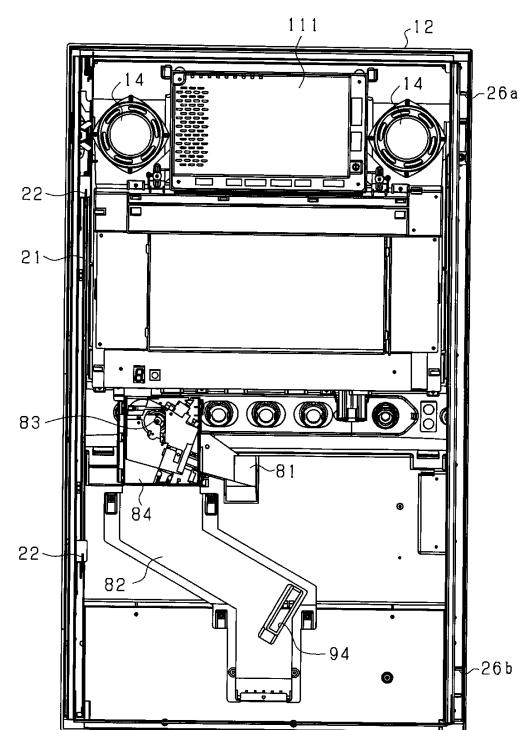
【図2】



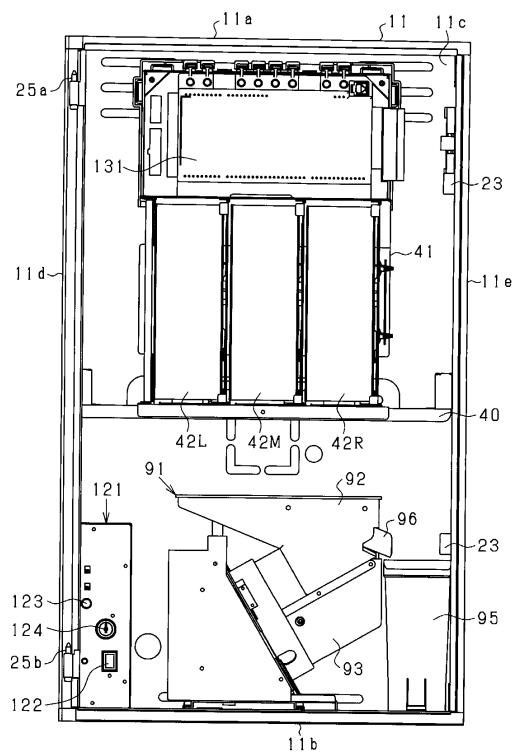
【図3】



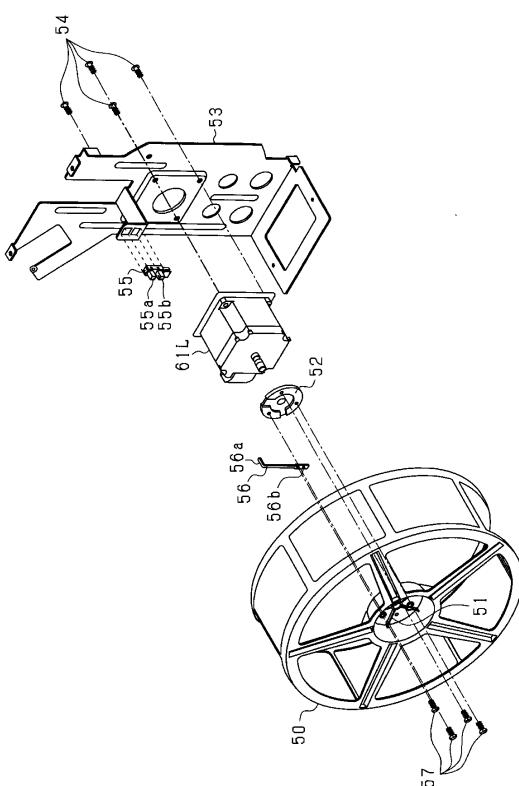
【図4】



【図5】



【図6】



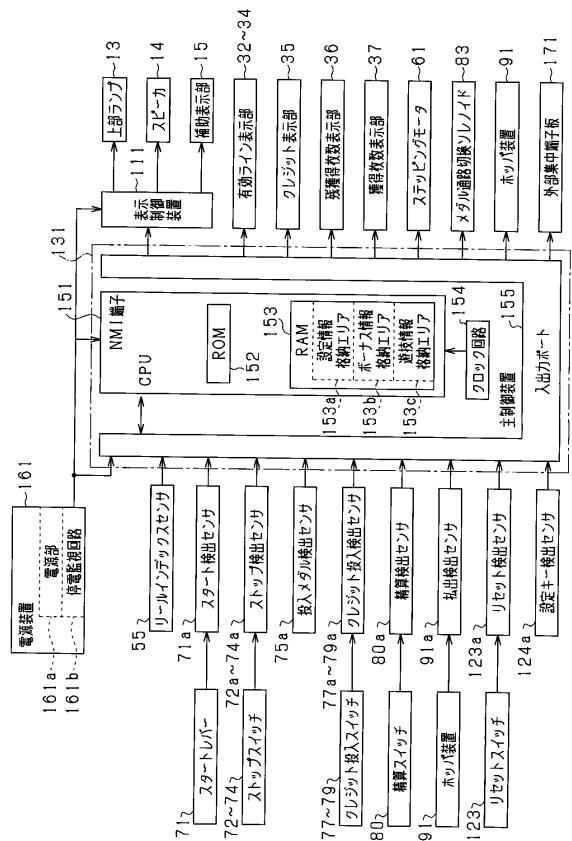
【図7】

	左	中	右
20	(R)	(R)	(R)
19	(靴)	(靴)	(靴)
18	CHANCE CHANCE	CHANCE CHANCE	CHANCE CHANCE
17	(靴)	(靴)	(靴)
16	(靴)	CHANCE CHANCE	CHANCE CHANCE
15	(靴)	(靴)	(靴)
14	(靴)	(靴)	(靴)
13	(靴)	(靴)	(靴)
12	(R)	(靴)	(靴)
11	(靴)	(靴)	(靴)
10	(頭)	(靴)	(靴)
9	Z	Z	Z
8	靴	靴	靴
7	(R)	(靴)	(靴)
6	(靴)	(R)	(靴)
5	(靴)	(靴)	(靴)
4	(R)	(靴)	(靴)
3	(靴)	(R)	(靴)
2	(頭)	(靴)	(靴)
1	(頭)	(靴)	(靴)
0	0	0	0

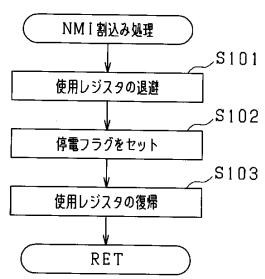
【図8】

入賞品種	停止回数			メダル投出枚数			
	左リール	中リール	右リール	R T時	R BB時	S BB時	S BB時
ベル	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
スイカ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
チエリー	-	2	2	2	2	2	2
BB	0	0	0	0	0	0	0
RT	(R)	(R)	(R)	0	0	0	0
SB	(R)	(R)	(R)	0	0	0	0
再選挙	(R)	(R)	(R)	0	0	0	0
JAC	(靴)	(靴)	(靴)	0	0	0	0

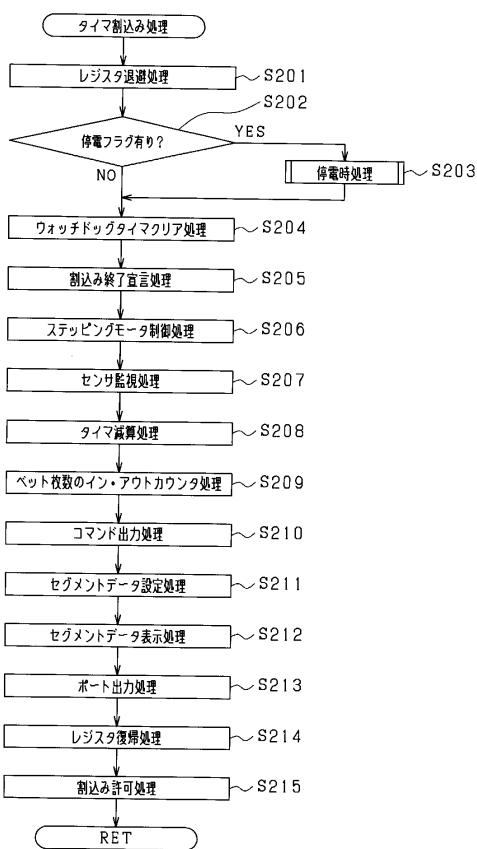
【図 9】



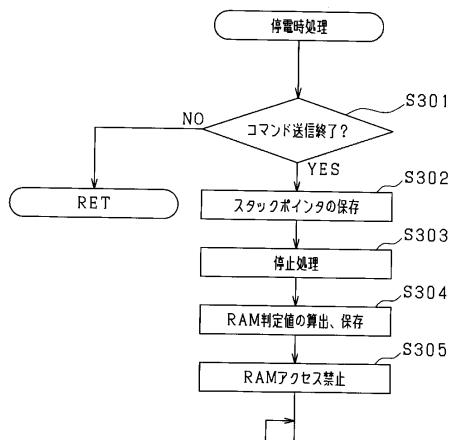
【図 10】



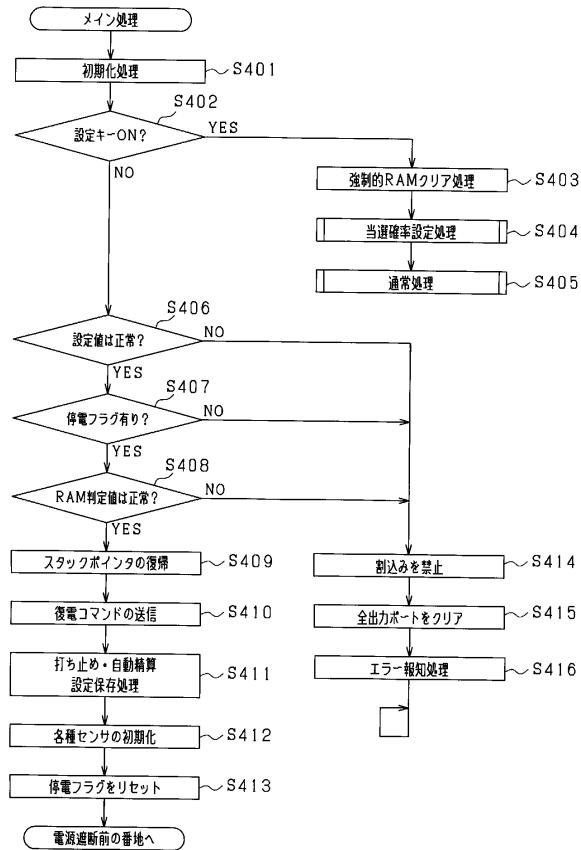
【図 11】



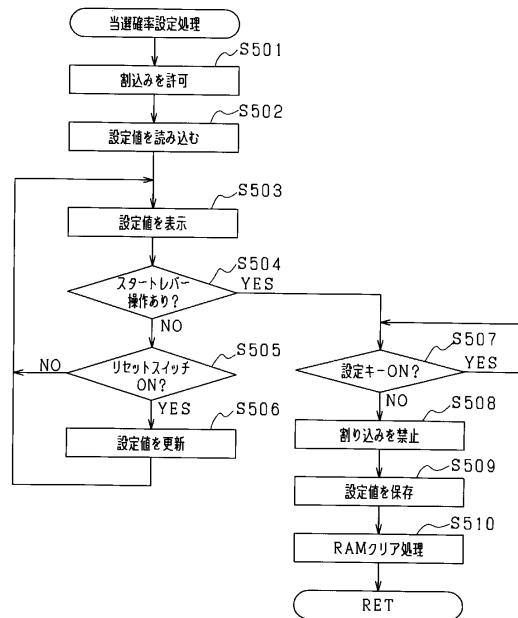
【図 12】



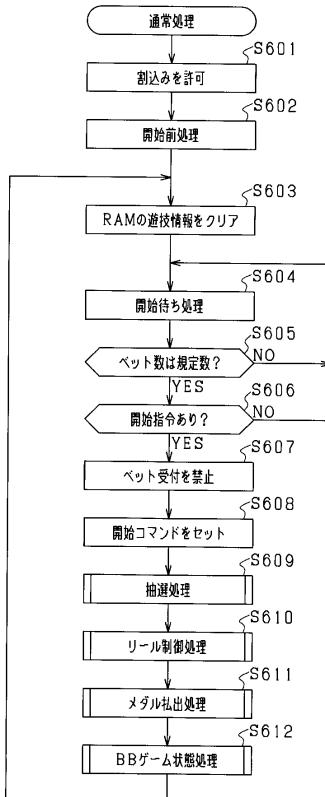
【図13】



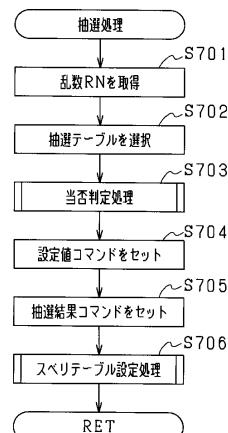
【図14】



【図15】



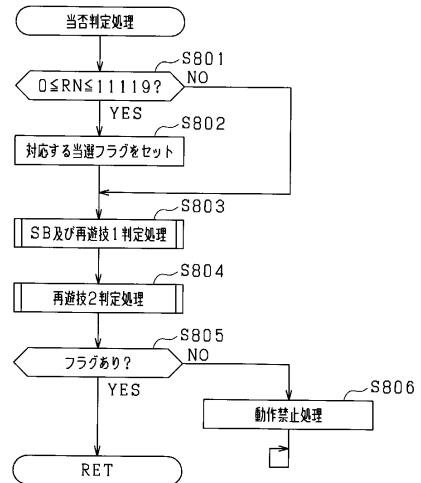
【図16】



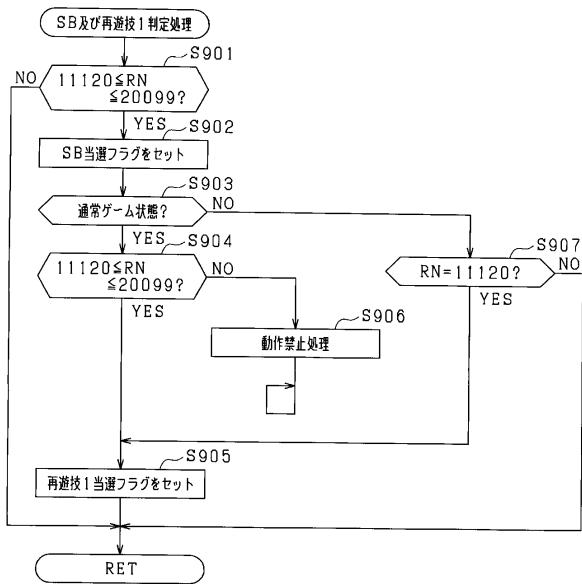
【図17】

IV	当選役	LT
1	スイカ	0~511
2	ベル	512~9874
3	チエリー	9875~10387
4	BB	10388~10606
5	RT	10607~11119
6	SB	11120~20099
7	再選技1	11120~20099
8	再選技2	20100
9	外れ	20101~65535

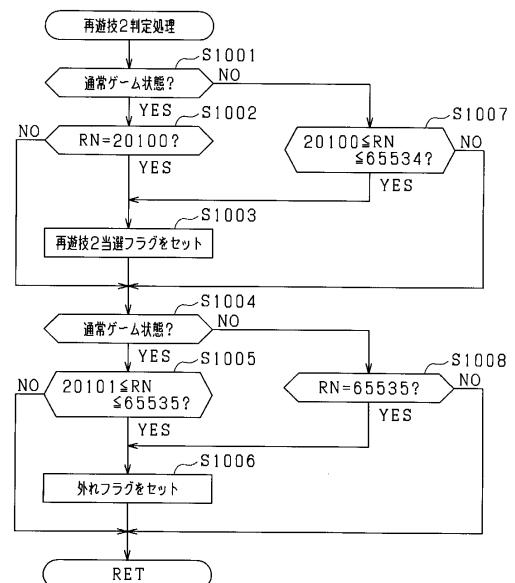
【図18】



【図19】



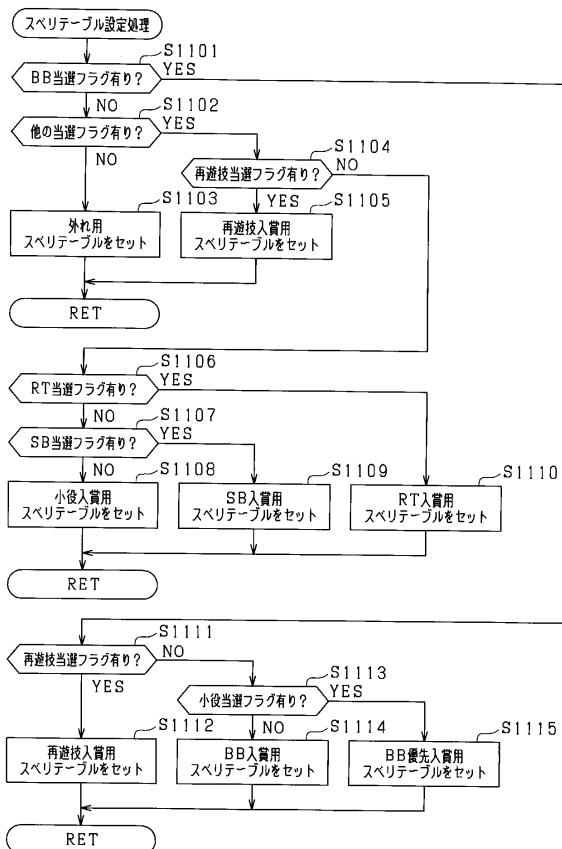
【図20】



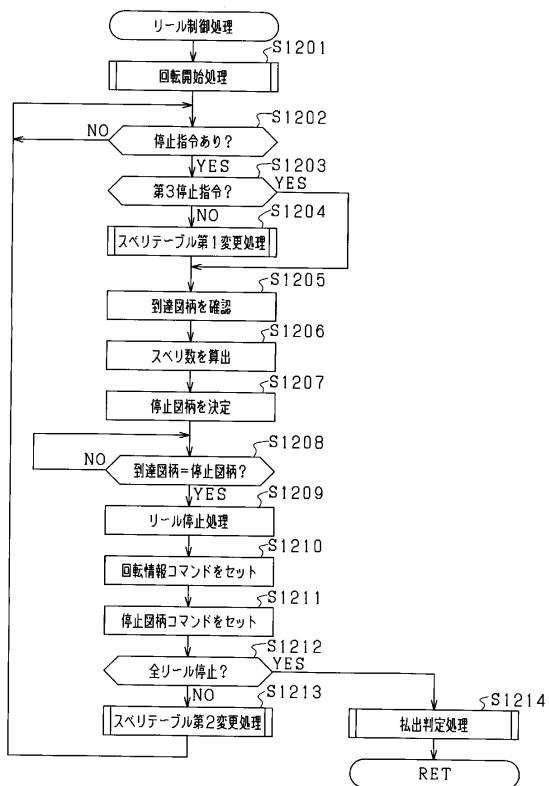
【図21】

	左滑り数	中滑り数	右滑り数
20	(R) 0		
19	(靴) 1		
18	CHANCE CHANCE	2	
17	(R) 0		
16	(靴) 1		
15	狼 0		
14	靴 1		
13	狼 2		
12	(R) 3		
11	靴 4		
10	狼 0		
9	Z 1		
8	Z 2		
7	(R) 3		
6	靴 4		
5	靴 0		
4	(R) 0		
3	靴 1		
2	狼 2		
1	靴 3		
0	狼 4		

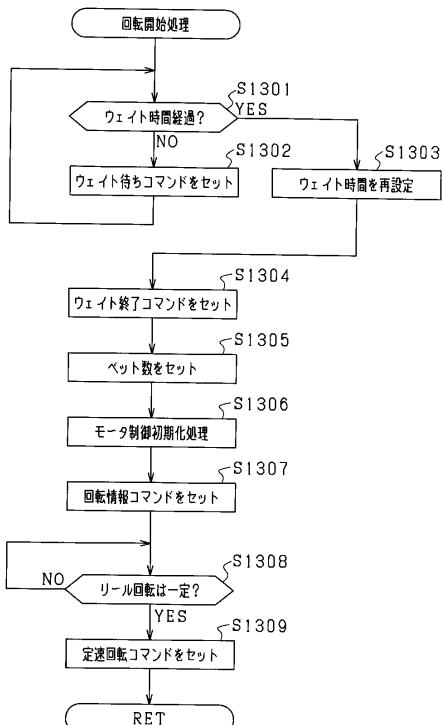
【図22】



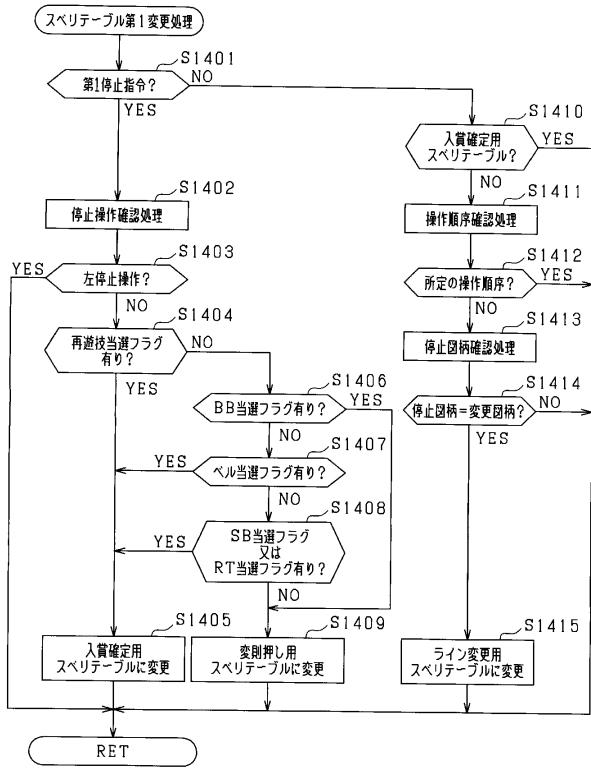
【図23】



【図24】



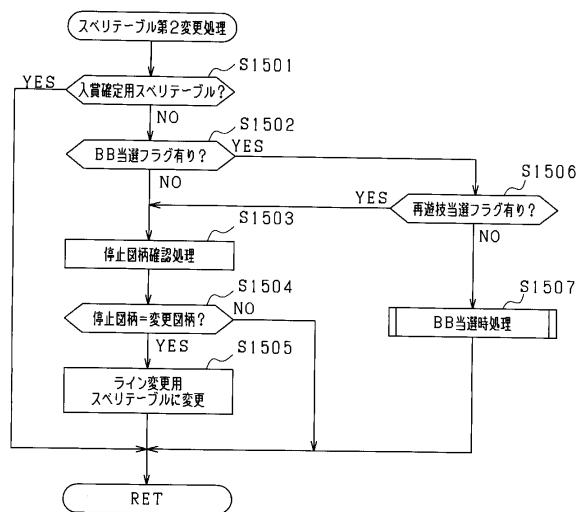
【図25】



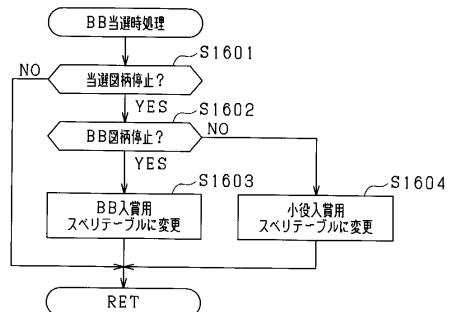
【図26】

	左滑り数	中滑り数	右滑り数
20	(R) 4	3	(S) 2
19	(R) 0	4	(R) 3
18	CHANCE CHANCE	1	(S) 0
17	(R) 2	1	(S) 1
16	(S) 0	2	CHANCE CHANCE
15	(S) 1	3	(R) 2
14	(S) 2	4	(R) 0
13	(S) 3	0	(S) 1
12	(R) 4	1	(R) 2
11	(S) 0	2	(S) 0
10	(S) 1	0	(S) 1
9	(S) 2	1	(S) 2
8	(S) 3	2	(S) 3
7	(R) 4	4	(R) 0
6	(S) 0	1	(S) 2
5	(S) 1	0	(S) 1
4	(R) 2	1	(S) 2
3	(S) 0	2	(S) 3
2	(S) 1	0	(R) 4
1	(S) 2	1	(S) 0
0	(S) 3	2	(S) 1

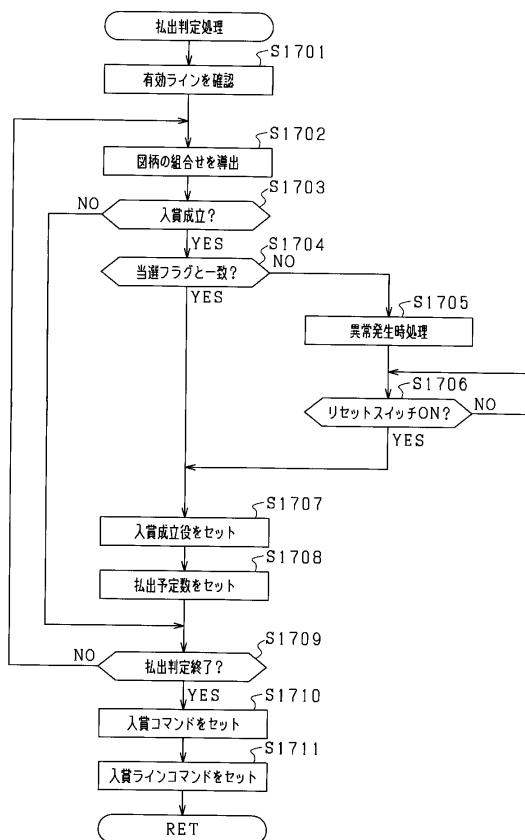
【図27】



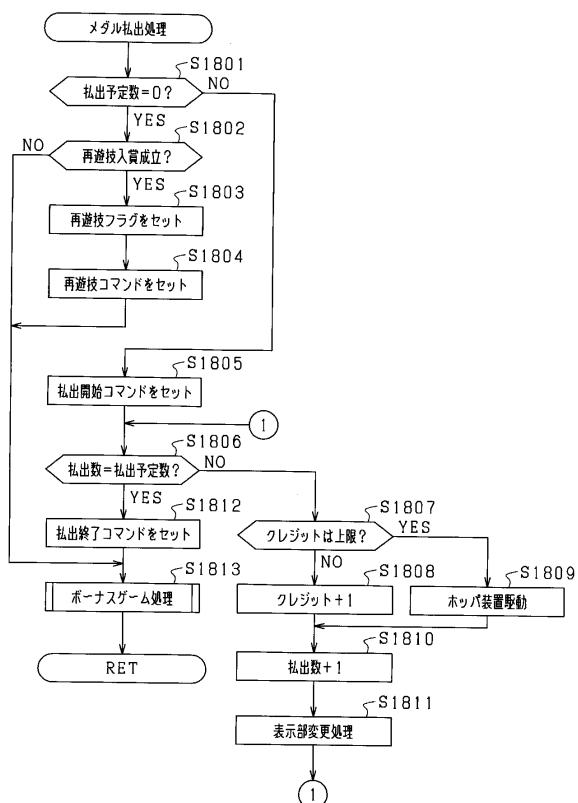
【図28】



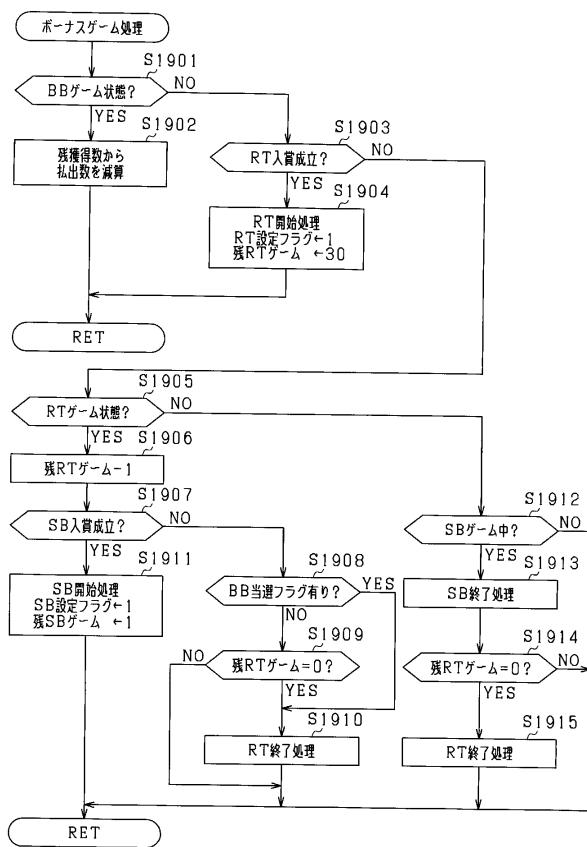
【図29】



【図30】



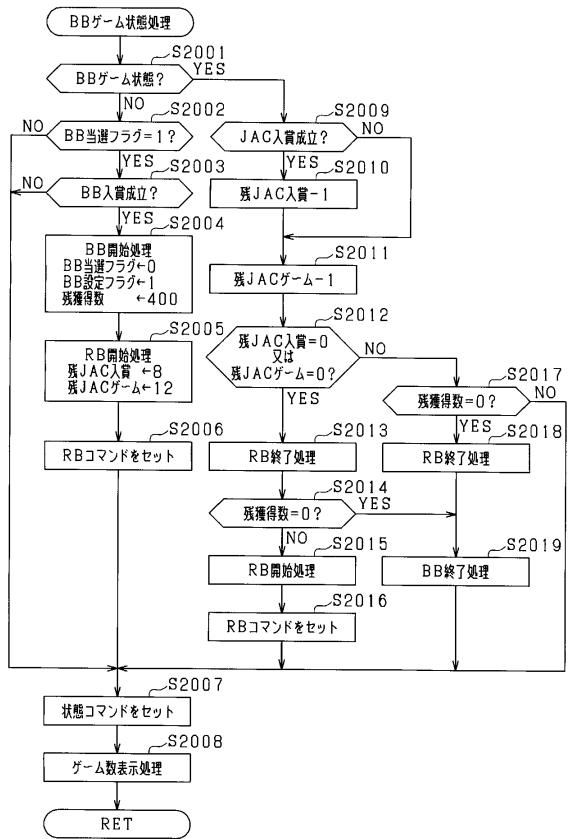
【図31】



【図32】

IV	当選役	LT
1	スイカ	0~511
2	ペル	512~9874
3	チェリー	9875~10387
4	BB	10388~10606
5	RT	10607~11119
6	SB	11120~20099
7	再遊技1	11120
8	再遊技2	20100~65534
9	外れ	65535

【図33】



フロントページの続き

審査官 岡崎 彦哉

(56)参考文献 特開2006-212114(JP,A)

特開2006-238919(JP,A)

特開2004-222873(JP,A)

特開2007-289487(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A 6 3 F 5 / 0 4